上ノ台遺跡(2)

単独道路改築(改良)事業(一般県道 根利八木原
大間々線)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

縄文時代集落遺跡の調査

2009

群馬県桐生土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

一般県道根利八木原大間々線は、赤城山の北東部を通過する県道です。このたび、水の神として崇敬をあつめる貴船神社付近の道路改築工事がおこなわれることになりました。この工事は、地元の方々や参拝者のより安全な通行を目的として、平成17年度からおこなわれています。

この道路は、かねてより縄文時代の遺跡として知られていた上ノ台遺跡を通過する計画であったことから、慎重な調整を行った結果、道路工事部分の発掘調査を行って埋蔵文化財の記録を残すことになりました。平成17年・平成20年度に上ノ台遺跡の発掘調査がこうして実施されました。本書は、平成20年度におこなわれた発掘調査の成果をまとめた調査報告書です。調査では、渡良瀬川左岸の河岸段丘にあった縄文時代前期と中期の竪穴住居の跡等がみつかりました。調査面積はわずかでしたが、段丘上に広がる縄文時代の集落の一端を明らかにすることができました。

本報告書が、地域の歴史解明のため多くの人々によって有効に活用されることを願い、また、発掘調査を実施するにあたり、多大なご理解とご協力をいただいた桐生土木事務所、みどり市教育委員会、地元の方々に心より感謝の意を表し、序といたします。

平成21年10月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　須　田　栄　一

例　言

1．本書は平成21年度単独道路改築(改良)事業(一般県道 根利八木原大間々線)に伴う上ノ台遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．上ノ台遺跡は、群馬県みどり市大間々町塩原大字上ノ台847-1、848-1、849-1、850-1、851-1番地に所在する。

3．発掘調査は、群馬県東部県民局桐生土木事務所の委託により、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。発掘調査時の組織体制は次の通りである。

期　　間　平成20年9月1日～平成20年9月30日

管理指導　高橋勇夫(理事長)、木村裕紀・津金澤吉茂(常務理事)、飯島義雄(調査研究部長)、原雅信(調査研究GL)、笠原秀樹(総務GL)、佐嶋芳明(経理GL)

事務担当　須田朋子(係長(総括))、齋藤恵利子(主幹(総括))、柳岡良宏(主幹)、矢島一美(副主幹)、齋藤陽子(主任)
今井もと子・若田　誠・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子・武藤秀典(補助員)

調査担当　齋藤　聡(主任調査研究員)

4．発掘資料の整理および報告書の作成は、群馬県東部県民局桐生土木事務所の委託により、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。整理・報告書作成の期間・体制は次の通りである。

期　　間　履行期間　平成21年7月1日～平成21年10月31日
整理期間　平成21年7月1日～平成21年　8月31日

管理指導　高橋勇夫・須田栄一(理事長)、木村裕紀(常務理事)、相京建史(事業局長)、笠原秀樹(総務部長)、飯島義雄(調査研究部長)、石坂茂(資料整理部長)、大木紳一郎(資料整理第2GL)、佐嶋芳明(経理GL)、

事務担当　須田朋子(係長(総括))、柳岡良宏(主幹(総括))、田口小百合・矢島一美(主幹)、高橋次代(主任)
今井もと子・若田　誠・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子・武藤秀典(補助員)

編　　集　小島敦子(主席専門員)

本文執筆　小島敦子(第1章～第4章1)、齋藤　聡(第3章)、山口逸弘(第4章2)、岩崎泰一(第4章3)

遺構写真　齋藤　聡

遺物写真　佐藤元彦(係長(総括))

遺物観察　縄文土器：山口逸弘(主任専門員(総括))、石器：岩崎泰一(主任専門員(総括))

保存処理　関　邦一(係長総括)、津久井桂一・多田ひさ子・増田政子(補助員)

器械実測　田所順子・木原幸子・岸　弘子・福島瑞希(補助員)

デジタル編集指導　齊田智彦(主任調査研究員)

デジタル写真図版作成　牧野裕美・市田武子・安藤美奈子・酒井史恵・廣津真希子・荒木絵美・高梨由美子・矢端真観・横塚由香・下川陽子(補助員)

委託業務　遺構平面測量：アコン測量設計株式会社
火山灰分析：株式会社 火山灰考古学研究所
放射性炭素年代測定および樹種同定：株式会社 火山灰考古学研究所

5．石材同定は飯島静男氏 (群馬県地質研究会会員) に依頼した。

6．発掘調査および本書の作成にあたり、下記の諸氏よりご助言を得た。記して感謝の意を表します。

荻原研一、竹内寛 (五十音順・敬称略)

群馬県教育委員会、みどり市教育委員会

7．記録資料・出土遺物は一括して群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡　例

1．上ノ台遺跡のグリッドの座標値は世界測地系国家座標（座標第Ⅸ系）を用いて測量した。グリッドＡ－１の座標は、Ｘ＝52.050km、Ｙ＝－51.340kmである。

2．本書における遺構番号は、調査時に付されたものをそのまま使用した。

3．遺構図の中で使用した北方位は、すべて座標北を使用している。

4．遺構図・遺物図の縮尺は、原則として以下の通りである。縮尺の異なるものが併載される場合は、それぞれにスケールを付した。

遺構図　住居１：60　住居炉１：30　土坑１：40　溝 1:80

遺物図　土器１：３　土器拓影１：３　石器・石製品１：３または１：２　大形石器１：６

小形石器１：１

5．遺物番号は出土遺構ごとの連番で、番号は本文・挿図・表・写真図版ともに一致する。

6．図中で使用したマークは以下のことを表す。

遺構図　土器▲　石器●　焼土　撹乱

遺物図　繊維包含縄文土器　石器磨り面

7．遺物写真図版の倍率は、土器は原則として１/４、石器のうち礫・剥片石器は大きさに応じて１/３あるいは１/２、石鏃等の小型のものは１/１に近づけるようにした。

8．遺物の重量の計測にあたっては6000ｇまでは１ｇ単位、20kgまでは50ｇ単位、20kg以上は100ｇ単位の秤を使用して計測した。

9．各地図の使用は以下のとおりである。

第１図　　国土地理院発行、20万分の１地勢図（長野・宇都宮）

第２図・第６図　みどり市発行　地形図　11・16

第７図　　国土地理院発行、２万５千分の１地形図「大間々」

10．各遺構の記述にあたっては以下のような点に留意して記述した。

住居　位置は、その遺構が含まれるグリッドをすべて記載した。形状は方形・円形に分類して記載した。規模は遺構確認面での上場で計測した。面積は床面積とし、住居の下場でプラニメーターの３回平均値を計測した。方位は長軸方向を計測した。重複は、重複する遺構とその新旧関係を述べた。埋没土は全体的傾向や特徴的な土塊・土粒について記述した。炉はそれぞれの位置と規模を記載し、遺存状態を述べた。周溝・柱穴等の住居施設については、検出された位置・規模・遺存状態を記述した。遺物は、住居全体の遺物の出土状態と特徴的な遺物について記述した。所見では各住居の調査から考えられることがらがあれば記述した。また出土遺物・重複関係等から、遺構の時期を土器型式名で表記した。

その他の遺構　土坑・溝等については、住居に準じて記述した。

目　次

序
例言
凡例

第１章　調査の経過
１．発掘調査に至る経緯 …… 1
２．発掘調査の方法 …… 3
（１）遺跡・調査区・グリッドの設定 …… 3
（２）基本土層 …… 4
（３）遺構確認と遺構調査 …… 5
（４）発掘調査の記録 …… 5
３．発掘調査の経過 …… 6
４．整理作業の方法と経過 …… 6
（１）整理作業の経過 …… 6
（２）遺物の整理 …… 7
（３）報告書の編集 …… 7

第２章　遺跡の立地と環境 ……
１．遺跡の位置と地形 …… 8
（１）みどり市大間々町の地形 …… 8
（２）上ノ台遺跡の立地 …… 9
２．周辺の遺跡分布 …… 9
３．上ノ台遺跡のこれまでの調査 11

第３章　検出された遺構と遺物
１．概要 …… 13
２．縄文時代の遺構と遺物 …… 15
（１）竪穴住居 …… 15
（２）土坑 …… 39
（３）ピット …… 47
３．時期不明の遺構と遺物 …… 49
４．遺構外の出土遺物 …… 51

第４章　調査のまとめ
１．遺構について …… 54
２．縄文土器について …… 54
３．石器について …… 55

第５章　自然科学分析報告
１．上ノ台遺跡の火山灰分析 …… 57
２．上ノ台遺跡の放射性炭素年代測定 …… 61
３．上ノ台遺跡の炭化材樹種同定 …… 62

遺構一覧・遺物観察表 …… 64

報告書抄録・参考文献 …… 74

写真図版

挿図目次

第１図　群馬県の地勢と上ノ台遺跡 …… 1
第２図　上ノ台遺跡の位置 …… 2
第３図　上ノ台遺跡のグリット …… 3
第４図　上ノ台遺跡の基本土層 …… 4
第５図　大間々町の地形面区分 …… 8
第６図　周辺の遺跡分布 …… 10
第７図　発掘区の位置 …… 12
第８図　Ａ区・Ｂ区全体図 …… 14
第９図　１号住居遺物出土状態 …… 15
第10図　１号住居 …… 16
第11図　１号住居出土遺物（１） …… 17
第12図　１号住居出土遺物（２） …… 18
第13図　１号住居出土遺物（３） …… 19
第14図　２号住居出土遺物 …… 20
第15図　２号住居 …… 21
第16図　３号住居炉 …… 22
第17図　３号住居 …… 23
第18図　３号住居出土遺物（１） …… 24
第19図　３号住居出土遺物（２） …… 25
第20図　３号住居出土遺物（３） …… 26
第21図　３号住居出土遺物（４） …… 27
第22図　３号住居出土遺物（５） …… 28
第23図　４号住居 …… 29
第24図　４号住居の柱穴と出土遺物（１） …… 30
第25図　４号住居出土遺物（２） …… 31
第26図　５号住居 …… 33
第27図　５号住居出土遺物 …… 34
第28図　６号住居と出土遺物 …… 35
第29図　７号住居と出土遺物（１） …… 36
第30図　７号住居出土遺物（２） …… 37
第31図　８号住居と出土遺物 …… 38
第32図　円形一断面袋状の土坑（１） …… 39
第33図　円形一断面袋状の土坑（２） …… 40
第34図　円形一断面袋状の土坑（３） …… 41
第35図　円形一断面箱形の土坑（１） …… 42
第36図　円形一断面箱形の土坑（２） …… 43
第37図　楕円形一断面箱形の土坑（１） …… 43
第38図　楕円形一断面箱形の土坑（２） …… 44
第39図　不整円形の土坑（１） …… 45
第40図　不整円形の土坑（２） …… 46
第41図　ピット（１） …… 47
第42図　ピット（２） …… 48
第43図　１号・２号溝 …… 49
第44図　時期不明の土坑 …… 50
第45図　遺構外の出土遺物（１） …… 52
第46図　遺構外の出土遺物（２） …… 53

図１　Ａ地点の土層柱状図 …… 60
図２　Ｂ地点の土層柱状図 …… 60

表目次

第１表　周辺遺跡の概要 …… 11
第２表　Ａ区１号住居ピット一覧表 …… 16
第３表　Ａ区２号住居ピット一覧表 …… 20
第４表　Ｂ区３号住居ピット一覧表 …… 22
第５表　Ｂ区４号住居ピット一覧表 …… 32
第６表　Ａ区５号住居ピット一覧表 …… 32
第７表　Ａ区６号住居ピット一覧表 …… 34
第８表　Ｂ区７号住居ピット一覧表 …… 36
第９表　Ａ区８号住居ピット一覧表 …… 37
第10表　遺構一覧表 …… 64
第11表　縄文土器出土破片一覧表 …… 65
第12表　縄文土器属性一覧表 …… 65
第13表　石器類一覧表 …… 69
第14表　石器類の種別と石材 …… 73

表１　テフラ検出分析結果 …… 60
表２　屈折率測定結果 …… 60

写真目次

ＰＬ１　１．遺跡全景(東から)
２．調査前の状況(北から)
３．発掘区遠景(北から)
４．発掘区前景(南から)
５．Ａ区全景(北から)
６．Ｂ区全景(南から)
ＰＬ２　１．表土掘削作業状況(北から)
２．遺構確認作業状況(北から)
３．Ｂ区東壁基本土層(西から)
４．Ａ区北壁基本土層(南から)
５．Ｂ区東壁基本土層観察作業(南西から)
６．地割れの土層断面(南から)
ＰＬ３　１．ＡＩＫ１号住居土層断面Ｂ-Ｂ´(南から)
２．ＡＩＫ１号住居遺物出土状態全景(西から)
３．ＡＩＫ１号住居中央部遺物出土状態(西から)
４．ＡＩＫ１号住居南部礫出土状態(東から)
５．ＡＩＫ１号住居検出土状態(南東から)
６．ＡＩＫ１号住居床面精査作業状況(南から)
７．ＡＩＫ２号住居床面全景(西から)
８．ＡＩＫ１号・２号住居底面全景(西から)
ＰＬ４　１．ＡＩＫ２号住居炉検出状況(北から)
２．ＡＩＫ２号住居炉土層断面(南から)
３．ＡＩＫ５号住居土層断面Ｂ-Ｂ´(南から)
４．ＡＩＫ５住居床面全景(西から)
５．ＡＩＫ５住居柱穴検出状況(西から)
６．ＡＩＫ５号住居Ｐ３土層断面(南から)
７．ＡＩＫ５住居炉検出状況(南西から)
８．ＡＩＫ５住居炉全景(南西から)
ＰＬ５　１．ＢＩＫ３号住居土層断面Ｂ-Ｂ´(南から)
２．ＢＩＫ３号住居遺物出土状態全景(北から)
３．ＢＩＫ３号住居遺物出土状態(南から)
４．ＢＩＫ３号住居土層断面Ａ-Ａ´(西から)
５．ＢＩＫ３号住居全景(北から)
６．ＢＩＫ３号住居炉全景(東から)
７．ＢＩＫ３号住居炉体土器(南東から)
８．ＢＩＫ３号住居炉立ち割り(東から)
ＰＬ６　１．ＢＩＫ３号住居炉土層断面Ａ-Ａ´(東から)
２．ＢＩＫ３号住居炉土層断面Ｂ-Ｂ´(南から)
３．ＢＩＫ３号住居炉体土器内土層断面(南から)
４．ＢＩＫ３号住居炉体土器内完掘状況(東から)
５．ＢＩＫ３号住居炉底面焼土(東から)
６．ＢＩＫ３号住居炉体土器底面焼土(東から)
７．ＢＩＫ３号住居Ｐ１土層断面(西から)
８．ＢＩＫ３号住居Ｐ１完掘状況(北西から)
ＰＬ７　１．ＢＩＫ３号住居Ｐ２土層断面(西から)
２．ＢＩＫ３号住居Ｐ２完掘状況(南西から)
３．ＢＩＫ４号住居土層断面Ｂ-Ｂ´(南から)
４．ＢＩＫ４号住居土層断面Ａ-Ａ´(西から)
５．ＢＩＫ４号住居全景(西から)
６．ＢＩＫ４号住居床面全景(東から)
７．ＡＩＫ６号住居土層断面Ｂ-Ｂ´(西から)
８．ＡＩＫ６号住居土層断面Ａ-Ａ´(南から)
ＰＬ８　１．ＡＩＫ６号住居遺物出土状態全景(南から)
２．ＡＩＫ６号住居床面全景(南から)
３．ＡＩＫ７号住居土層断面Ａ-Ａ´(南西から)
４．ＢＩＫ７号住居遺物出土状態全景(北西から)
５．ＢＩＫ７号住居南東壁際遺物出土状態(北西から)
６．ＢＩＫ７号住居床面全景(南東から)
７．ＡＩＫ８号住居炉検出状況(北から)
８．ＡＩＫ８号住居全景(西から)
ＰＬ９　１．ＡＩＫ８号住居Ｐ１全景(東から)
２．ＡＩＫ８号住居Ｐ２土層断面(南から)
３．ＡＩＫ８号住居Ｐ２全景(南から)
４．ＡＩＫ８号住居Ｐ３全景(北から)
５．ＡＩＫ８号住居Ｐ４土層断面(南から)
６．ＡＩＫ８号住居Ｐ４全景(南から)
７．ＡＩＫ２号土坑土層断面(南から)
８．ＡＩＫ２号土坑全景(西から)
９．ＡＩＫ４号土坑全景(東から)
10．ＡＩＫ７号土坑土層断面(西から)
11．ＡＩＫ７号土坑全景(西から)
12．ＡＩＫ11号土坑土層断面(南西から)
13．ＡＩＫ11号土坑全景(北西から)
14．ＡＩＫ14号土坑全景(西から)
15．ＢＩＫ25号土坑全景(東から)
ＰＬ10　１．ＡＩＫ27号土坑土層断面(北から)
２．ＡＩＫ27号土坑全景(南から)
３．ＡＩＫ29号土坑土層断面(南から)
４．ＡＩＫ29号土坑全景(南から)
５．ＡＩＫ３号土坑全景(東から)
６．ＡＩＫ８号土坑土層断面(南西から)
７．ＡＩＫ18・19号土坑全景(東から)
８．ＢＩＫ21号土坑土層断面(東から)
９．ＢＩＫ21号土坑全景(南から)
10．ＢＩＫ26号土坑土層断面(北から)
11．ＢＩＫ26号土坑全景(東から)
12．ＡＩＫ１号土坑全景(東から)
13．ＡＩＫ５号・６号土坑全景(西から)
14．ＡＩＫ22号・23号土坑土層断面(南東から)
15．ＡＩＫ22号・23号土坑全景(南東から)
ＰＬ11　１．ＡＩＫ９号土坑土層断面(南から)
２．ＡＩＫ９号土坑全景(北から)
３．ＡＩＫ10号土坑土層断面(南から)
４．ＡＩＫ10号土坑全景(南西から)
５．ＡＩＫ12号土坑土層断面(南西から)
６．ＡＩＫ12号土坑全景(南西から)
７．ＡＩＫ13号土坑土層断面(南西から)
８．ＡＩＫ13号土坑全景(南から)
９．ＡＩＫ15号土坑土層断面(南西から)
10．ＡＩＫ15号土坑全景(南西から)
11．ＡＩＫ16号土坑土層断面(南西から)
12．ＡＩＫ16号土坑全景(南西から)
13．ＡＩＫ24号土坑土層断面(北から)
14．ＡＩＫ24号土坑全景(北から)
15．ＡＩＫ１号ピット土層断面(南から)
ＰＬ12　１．ＡＩＫ１号ピット全景(南から)
２．ＡＩＫ２号ピット土層断面(南から)
３．ＡＩＫ２号ピット全景(南から)
４．ＡＩＫ３号ピット土層断面(南から)
５．ＡＩＫ３号ピット全景(南から)
６．ＡＩＫ５号ピット土層断面(南から)
７．ＡＩＫ５号ピット全景(南から)
８．ＡＩＫ９号ピット土層断面(南から)
９．ＢＩＫ11号ピット土層断面(南から)
10．ＢＩＫ11号ピット全景(西から)
11．ＡＩＫ17号土坑土層断面(南から)
12．ＡＩＫ17号土坑全景(南から)
13．ＡＩＫ17号土坑底面全景(東から)
14．ＡＩＫ20号土坑土層断面(南から)
15．ＡＩＫ20号土坑底面全景(南から)
ＰＬ13　１．ＡＩＫ20号土坑底面調査状況(東から)
２．ＡＩＫ１号溝土層断面(南西から)
３．ＡＩＫ１号溝全景(北東から)
４．ＢＩＫ２号溝全景(西から)
５．埋め戻し作業状況(北西から)
６．調査完了状況(南から)
ＰＬ14～18　住居出土遺物
ＰＬ19　土坑出土遺物
ＰＬ20　ピット・遺構外出土遺物
写真1　上ノ台遺跡の炭化材 …… 63

第１章　調査の経過

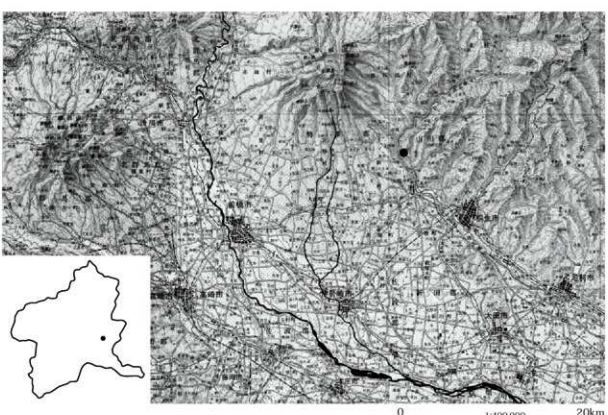
１．発掘調査に至る経緯

上ノ台遺跡は、みどり市大間々町のほぼ中央部、渡良瀬川左岸の河岸段丘上に立地する。標高は239～240 mである。本遺跡の北西約300 mには「わたらせ渓谷鉄道」上神梅駅が、北約300 mには貴船神社が所在する。遺跡は一般県道根利八木原大間々線の改良工事に伴って発掘調査された。

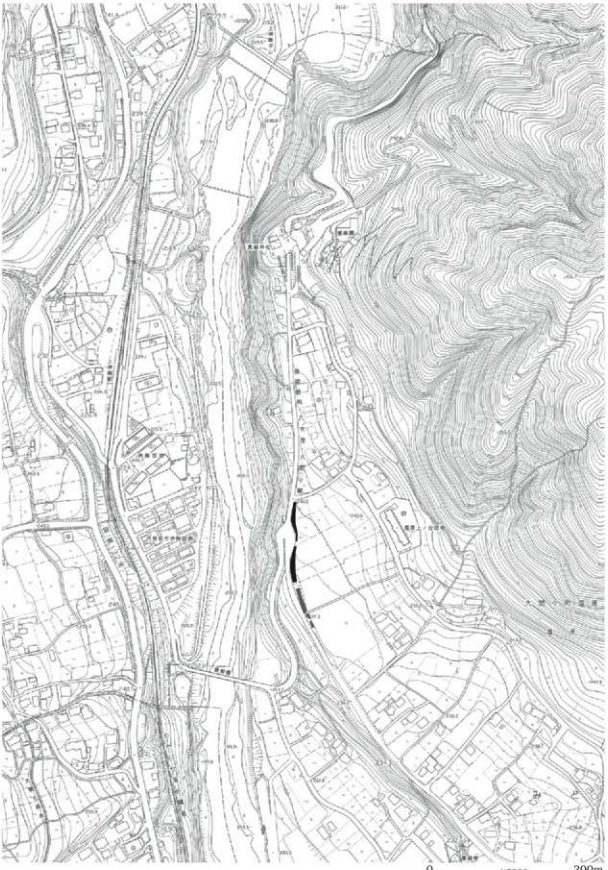
一般県道根利八木原大間々線は、群馬県北東部を通過する県道257号線で、沼田市利根町根利から桐生市黒保根町八木原を経由して、みどり市大間々町塩原にいたる。大間々町塩原地区には貴船神社があるが、神社から南東約600 m区間には歩道もなく道路幅も狭い箇所があることが問題となっていた。そこで人々が安全に通行できる周辺道路整備を目的に、平成９年度に測量と詳細設計がなされた。

この工事に先立ち、路線内の埋蔵文化財について県土整備局監理課より県教育委員会文化課に照会があり、県教育委員会文化課が予備調査として路線内の埋蔵文化財包蔵地「上ノ台遺跡」確認調査を実施した。調査は平成16年７月・平成17年１月に実施し、工事対象地約640㎡のうち、約200㎡において遺跡が確認された。これを受けて平成17年１月より、桐生土木事務所と県教育委員会文化課が協議を進め、平成17年５月に県教育委員会文化課が発掘調査を実施した。

さらに路線の北側に接して２期工事が開始されることとなり、平成18年２月に県教育委員会文化課が試掘調査を実施した。調査では工事対象地全域に遺構が検出され、平成20年９月に財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が580㎡の発掘調査を受託して本調査を実施することとなった。



第１図　群馬県の地勢と上ノ台遺跡



第２図　上ノ台遺跡の位置

2．発掘調査の方法

(1) 遺跡・調査区・グリッドの設定

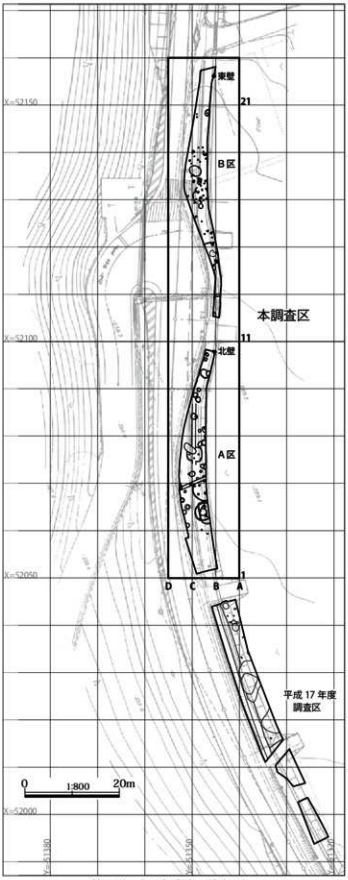
遺跡名は周知の名称である「上ノ台遺跡」を踏襲し、報告書は、本事業関連の２冊目の報告書となることから、『上ノ台遺跡（2）』とした。

発掘対象地は、道路の東側の拡張部分であるため細長く道路のカーブに沿っていて、発掘区は不定型な形状となった。また、ほぼ中央に既存の農道が横断していることから、これを境にＡ区・Ｂ区の二つの発掘区に分けて調査した。遺構は両発掘区から検出されたが、遺構番号は通し番号とした。したがって調査工程によりＡ区・Ｂ区に遺構番号が混在している場合もある。

両発掘区ともほぼ平坦な段丘面であるが、北側のＢ区の北端部は谷部への傾斜面となっていた。Ａ区の北壁およびＢ区北端東壁に基本土層観察用のトレンチを設定した。

平面図を記録する測量用のグリッドは５m四方のグリッド網を設定した。グリッド名称は南東隅の交点をあて、東から西へＡからＤ、南から北へ１～22とした。グリッドの座標値は、世界測地系国家座標第Ⅸ系を用いて測量し、Ａ－１がＸ＝52.050km、Ｙ＝－51.340kmである。(第３図)

平成17年度調査区は第３図に示したとおり、南側に接している。なお、本図の座標値は、17年度報告書第４図掲載の座標値とは異なっているが、これは17年度報告書データを世界測地系の座標で統合したためである。



第３図　上ノ台遺跡のグリット

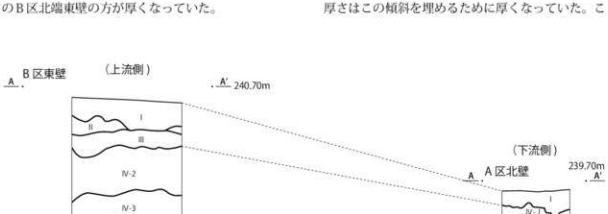
（２）基本土層

上ノ台遺跡の基本土層は、平坦面と北端の谷部傾斜面では異なっている。そこで、平坦面のほぼ中央部にあたるＡ区北壁と、谷部傾斜面のＢ区北端東壁で、それぞれの基本土層を記録した。

基本土層を記録した二地点は 60 mほど離れている。Ｂ区北端北壁が上流側にあたり、地表面の標高は約１mほど高くなっている。両地点とも厚さ 20 ～ 30cm ほどの表土（Ⅰ層）があるが、その下位の黒褐色土（Ⅱ層）および浅間Ｃ軽石 (As-C) を含む黒色土（Ⅲ層）の堆積はＢ区北壁にのみ確認された。その下位の淡色黒ボク土（Ⅳ層）、ローム漸移層（Ⅴ層）はやや夾雑物等の違いは見られたが、両地点に共通して堆積していた。しかしⅣ層の堆積は上流側のＢ区北端東壁の方が厚くなっていた。

Ⅵ層以下は関東ローム層である。Ｂ区北端東壁のⅥ層には浅間板鼻黄色軽石層 (As-YP) がパッチ状に認められた。Ⅵ層の上面はほぼ水平であり、当時はほとんど傾斜のない地形であったと推定されが、北端部は北側にやや傾斜が見られた。遺構確認はⅤ層上面では明確でなかったので、Ⅵ層上面で実施した。Ⅶ層はＡ区北壁では認められなかった。Ｂ区北端東壁ではⅦ層に大窪沢テフラ群 (As-OK Group) が含まれていた。Ⅷ層はＡ区北壁のみで認められた。

Ⅸ層は両地点で認められたローム層で、浅間板鼻褐色軽石群 (As-BP Group) に対比できる軽石層がパッチ状に認められた。Ⅸ層上面の標高はＢ区北端東壁のほうが低く、地形が北側に傾斜していたことを示している。Ｂ区北端東壁のⅥ・Ⅶ層の厚さはこの傾斜を埋めるために厚くなっていた。こ



Ⅰ．黒褐色土　10YR2/2 表土（現代の耕作土）
Ⅱ．黒褐色土　10YR2/2 直径 2mm 以下の白色軽石、直径 2mm 以下の黄褐色軽石をわずかに含む。やや硬く締まっている。
Ⅲ．黒色土　10YR2/1 直径 3mm 以下の白色軽石をわずかに含む。直径 3mm 以下の黄褐色軽石を少量含む。やや粘性がある。
Ⅳ-1．暗褐色土　10YR3/4 直径 10mm 以下のローム塊、炭化物粒をわずかに含む。
Ⅳ-2．黒褐色土　10YR2/3 炭化物粒をわずかに含む。粘性がある。
Ⅳ-3．黒褐色土　10YR2/2 炭化物粒をわずかに含む。非常に粘性がある。
Ⅴ-1．褐色土　10YR4/6 Ⅳ-1 層と Ⅳ-2 層の混合土。炭化物粒をわずかに含む。やや硬く締まっている。
Ⅴ-2．暗褐色土　10YR3/3 白色・黄褐色等の微細な粒子を含む。非常に粘性があり、硬く締まっている。
Ⅴ-3．暗褐色土　10YR3/3 ソフト層を主体とし、直径 20mm 以下のⅥ層土塊をやや多く含む。やや粘性があり、硬く締まっている。
Ⅵ．黄褐色土　10YR5/6 直径 5mm 以下の明黄褐色軽石、直径 20mm 以下の山砂礫を含む。直径 3mm 以下の白色軽石？をわずかに含む。やや粘性があり硬く締まっている。
Ⅶ．黄褐色土　10YR5/8 直径 2mm 以下の白色軽石？を少量含む。粘性があり、硬く締まっている。
Ⅷ．黄褐色土　10YR5/6 白色・黒色・明黄褐色等の微細な粒子を少量含む。炭化物粒をわずかに含む。やや硬く締まっている。
Ⅸ．黄褐色土　10YR5/6 白色・黒色・明黄褐色等の微細な粒子をやや多く含む。炭化物粒をわずかに含む。やや硬く締まっている。
Ⅹ．黄褐色土　10YR5/6 白色・黒色・明黄褐色等の微細な粒子を少量含む。直径 5mm 以下の炭化物粒を少量含む。硬く締まっている。
Ⅺ．褐色土　10YR4/4 直径 5mm 以下の明黄褐色軽石、白色の微細な粒子、直径 30mm 以下の礫、直径 5mm 以下の炭化物粒をやや多く含む。硬く締まっている。
Ⅻ．褐色土　10YR4/4 直径 5mm 以下の明黄褐色軽石、白色の微細な粒子、直径 30mm 以下の礫、炭化物粒少量含む。硬く締まっている。
XIII．褐色土　10YR4/4 直径 50mm 以下の礫をやや多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり、やや硬く締まっている。
XIV．60 褐色　10YR4/6 Ⅺ層以下は軽石、下は軽石、最大直径 300mm の礫を含む。下位は非常に硬く締まっている。
XV．にぶい黄褐色土 10YR5/4 砂を多く含み、非常に硬く締まっている。直径 10mm 以下の明黄褐色軽石をやや多く含む。

第４図　上ノ台遺跡の基本土層

の傾斜は段丘面上の埋没谷の南端にあたると推定される。発掘区東側の果樹園には湧水があったとの情報もあることから、B区の北側に段丘を開析する谷地の存在が推定されよう。

B区北端東壁ではⅩ層上位以下は掘削機のアームが届かなかったのでそれ以下の掘削を断念した。A区北壁ではⅨ層以下硬く締まったローム層が堆積していたが、ⅩⅢ層で姶良Tn火山灰(AT)が検出された。また、またⅩ層からⅩⅡ層には炭化物が多く含まれており、ⅩⅠ層から出土した炭化物の放射性年代測定と樹種同定をおこなったところ、補正^{14}C年代で23470±140yBP、トウヒ属－カラマツとの分析結果が出ている。

(3) 遺構確認と遺構調査

上ノ台遺跡では、基本土層のⅥ層上面を遺構検出面として調査を行った。まず、大型掘削機を用いて、A区の南端から北へ向かって、基本土層Ⅰ～Ⅴ層を10～50cmの厚さで除去していった。続いてB区でも同様に、南端から北へ向かって大型掘削機による掘削を行った。ただし、B区においては南から北に向かってⅥ層が落ち込んでおり、調査区北端では現地表面からおよそ1.6mの深さにまで達していた。B区では浅間C軽石（As-C）混土が堆積しており、古墳時代以降の遺構確認面が存在する可能性もあったが、周辺で古墳時代・古代の遺物の出土が無かったことから、Ⅵ層上面まで掘り下げた。

その後、ジョレンを用いて人力による遺構確認作業を行った。この作業も、A区の南端から北へ向かって行った。この間に出土した遺物は、A区、B区それぞれ一括で取り上げ、「表土」と記載した。また、これらの遺物とは別に、調査開始時には既に道路際に集められていた遺物があった。これらの遺物は、発掘調査によって出土した遺物と分けるため、「表採」と記載した。

遺構確認作業と並行しながら、遺構調査を開始した。遺構調査にあたっては、竪穴住居、溝、土坑、ピットそれぞれに、効率的な調査を心掛けた。土坑とピットの区別については、便宜的に平面形状が円形で直径60cm以上のものを土坑、それ未満のものをピットとした。

これらの遺構の調査が終了した後、2m×2mのトレンチをA区で3箇所（A～Cトレンチ）、B区で2箇所（D・Eトレンチ）設定し（第8図）、旧石器時代の試掘調査を行ったが、遺構、遺物ともに検出されなかった。しかし、今回の基本土層の観察において、浅間板鼻黄色軽石(As-YP)、大窪沢テフラ群(As-OK Group)、浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group)、姶良Tn火山灰(AT)などの更新世のテフラの存在が明らかになり、本遺跡が立地する段丘面の形成年代を考えるうえで重要な資料を得ることができた。

(4) 発掘調査の記録

発掘調査にあたっては、図面・写真および調査所見メモを記録した。

図面は各遺構の断面図と平面図を作成した。平面図は20分の1の縮尺により電子平板測量委託し作成した。また、住居は20分の1、炉は10分の1で平面図を作成した。断面図は平面図と同じ縮尺で作成した。

各遺構の埋没状況については、土層観察用のベルトを設定し、すべての遺構で土層断面図を作成した。土層の注記は、全体の土層の色調や硬さを記載し、特徴的な夾雑物とその相対的な量を記載した。基本土層を実測した土層断面では遺構・遺物を理解するにあたって必要不可欠であるので、土壌のテフラ分析を委託し、記載した。

遺構写真は、ブローニーモノクロフィルムを用いた6×7カメラおよび35㎜デジタルカメラで、撮影対象・撮影日・撮影方向を添付し、撮影した。発掘区の全景写真は高所作業車により撮影した。撮影した銀塩写真はベタ焼きを遺構ごとに整理し、撮影対象・撮影日・撮影方向を記入したネガ検索台紙を作成した。デジタル写真は保存用のＲＡＷ形式と、遺構名でリネームしたＪＥＧ形式に保存してある。

調査所見メモは遺構全体図コピーに直接、遺構調査時の所見を記載してある。

また、ＸＩ層出土の炭化材については放射性炭素年代測定および樹種同定を委託して実施した。

３．発掘調査の経過

上ノ台遺跡の発掘調査は平成 12 年９月１日から 30 日まで実施した。調査経過の概略は次の通りである。

９月　１日 表土掘削開始。柵設置等の環境整備。
９月　２日 Ａ区１号住居・１号溝調査開始。
Ｂ区基本土層調査。写真撮影。
９月　３日 Ａ区基本土層調査。Ａ区基本土層写真撮影。土壌分析試料採取。
９月　４日 Ａ区５号住居調査開始。土坑・ピット調査開始。Ａ区１号溝土層断面写真撮影。Ａ区土坑土層断面写真撮影。
９月　５日 Ａ区土坑・ピット・６号住居土層断面写真撮影。
９月　８日 Ｂ区３号住居調査開始。Ａ区土坑・ピット全景写真撮影。Ａ区６号住居全景写真撮影。
９月　９日 Ａ区２号住居調査開始。Ａ区１号住居・土坑・ピット土層断面写真撮影。
９月 10 日 Ａ区測量開始。６号住居調査開始。Ａ区１号・２号住居遺物出土状態全景写真撮影。Ａ区土坑・ピット写真撮影。Ｂ区４号住居調査開始。
９月 11 日 Ｂ区４号住居･土坑調査開始。Ａ区土坑･ピット・６号住居写真撮影。Ｂ区土坑土層断面写真撮影。
９月 12 日 Ｂ区７号住居調査開始。Ａ区５号住居・Ｂ区３号・４号・７号住居写真土層断面写真撮影。
９月 16 日 Ｂ区測量開始。Ａ区１号・２号住居全景写真撮影。Ａ区５号住居・Ｂ区３号・４号・７号住居遺物出土状況全景写真撮影。
９月 17 日 調査区全景写真撮影。Ｂ区土坑土層断面写真撮影。
９月 18 日 Ａ区５号住居・Ｂ区４号・７号住居全景写真撮影。Ａ区８号住居焼土検出状況写真撮影。Ａ区旧石器試掘調査開始。
９月 19 日 Ａ区１号・２号・５号住居全景写真撮影。Ｂ区３号住居全景写真撮影。Ｂ区旧石器試掘調査開始。
９月 24 日 Ａ区８号住居全景写真撮影。
９月 25 日 Ｂ区３号住居炉体土器全景写真撮影。
Ａ区・Ｂ区旧石器試掘トレンチ写真撮影。撤収準備。
９月 29 日 調査区埋め戻し作業。器材搬出。
９月 30 日 調査終了。撤収

４．整理作業の方法と経過

（１）整理作業の経過

上ノ台遺跡の発掘調査成果・出土資料の整理作業および報告書編集作業は、平成 21 年７月１日～平成 21 年９月 30 日に実施し、平成 21 年度に報告書を刊行した。

整理作業は、①遺物の分類・掲載遺物の選択・実測図作成・遺物観察・トレース、②遺物写真撮影、③遺構図面の修正編集トレース作業、③遺構・遺物写真の補正および写真図版のデジタル編集作業、④観察記録や所見等の本文原稿執筆、⑤全体のデジタル組版をおこなった。

遺物整理は、主として縄文時代の遺構から出土した土器や石器の遺物類収納箱 14 箱分を対象とした。概ね７月上旬に、土器・石器の分類・接合・復元作業をおこない、報告書掲載遺物を選択して写真撮影をおこなった。遺物写真は、写真室でデジタル写真撮影を行い、デジタルデータ処理のためのファイル名の整理、サイズ調整をおこない、画質調整作業および組版作業に着手した。中旬以降は三次元計測器

や長焦点の実測用写真撮影を併用しながら、実測作業をおこなった。7月下旬には遺物図のトレース作業をおこなった。

遺構図面については、7月に現場で地上測量したデジタルデータの修正編集作業と、手実測した土層断面図のデジタルトレース図を作成した。

遺構写真については、発掘調査で撮影したデジタル写真から掲載写真を選択し、インデザインで仮レイアウトを作成した。選択した写真はサイズ調整・レベル補正を実施して、仮レイアウトのデータと置き換えて、写真図版の原稿データを作成した。

8月下旬には、デジタルデータで報告書の組版作業を開始した。本文・遺物観察表等の原稿は上記作業と平行して執筆した。8月末には作成した印刷原稿データの推敲・校正・編集修正を実施した。

また遺物管理台帳を作成し、活用に備えて遺物や資料類の収納作業をおこなった。

(2) 遺物の整理

遺物整理の対象としたのは、土器・石器あわせて遺物収納箱14箱分である。

土器は遺構ごとに接合を行った。接合作業は接合状況および遺構内の遺物出土状況を平面図および写真と確認しながら実施した。遺構内から出土した遺物は遺構外で出土した同時期同型式の遺物とも接合を試みた。

次に遺物出土状態や個体数・形態差・構成比等を勘案し、報告書に掲載する遺物を選択した。今回選択した土器は197点である。選択できなかった土器は遺構ごとに型式を分類し、計数して収納した。

報告書掲載土器は復元し、写真撮影をおこなった。遺物写真は当事業団写真室でデジタルカメラを用いて撮影した。

土器実測図は等倍で作成した。完形に近い土器はスリースペースシステムで測点し、その印刷出力図を補測・製図した。破片の土器は断面実測をおこない、縄文原体や文様が読み取れるように留意して採拓した。土器のトレースはロットリングでおこなった。拓本とトレースは台紙に貼付し、スキャニングし縮小してデジタルデータとした。

土器の観察は表形式にまとめた。色調は『標準土色帖』の色名を用いて記載し、器形実測できた土器の口径・底径・高さは実測図から計測した。胎土は特徴的な夾雑物を中心に記載した。土器の特徴は文様および整形技法を属性表に記載した。遺跡全体の土器様相についてはまとめて第4章に記載した。

石器類は遺構の内外から出土したが、出土位置を確認しながら、全点を石器、剥片、礫・礫片に形態分類した。石器は98点が分類されたが、器種を網羅するように選択し、68点を報告書掲載対象として抽出した。剥片、礫・礫片は出土位置ごとに計数し収納した。

石器の実測図は大型品1/2、その他は等倍で作成した。石器を長焦点カメラで撮影し、その印刷出力図を補測・製図した。トレースは墨入れでおこない、一部の拓本とともにスキャニングして縮小しデジタルデータ化した。

石器の属性－長さ・幅・厚さ・重さ・石材等は表形式にまとめた。石材の同定は群馬県地質研究会の飯島静男氏に依頼した。形状・調整加工の特徴については、遺跡全体でまとめて第4章で述べた。

以上のような作業を通して資料化し、何らかの形で本書中に掲載した資料は、土器197点、石器98点である。

(3) 報告書の編集

全体図や遺跡位置図・遺跡分布図等はアドビ社のイラストレーターで作成しEPSデータとした。デジタルデータ化した地図類・遺構図・遺物図および写真はアドビ社のインデザインにより組版した。本文原稿・表原稿も同様に組版し、報告書全体のフルデジタル印刷原稿を作成した。

第２章　遺跡の立地と環境

１．遺跡の位置と地形

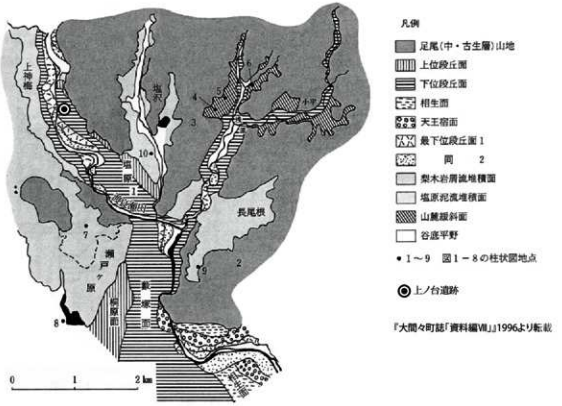
(１) みどり市大間々町の地形

上ノ台遺跡は、群馬県東部の赤城山麓と足尾山地、そして大間々扇状地扇頂部が接する地点に位置する。赤城山麓と足尾山地の間には渡良瀬川が流下しており、山地から平地に地形が変換する谷口以南に大間々扇状地という大きな扇状地が形成されている。上ノ台遺跡のあるみどり市大間々町の地形は、これらの地形面と渡良瀬川との関係から、３地域に分けられている。

渡良瀬川右岸地域は、赤城山麓の丘陵性台地と渡良瀬川によって形成された河岸段丘からなる地域である。ここでは赤城山の噴火の際に流出した輝石安山岩が厚く堆積し、その上に関東ローム層が堆積している。北・西に山並みを背負い、東・南に開けたこの地域は、旧石器・縄文時代や古代の遺跡が認められる。

渡良瀬川左岸地域は、足尾山地の西端を形成する尾根の地域である。ここでは秩父中・古生層と足尾層群と呼ばれる古い岩層を基盤とし、それらを覆う関東ローム層と黒色土が堆積している。この地域は右岸地域と同じ山間地であるが、小平川・塩沢川などの小河川が山間深くまで開析しており、水系と平坦な地点を形成していることから、比較的多くの縄文時代・平安時代の遺跡が分布している。

大間々扇状地地域は、渡良瀬川が平地に出た地点に形成された扇状地の扇央部分にあたる。大間々扇状地全体は伊勢崎市と太田市を結ぶ線を扇端部とする大規模な地形面で、大間々町部分はその扇頂部にあたる。扇状地の基盤は厚い砂礫層からなり、その上に中部ローム層が堆積した古期扇状地面（１面・



第５図　大間々町の地形面区分

桐原西）が桐原地区に、上部ローム層が堆積した新期扇状地面（Ⅱ面・薮塚面）が市街地地区に分布している。乏水地域のため、遺跡はほとんど分布しないが、丘陵と扇状地面との接点には湧水があり、その下流には帯状の沖積地が形成されている。桐原地区には大間々町唯一の古墳があり、小規模な開発が古墳時代以降行われたことを示している。（第６図）

（２）上ノ台遺跡の立地

上ノ台遺跡は、上記３地域のうち、渡良瀬川左岸の足尾山地裾部に形成された河岸段丘上に立地する。遺跡周辺には、東方にある小平川・塩沢川などのような山地を開析する小河川はないが、渡良瀬川が大きく湾曲する左岸に比較的広く平坦な段丘面が形成されている。上ノ台遺跡が立地するこの段丘面は、「下位段丘面」と呼ばれている。

みどり市大間々町の渡良瀬川両岸の河岸段丘については、『大間々町誌基礎資料Ⅷ』で澤口宏氏によって更新世の段丘２面、完新世の段丘２面の合計４面に分けられている。

更新世の「上位段丘」は、渡良瀬川左岸塩原字高松地域および貴船神社付近にのみ分布する。上位段丘礫層の上ノ台遺跡には厚さ約 5.5 mのテフラがのっており、礫層直上に厚さ 1.4 mの湯の口軽石層が堆積しているので、上位段丘面は中部ローム層に覆われる地形面とされている。

「下位段丘」は、左岸では塩原字上ノ台から字中村・下ノ谷戸、右岸では上神梅から下神梅にかけて断続的に分布している。澤口氏は、下位段丘上のテフラは町内で直接観察することはできなかったとされているが、新栄橋付近で礫層最上部の上部ローム層基底に板鼻褐色軽石粒が含まれていたことや、黒保根村宿廻の本面では、礫層最上部の厚さ 30 mの砂層に板鼻褐色軽石粒が含まれ、その上に厚さ 35cmのローム層が堆積していたことが報告されている。また、この下位段丘面は右岸桐原地区の大間々扇状地薮塚面（Ⅱ面）に連続する地形面であるとされている。

完新世の２面は、最下位段丘群１面・Ⅱ面と呼ばれている。左岸では塩原字下ノ台、右岸では上神梅東部および桐原東部戸沢団地付近に分布する。それぞれの地点で二つに分けられる。最下位段丘面には更新世のテフラは全く存在せず、完新世の地形面とされている。

上ノ台遺跡が立地する下位段丘の堆積物については、これまで詳細なデータがなかったことから、今回の調査では、今後の調査の指針とするために段丘堆積物の基本的な地層とテフラの分析を実施した。

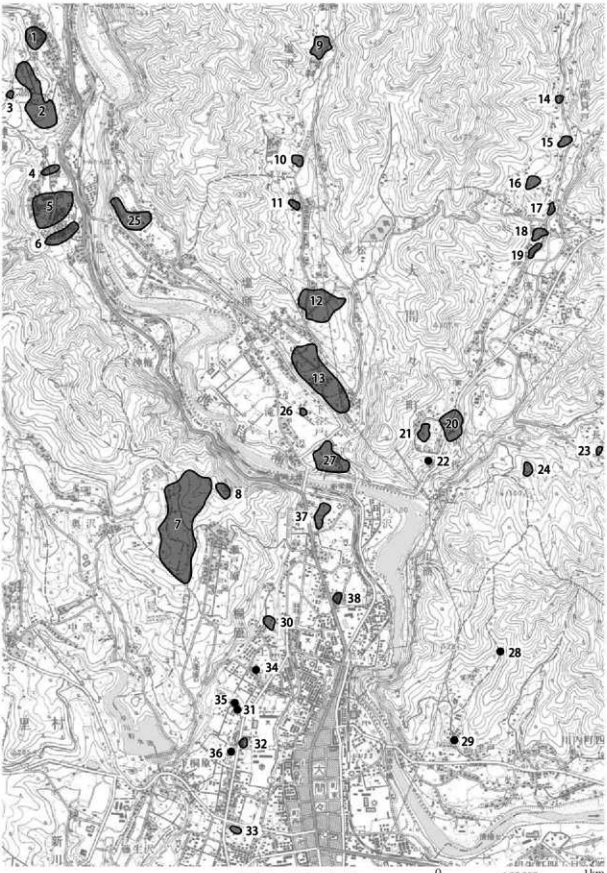
その結果、段丘構成層と推定される水成堆積物の直上に、姶良 Tn 火山灰（約 2.4 ～ 2.5 万年前）が検出され、特に不整合がない限り、上ノ台遺跡の位置する下位段丘の離水が姶良 Tn 火山灰降灰前後に発生したことを示す所見を得ることができた。今回の発掘調査で旧石器は検出されなかったが、今後の調査では、姶良 Tn 火山灰降下以前の石器が出土する可能性も考える必要がでてきたのである。

下位段丘内には現地表面には大きな起伏は見られないが、上ノ台遺跡Ｂ区の北端は北側に向かって傾斜しており、小規模な谷地が入り込んでいると見られる。東側の畑耕作者によれば段丘面上に湧水があったとのことであるので、このことからも段丘面を開析する小谷地が埋没していることが推定される。小谷地のある段丘面は、縄文時代集落の立地に適した環境であったのであろう。

２．周辺の遺跡分布

みどり市大間々町域の遺跡は、平成５～７年度に行われた遺跡分布調査で、45 遺跡が確認されている。ここでは上ノ台遺跡周辺の 38 遺跡について、先述した地形単位ごとに分布の概要を確認しておく。

渡良瀬川右岸地域には、段丘より上位の塩原泥流堆積面や下位段丘上に、縄文時代・古墳時代・古代の遺跡が分布する。分布調査で確認された６遺跡のうち、４遺跡で縄文時代の土器が出土している。上神梅前原遺跡（５）では集落の形成が推定されてい


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
0
1:25,000
1km

第６図　周辺の遺跡分布

る。上ノ宿野中遺跡（2）や上神梅前原遺跡（5）では、古墳時代前期の土師器壺破片を含む土師器が出土しており、当該期の集落の可能性を示唆している。芦ノ沢遺跡（3）、上神梅馬場遺跡（4）や上神梅前原遺跡（5）では古代の土器も出土している。

渡良瀬川左岸地域は山間地であるが、東半部には塩沢川・小平川などの小河川が山間深くまで開析しており、水系とそれに伴う平坦な地形を形成していることから、比較的多くの縄文時代・平安時代の遺跡が分布している。塩沢川の流域には下位段丘面に長谷遺跡（9）・塩沢馬場遺跡（10）・相返遺跡（11）が分布する。いずれも縄文時代の遺物があり、塩沢馬場遺跡（11）では古代の土器も採集されている。塩沢川の下流左岸の丘陵上には大規模な縄文時代遺跡である高松Ａ・Ｂ遺跡（12・13）がある。

小平川流域は山麓緩斜面や下位段丘面に、田ノ入遺跡（14）、大畑遺跡（15）、上ノ原遺跡（16）、大平遺跡（17）、満光院遺跡（18）、持宝院遺跡（19）、寅久保遺跡（20・21）、天神畑古墳（22）がある。田ノ入遺跡と持宝院遺跡は古代の遺跡で、他は縄文土器と古代の土器が採集されている。また南方の高津戸地区には古代の製鉄関連遺跡と推定されている金屑遺跡（28）、庚塚古墳（29）がある。

一方、上ノ台遺跡（25）のある西半部は小河川の開析のない段丘面で、上ノ台遺跡より下流の段丘面には縄文時代の下谷戸Ａ・Ｂ遺跡（26・27）がある。下谷戸Ａ遺跡では土師器も採集されている。また北側の塩沢川に面した丘陵上には大規模な縄文時代遺跡である高松Ａ・Ｂ遺跡（12・13）がある。

大間々扇状地地域は、大間々扇状地の扇頂部分にあたる。大間々扇状地は形成時期の異なる２面の扇状地面からなるが、西側の古いⅠ面では平安時代の土器が採集された宮岡遺跡（30）、縄文土器が採集された国土遺跡（31）、宿東遺跡（32）、鍋山道東遺跡（33）がある。また扇状地Ⅰ面の東縁に並ぶように、遠の腰古墳（34）、国土古墳（35）、杉森古墳（36）がある。杉森古墳は平成２年に学術調査されている。新しい扇状地Ⅱ面には遺跡分布はきわめて少ない。扇頂北端部でみつかった北原遺跡（37）、やや南側にある二軒在家遺跡（38）では、縄文時代・古代の土器が採集されている。

第１表　周辺遺跡の概要

凡例●集落　○包蔵地　▲古墳　□砦

図版	市編	遺跡名	縄文時代	弥生時代	古墳時代	奈良時代	平安時代	中世	近世
1	00041	上宿遺跡							
2	00042	上ノ宿野中遺跡	○		○				
3	00043	芦ノ沢遺跡				○	○		
4	00044	上神梅馬場遺跡	○			○	○		
5	00045	上神梅前原遺跡	●		○		●		
6	00046	原良戸遺跡				○	○		
7	00007	瀬戸ヶ原遺跡	●				●		
8	00018	手振山砦						□	
9	00047	長谷遺跡	○						
10	00048	塩沢馬場遺跡	○			○	○		
11	00049	相返遺跡	○						
12	00025	高松Ａ遺跡	●			●	●		
13	00026	高松Ｂ遺跡	●			●	●		
14	00029	田ノ入遺跡				○	○		
15	00030	大畑遺跡	○						
16	00031	上ノ原遺跡	○				○		
17	00032	大平遺跡	○			○	○		
18	00033	満光院遺跡	○			○	○		
19	00034	持宝院遺跡				○	○		
20	00035	寅久保Ａ遺跡	○			○	○		
21	00036	寅久保Ｂ遺跡							
22	00037	天神畑古墳			▲				
23	00038	長尾根前古遺跡					○		
24	00023	瓜久保遺跡	○						○
25	00024	上ノ台遺跡	●			○	○		
26	00027	下谷戸Ａ遺跡	○		○				
27	00028	下谷戸Ｂ遺跡	●						
28	00021	金屑遺跡				○	○		
29	00022	庚塚古墳			▲				
30	00011	宮岡遺跡					○		
31	00014	国土遺跡	○						
32	00015	宿東遺跡	○						
33	00016	鍋山道東遺跡	○						
34	00008	遠の腰古墳			▲				
35	00009	国土古墳			▲				
36	00006	杉森古墳			▲				
37	00012	北原遺跡	○				○		
38	00013	二軒在家遺跡	○			○	○		

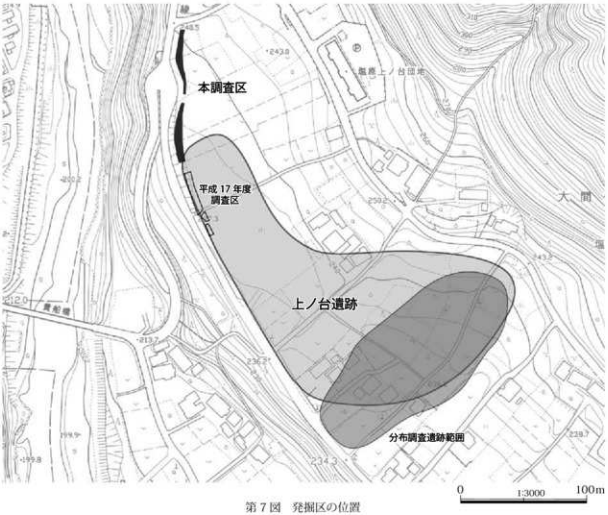
３．上ノ台遺跡のこれまでの調査

上ノ台遺跡が明確に遺跡として報告されたのは、1993 ～ 1995 年に大間々町誌の編纂に伴って実施された遺跡分布調査報告である。この分布調査では渡良瀬川左岸下位段丘面で、縄文時代中期土器の小破片と土師器の小破片を採集しており、北東－南西方向の長軸 150m ほどの範囲が遺物散布地として報告されている。この分布調査の報告には、昭和14(1939) 年３月発行の『山田郡誌』に「石鏃・打斧・凹石・縄文式土器・弥生式土器が出土したとあり、」と記載されている。『山田郡誌』を見ると、上

ノ台の地名はないが、旧福岡村地内では隣接する下ノ台の地名の記載がある。遺跡範囲には検討の余地が残されているかもしれないが、上ノ台遺跡周辺には当時から遺跡としての認識があったということであろう。

平成 17(2005) 年５月９日～ 26 日には、一般県道根利八木原大間々線単独道路改築事業に伴って、群馬県教育委員会が発掘調査を実施した。この調査では、分布調査で遺跡とされた範囲から北西 150 mの地点で縄文時代前期前半の住居跡４軒と土坑５基、ピット 12 基が検出された。出土した遺物は、縄文時代早期 (押型文)、前期（関山Ⅰ・Ⅱ式、有尾式、黒浜式、諸磯ａ・ｂ式）、中期 (阿玉台式、加曽利Ｅ式)、後期と多岐にわたる縄文土器と、近世焙烙破片であった。この発掘調査によって、上ノ台遺跡の範囲は北部に広がり、北西－南東方向 250 mの範囲に拡大されて、発掘調査報告書にも図示された。これにより、「群馬県埋蔵文化財情報ＷＥＢ版」にも拡大された遺跡範囲が更新されている。また、これまで縄文時代中期の土器包蔵地と報告されてきた上ノ台遺跡が、早期から後期にわたる時期の遺跡であることも明らかになった。検出された遺構のなかには、大間々町域で初めての関山式期の住居が３軒含まれており、当該時期の集落研究にあらたな資料を加えることになった。

このような調査経過をふまえ、平成 20(2008) 年９月に今回の発掘調査が実施された。調査区は 2005 年の発掘調査区のすぐ北側に接した位置にあたり、縄文時代前期後葉から中期後葉にかけての遺構を検出した。調査では、遺跡の範囲がさらに北側に広がること、住居の時期が前期から中期にわたること等が明らかになった。



第７図　発掘区の位置

第３章　検出された遺構と遺物

１．概要

発掘調査区はほぼ中央を横切る農道を境として、南側をＡ区、北側をＢ区とした。Ａ区からＢ区にかけてはほぼ平坦な段丘面であるが、Ｂ区北端は開析谷へ落ち込む傾斜となっていた。全体に遺構は平坦面に集中して分布していたが、Ｂ区北端では少なくなる傾向があった。（第８図）

Ａ区で検出した縄文時代の遺構は、竪穴住居跡５棟、土坑24基、ピット10基、溝１条であった。また、Ｂ区で検出した遺構は、竪穴住居跡３棟、土坑５基、ピット36基、溝１条であった。これらの遺構のうち、５・17・20号土坑、12～46号ピット、１・２号溝を除いた遺構は、出土遺物、形状、埋没土の特徴などから、いずれも縄文時代の遺構であると判断した。

竪穴住居跡は、縄文時代前期後半から中期後半のものである。その形状や出土遺物から、１号住居は阿玉台Ⅰｂ式期、２号住居は諸磯ｃ式期、３号住居は加曽利ＥⅠ新式期、４号住居は阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期、５号住居は加曽利ＥⅠ式期、６号住居は中期中葉段階、７号住居は阿玉台式期と判断した。５号住居の北側には柱穴とみられるピット４基と焼土を検出したが、加曽利ＥⅠ式期以降の住居跡の可能性を考え、８号住居として報告した。なお、１号住居と２号住居については、遺構確認面に攪乱が多く重複関係の把握が難しかったため、やむを得ず２棟同時調査となった。そのため、１号住居の壁のうち西壁を除いた部分については、図上復元したものである。

本遺跡の南隣接地において、平成17年に群馬県教育委員会が行った発掘調査では、検出された竪穴住居跡４棟のうち、時期が判明した３棟はいずれも関山Ⅰ式期のものであった。しかし、今回の調査では縄文時代前期前半と判断できる遺構は確認されなかった。このことから、本遺跡の立地する段丘面における縄文時代の集落は比較的小規模であり、時期ごとに地点をわずかに変えながら営まれていたのではないかと推測できる。

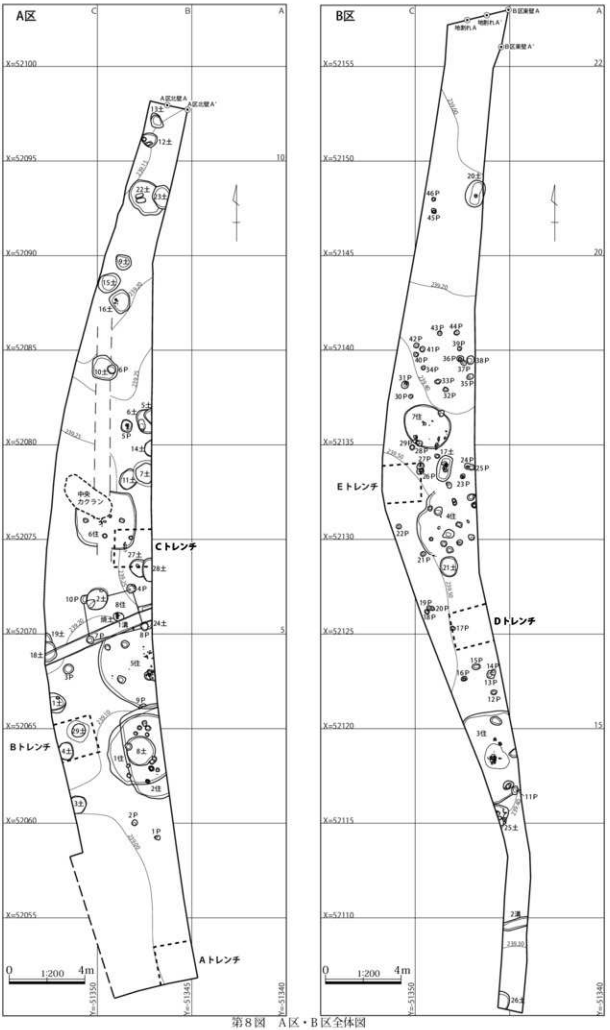
縄文時代の土坑・ピットの多くは、竪穴住居跡に近接する位置にある。Ａ区の北半では竪穴住居跡は検出されていないが、土坑が少なからず存在していることから、Ａ区の北半に隣接する調査区外には、これらの土坑と同時期の竪穴住居があるのではないかと推測できる。

縄文時代の土坑の形状については、「円形－断面袋状」、「円形－断面箱形」、「楕円形－断面箱形」、「不整円形」に分類した。縄文時代の土坑26基の内訳は、「円形－断面袋状」が９基、「円形－断面箱形」が５基、「楕円形－断面箱形」が４基、「不整円形」が６基、形状不明２基であった。また、形状や出土遺物などから、貯蔵穴や墓壙の可能性が考えられる土坑については、所見に書き加えた。

１～11号ピットは、出土遺物は少ないものの、埋没土の特徴が縄文時代の土坑埋没土と共通していることから、縄文時代の遺構であると判断した。このうち４・７・８・10号ピットは、８号住居の主柱穴として報告した。

縄文時代以外の遺構は、Ａ区で溝１条、土坑１基、Ｂ区で溝１条、土坑（陥穴）２基、ピット35基を検出した。陥穴２基はＢ区北部の段丘縁辺の傾斜変換点にあった。これらの遺構埋没土中からはわずかな縄文土器破片が出土しているが、埋没土はやや柔らかく黒味の強い黒褐色土が主体である。縄文時代の竪穴住居跡や土坑の硬く締まった黒褐色土を主体とする埋没土とは大きく異なることから、これらの遺構は縄文時代以外の時期の遺構と判断した。しかし、時期を特定する資料はなかったことから、ここでは、時期不明の遺構・遺物として報告した。

溝は直線で区画溝と推定されるが、時期は特定できなかった。ピット群は埋没土の相違から縄文時代より新しいと推定されたが、時期は特定できなかった。


A区
B区
Aトレンチ
Bトレンチ
Cトレンチ
Dトレンチ
Eトレンチ
A区北壁A
A区北壁A'
B区東壁A
B区東壁A'
中央カクラン
0 1:200 4m

第8図　A区・B区全体図

２．縄文時代の遺構と遺物

(１)竪穴住居

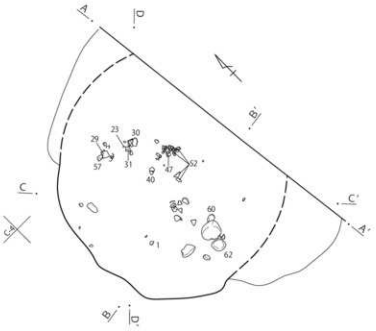
１号住居

(第９～13図　PL3・14　遺物属性表P.65・69)

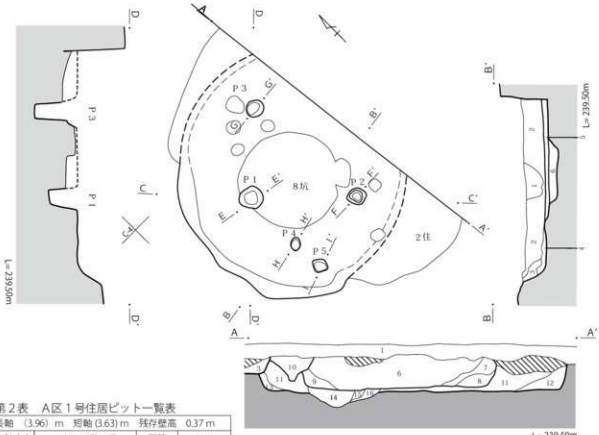
位置　Ａ区Ｂ－３・４Ｇ　**形状・規模**　円形と推定される。長軸3.96m　短軸3.63m　残存壁高0.37m　**面積**　計測不能　**方位**　N-45°-W　**重複**　２号住居、８号土坑と重複しているが、いずれも１号住居が新しい。**埋没土**　硬く締まった黒褐色土を主体とする。壁付近には硬く締まった暗褐色土が堆積していた。また、南壁付近にのみ非常に粘性のある褐色土の堆積がみられた。いずれも自然埋没土と考えられる。　**柱穴**　４本主柱穴と推定されるが北東隅の柱穴は検出されなかった。検出された３本の主柱穴(長軸×短軸×深さ)は、Ｐ１(0.4 × 0.36 × 0.48 m)、Ｐ２(0.28 × 0.26 × 0.57 m)、Ｐ３(0.3 × 0.28 × 0.64 m)である。このうちのＰ３については、１号住居より古い倒木痕と重複していたことから検出が遅れ、２号住居の床面調査終了後、倒木により転倒した土層をすべて除去した時点での調査となった。また、Ｐ４(0.2 × 0.16 × 0.37 m)、Ｐ５(0.21 × 0.2 × 0.48 m)については、２号住居の壁に重複していたことや、埋没土の特徴がＰ１～Ｐ３と共通することから、１号住居の柱穴とした。　**炉**　Ｐ２とＰ３の中間付近に存在していた可能性が考えられるものの、調査時に掘り込み、焼土、灰層、炭化物の集中域などを検出することはできなかった。

周溝　検出されなかった。　**床面**　西壁付近では、地山ローム土上面を床面とした。２号住居との重複部分では、同じ高さに硬化面は認められなかった。

出土遺物　土器は全体で565点が出土した。内訳は前期中葉(黒浜式)143点、前期後葉(諸磯ａ～ｃ式)80点、中期中葉(阿玉台式・勝坂式)200点、不明142点で、このうち、52点を図化・掲載した。石器類は石器17点、剥片56点、礫・礫片125点が出土した。このうち、10点の石器を図化・掲載した。これらの遺物の多くは、１層の上～中位から出土しており、住居廃絶後に投棄されたものであると考えられる。　**所見**　円形の形状に４本の主柱穴が想定されることや、出土した土器の多くが阿玉台Ｉｂ式であることから、阿玉台Ｉｂ式期の住居であると考えられる。

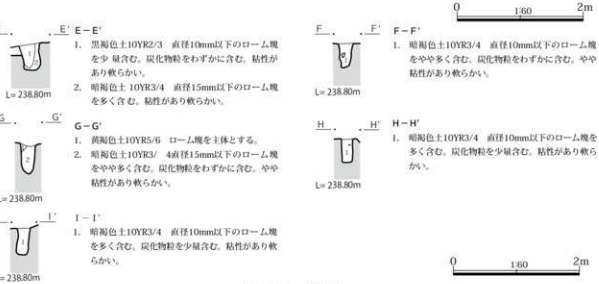


第９図　１号住居遺物出土状態



第２表　A区１号住居ピット一覧表

長軸　(3.96) m　短軸 (3.63) m　残存壁高　0.37 m					
主軸方向	N － 45° － E			面積	－
柱穴 No	規模 (m)			形状	次柱穴との間隔 (m)
	長径	短径	深さ		
P 1	0.4	0.36	0.48	楕円形	1.67
P 2	0.28	0.26	0.57	円形	－
P 3	0.3	0.28	0.64	楕円形	1.42
P 4	0.2	0.16	0.37	楕円形	－
P 5	0.21	0.2	0.48	方形	



E－E'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径10mm以下のローム塊を少量含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり軟らかい。
2. 暗褐色土 10YR3/4　直径15mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり軟らかい。

G－G'

1. 黄褐色土10YR5/6　ローム塊を主体とする。
2. 暗褐色土10YR3/　4直径15mm以下のローム塊をややや多く含む。炭化物粒をわずかに含む。やや粘性があり軟らかい。

I－I'

1. 暗褐色土10YR3/4　直径10mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒を少量含む。粘性があり軟らかい。

F－F'

1. 暗褐色土10YR3/4　直径10mm以下のローム塊をややや多く含む。炭化物粒をわずかに含む。やや粘性があり軟らかい。

H－H'

1. 暗褐色土10YR3/4　直径10mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒を少量含む。粘性があり軟らかい。

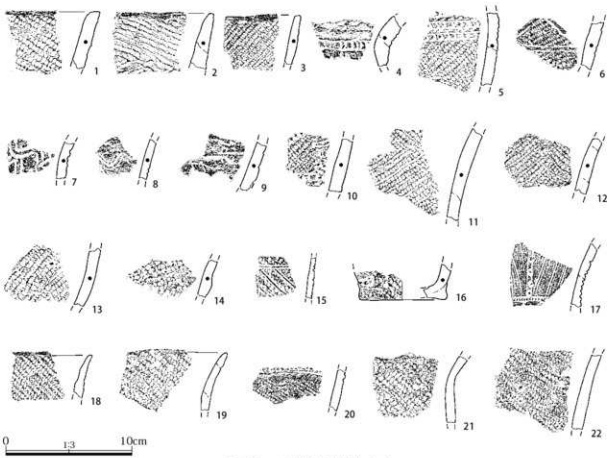
第10図　1号住居

A－A′

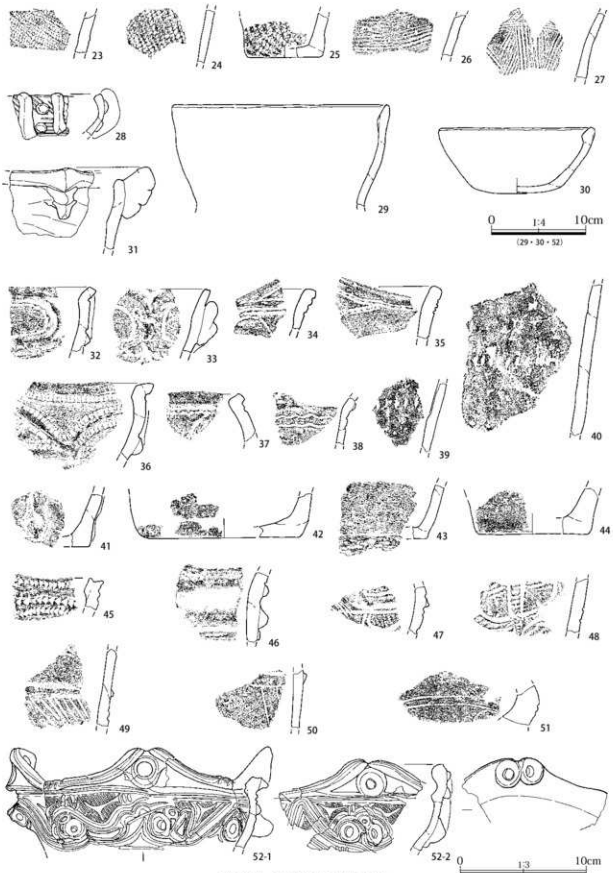
1. 表土
3. 黒褐色土10YR2/3　直径20mm以下のローム塊をやや多く含む。粘性があり硬く締まっている。
6. 黒褐色土10YR2/3　直径20mm以下の暗褐色土塊をやや多く含む。直径10mm以下のローム塊、直径5mm以下の炭化物粒をわずかに含む。粘性があり、硬く締まっている。
7. 黒褐色土10YR2/3　直径15mm以下の褐色土(7.5YR4/4)塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性がありやや硬く締まっている。
8. 褐色土7.5YR4/4　炭化物粒をわずかに含む。非常に粘性がある。
9. 暗褐色土10YR3/3　直径15mm以下の褐色土(10YR4/6)塊をやや多く含む。直径5mm以下のローム塊・炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。
10. 暗褐色土10YR3/3　１号住居４層土に似る。
11. 暗褐色土10YR3/3　直径15mm以下のローム塊を少量含む。直径5mm以下の炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。
12. 暗褐色土10YR3/3　直径20mm以下のローム塊をやや多く含む。粘性があり非常に硬く締まっている。
13. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊を多く含む。粘性がありやや硬く締まっている。
14. 暗褐色土10YR3/3　直径15mm以下のローム塊を少量含む。粘性があり硬く締まっている。
15. 褐色土7.5YR4/4　粘性がありやや硬く締まっている。直径10mm以下の暗褐色土塊を少量含む。
16. 暗褐色土10YR3/4　粘性がありやや硬く締まっている。直径10mm以下の褐色土塊を少量含む。

B－B′

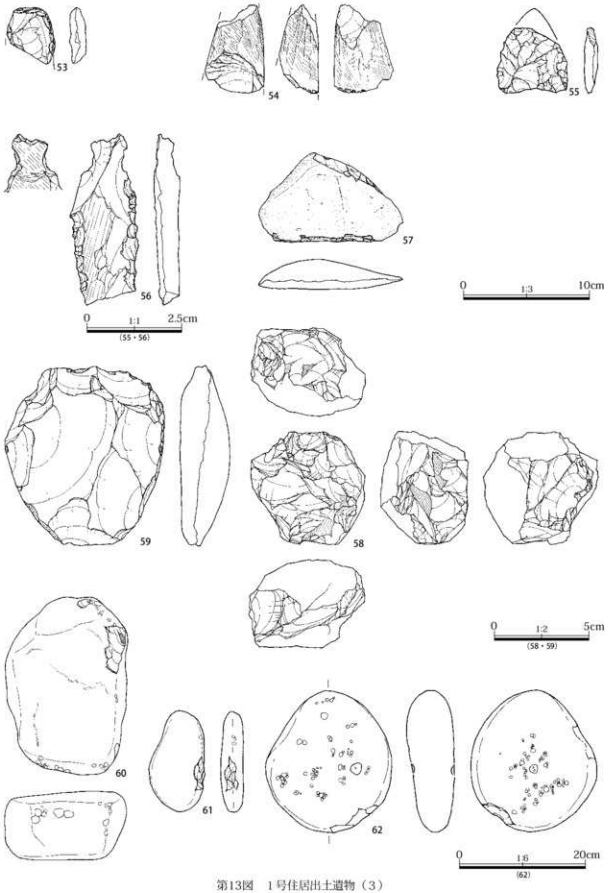
1. 黒褐色土10YR2/3　直径15mm以下の暗褐色土塊、直径3mm以下の炭化物粒を少量含む。直径10mm以下のローム塊をわずかに含む。硬く締まっている。
2. 黒褐色土10YR2/3　直径20mm以下の暗褐色土塊を多く含む。直径10mm以下のローム塊、炭化物粒をわずかに含む。硬く締まっている。
3　暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬くしまっている。
4. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊を非常に多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬くしまっている。
5. 暗褐色土10YR3/3　直径20mm以下のローム塊をやや多く含む。粘性があり非常に硬く締まっている。
6. 黒褐色土10YR2/3　直径10mm以下のローム塊、直径5mm以下の炭化物粒をやや多く含む。やや粘性があり硬く締まっている。



第11図　１号住居出土遺物（１）



第12図　１号住居出土遺物（２）



第13図　1号住居出土遺物（3）

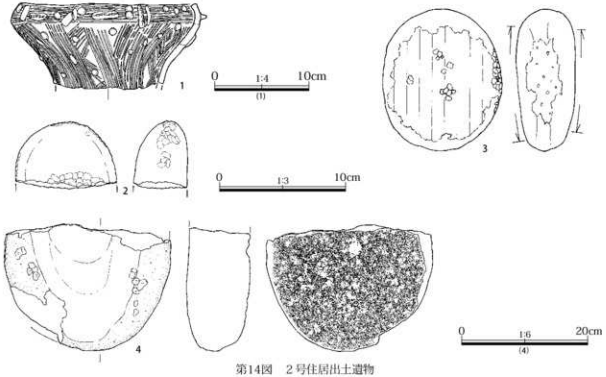
２号住居

（第14･15図　PL3・4・15　遺物属性表P.66・69）

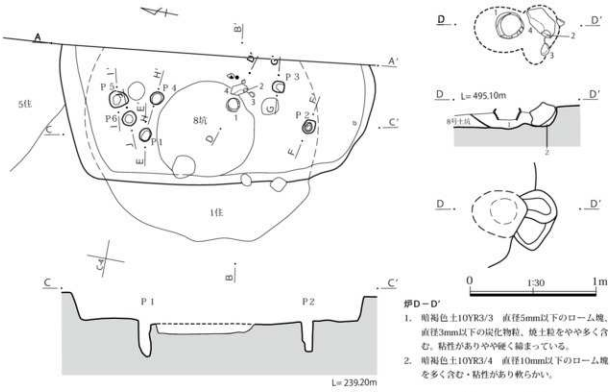
位置　Ａ区Ｂ－３・４Ｇ　**形状・規模**　隅丸方形と推定される。東半部は調査区域外である。長軸4.92 m　短軸2.11 m以上　残存壁高0.39 m　**面積**　計測不能　**方位**　N-13°-W　**重複**　１号住居、８号土坑と重複しているが、２号住居は１号住居より古く、８号土坑より新しい。**埋没土**　硬く締まった暗褐色土を主体とする。自然埋没土と考えられる。**柱穴**　６本の柱穴が検出されたが、主柱穴（長軸×短軸×深さ）は、Ｐ１（0.21 × 0.19 × 0.5 m）、Ｐ２（0.24 × 0.19 × 0.5 m）であると考えられる。また、Ｐ３（0.19 × 0.17 × 0.56 m）、Ｐ４（0.23 × 0.19 × 0.56 m）、Ｐ５（0.3 × 0.26 × 0.39 m）、Ｐ６（0.23 × 0.22 × 0.4 m）については、１号住居主柱穴の差し替えの可能性も考えられたが、１号住居柱穴の埋没土が暗褐色土であるのに対し、これらの埋没土は２号住居Ｐ１、Ｐ２と同じ褐色土であったことから、２号住居の柱穴とした。このうちのＰ４、Ｐ５、Ｐ６については、２号住居より新しい倒木痕と重複していたことから検出が遅れ、２号住居の床面調査終了後、倒木により転倒した土層をすべて除去した時点での調査となった。　**炉**　住居中央部よりやや南西寄りで土器埋設炉１基を検出した。炉体土器は下半を欠いた諸磯ｃ式の深鉢で、正位で埋設されていた。　**周溝**　検出されなかった。**床面**　８号土坑との重複部分では、埋没土と比べ明らかに硬化しているという状況は認められなかった。そのため炉体土器の口縁部が出土した高さを床面とした。　**出土遺物**　上層に中期中葉の１号住居が重複していたことから、２号住居の出土遺物は極めて少なかった。これらの遺物は炉の東側に集中して出土した。２号住居の帰属として取りあげた土器は４点である。内訳は、前期後葉（諸磯ａ～ｃ式）１点、不明３点で、このうち、１点を図化・掲載し

第３表　Ａ区２号住居ピット一覧表

長軸　4.92 m　短軸　2.11 m以上　残存壁高　0.39 m					
主軸方向	N－13°－W			面積	－
柱穴 No	規模（m）			形状	次柱穴との間隔（m）
	長径	短径	深さ		
Ｐ１	0.21	0.19	0.5	楕円形	2.6
Ｐ２	0.24	0.19	0.5	楕円形	－
Ｐ３	0.19	0.17	0.56	円形	2
Ｐ４	0.23	0.19	0.56	円形	
Ｐ５	0.3	0.26	0.39	不整円形	
Ｐ６	0.23	0.22	0.4	不整円形	



第14図　２号住居出土遺物



※A-A′・B-B′土層断面図は第10図（P16）

炉D－D′

1. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下のローム塊、直径3mm以下の炭化物粒、焼土粒をやや多く含む。粘性がありやや硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/4　直径10mm以下のローム塊を多く含む・粘性があり軟らかい。

0　1:60　2m

E－E′

1. 褐色土10YR4/6　直径10mm以下のローム塊をやや多く含む。軟らかい。

F－F′

1. 褐色土10YR4/4　直径10mm以下のローム塊をやや多く含む。炭化物粒をわずかに含む。やや粘性があり軟らかい。

G－G′

1. 褐色土10YR4/6　直径10mm以下のローム塊をやや多く含む。炭化物粒をわずかに含む。やや粘性があり軟らかい。

H－H′

1. 褐色土10YR4/6　直径10mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。やや粘性軟らかい。

I－I′

1. 褐色土10YR4/4　直径15mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。やや粘性があり軟らかい。

J－J′

1. 褐色土10YR4/4　直径10mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。やや粘性があり軟らかい。

0　1:60　2m

第15図　２号住居

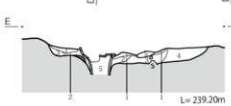
た。石器類は石器３点、剥片２点、礫・礫片３点が出土した。このうち、３点の石器を図化・掲載した。いずれも炉内から出土した。　**所見**　炉体土器の型式から、諸磯ｃ式期の住居であると考えられる。

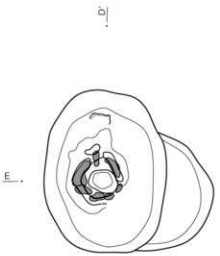
３号住居（第 16 ～22 図　PL5 ～ 7・15 ～ 17
遺物属性表 P.66・67・69・70）

位置　Ｂ区Ａ・Ｂ－14・15 Ｇ　**形状・規模**　不整円形と推定される。長軸 4.86 m　短軸 2.42 m 以上　残存壁高 0.25 m　**面積**　計測不能　**方位**　N-11°-W　**重複**　11 号ピットと重複しているが、３号住居が新しい。　**埋没土**　上層では硬く締まった黒褐色土、下層では硬く締まった暗褐色土を主体とする。北壁際のみ壁の崩落土と考えられる黄褐色土が堆積していた。いずれも自然埋没土と考えられる。　**柱穴**　主柱穴（長軸×短軸×深さ）は、Ｐ１（0.64 × 0.44 × 0.54 m）、Ｐ２（0.59 × 0.42 × 0.3 m）であると考えられる。また、Ｐ３（0.40 m以上× 0.45 m × 0.19 m）は、他の２基に比べ位置が炉に近いものの、埋没土の特徴が共通することから、同じく３号住居の柱穴とした。　**炉**　住居中央部より、床面を浅く掘り窪めた中に土器埋設炉１基を検出した。炉体土器は、下半を欠いた加曽利ＥＩ式の深鉢で、正位で埋設されていたと考えられるが、検出時には破損していた。この炉体土器に接する面は、堀方埋没土および地山ローム土とともに焼土化していた。また、炉の堀方には新旧関係が認められ、少なくとも１度の作り替えが想定できる。　周溝検出されなかった。　**床面**　地山ローム土が広い範囲で硬化しており、この硬化面を床面とした。　**出土遺物**　土器は全体で 1270 点が出土した。内訳は

第４表　Ｂ区３号住居ピット一覧表

長軸　4.86 m　短軸　2.42 m以上　残存壁高　0.25 m					
主軸方向	Ｎ－ 11°－Ｗ			面積	
柱穴 Ｎｏ	規模（ｍ）			形状	次柱穴との間隔（m）
	長径	短径	深さ		
Ｐ１	0.64	0.44	0.54	楕円形	3.46
Ｐ２	0.59	0.42	0.3	楕円形	
Ｐ３	0.40 ＋	0.45	0.19	楕円形	



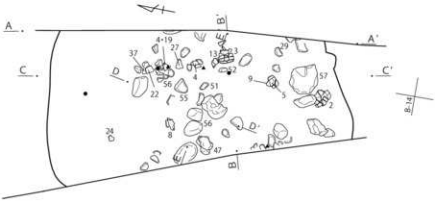


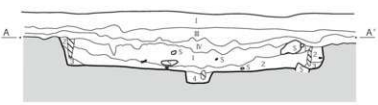
炉Ｄ－Ｄ'・Ｅ－Ｅ'

1. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊、直径5mm以下の焼土塊、直径3mm以下の炭化物粒を少量含む。粘性がありやや硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/3　直径20mm以下の焼土塊を非常に多く含む。直径5mm以下のローム塊、炭化物粒をわずかに含む。粘性がありやや硬く締まっている。
3. 暗褐色土10YR3/3　直径15mm以下のローム塊を多く含む。焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。粘性がありやや硬く締まっている。
4. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒を少量含む。粘性があり硬く締まっている。
5. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下の焼土塊を多く含む。やや粘性があり軟らかい。

0　1:30　1m

第16図　３号住居炉



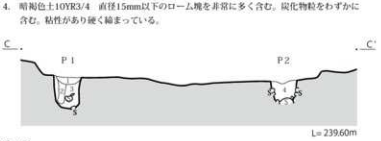


A－A'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径15mm以下の暗褐色土塊、直径10mm以下のローム塊、直径5mm以下の炭化物粒をやや多く含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/3　直径15mm以下のローム塊を多く含む。直径5mm以下の炭化物粒をやや多く含む。粘性があり硬く締まっている。
3. 黄褐色土10YR5/6　ローム塊を主体とし、炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。
4. 暗褐色土10YR3/4　直径15mm以下のローム塊を非常に多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。

B－B'

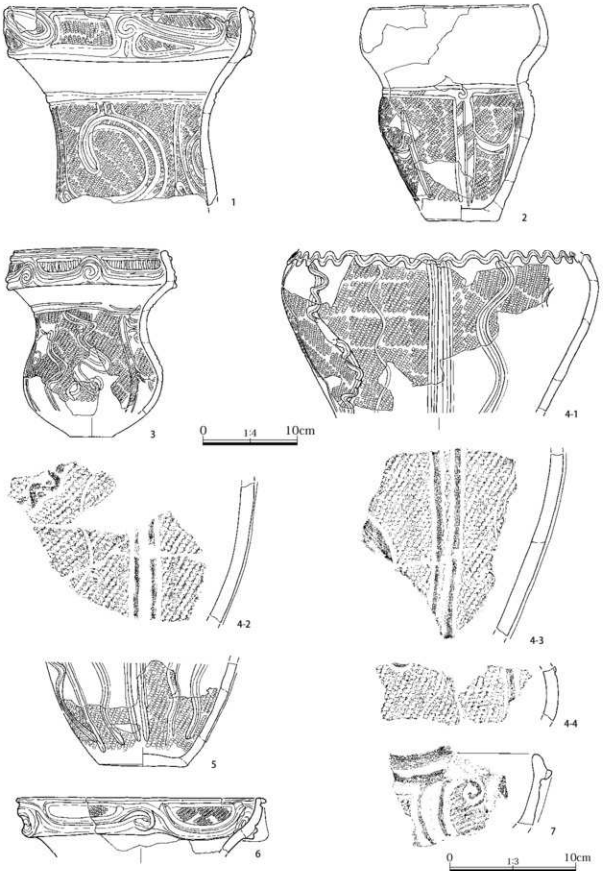
1. 黒褐色土10YR2/2　直径15mm以下の暗褐色土塊を少量含む。やや粘性があり硬く締まっている。
2. 黒褐色土10YR2/3　直径15mm以下の暗褐色土塊、直径5mm以下の炭化物粒をやや多く含む。粘性があり硬く締まっている。
3. 黒褐色土10YR2/3　直径15mm以下の暗褐色土塊、直径10mm以下のローム塊、直径5mm以下の炭化物粒をやや多く含む。粘性があり硬く締まっている。
4. 暗褐色土10YR3/3　直径15mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり硬く締まっている。



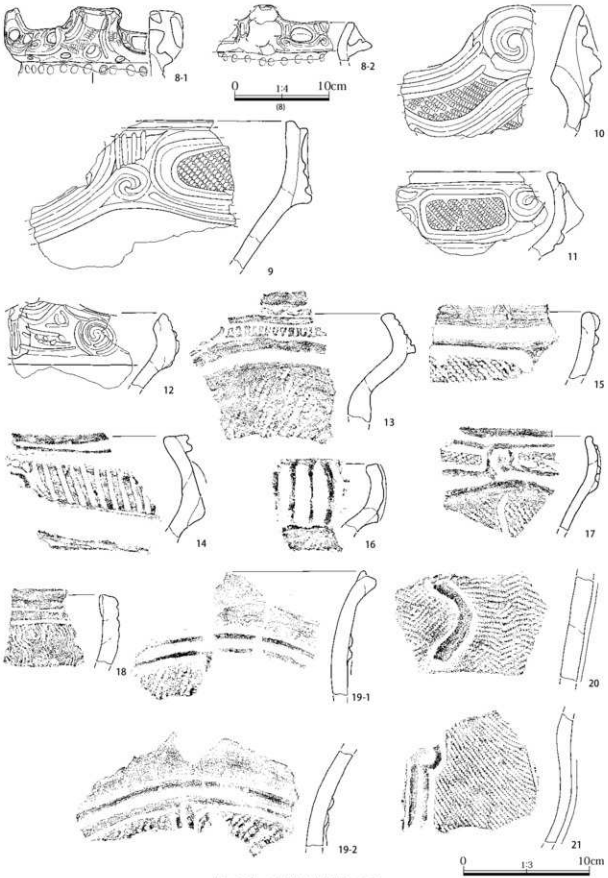
C－C'

1. 暗褐色土10YR3/4　直径5mm以下のローム塊、炭化物粒を少量含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/4　直径10mm以下のローム塊をやや多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。
3. 暗褐色土10YR3/4　直径20mm以下のローム塊を多く含む。直径50mm以下の礫を少量含む。粘性があり硬く締まっている。
4. 暗褐色土10YR3/4　直径10mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒を少量含む。粘性がありやや硬く締まっている。

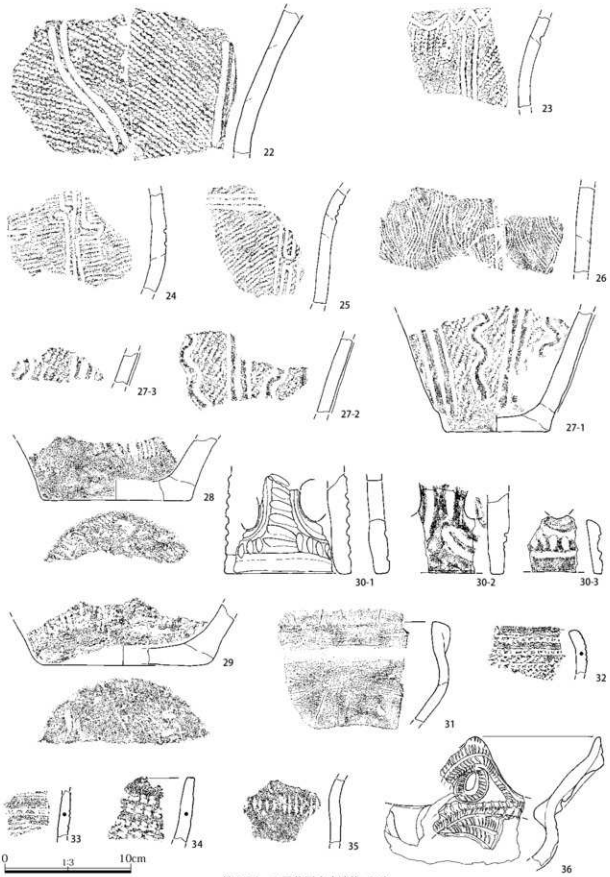
第17図　３号住居



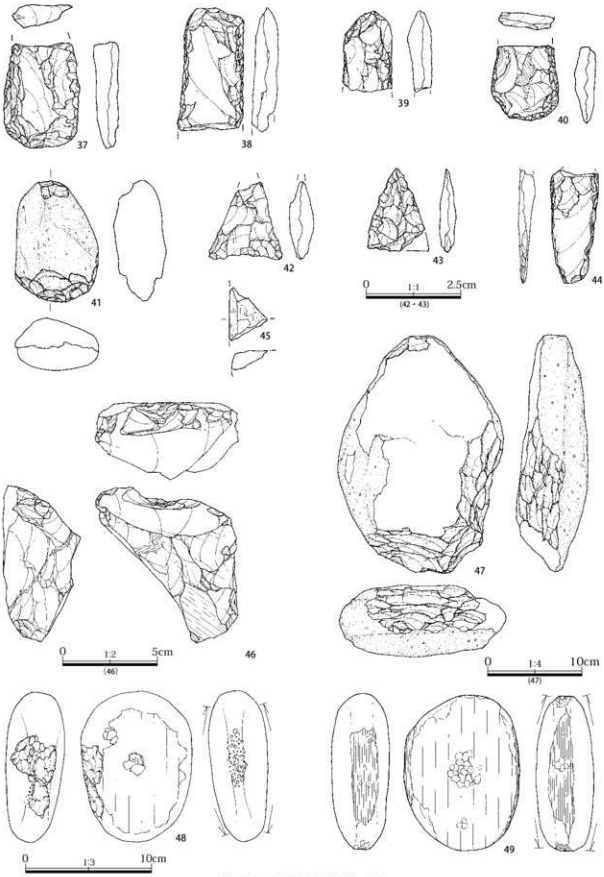
第18図　３号住居出土遺物（１）



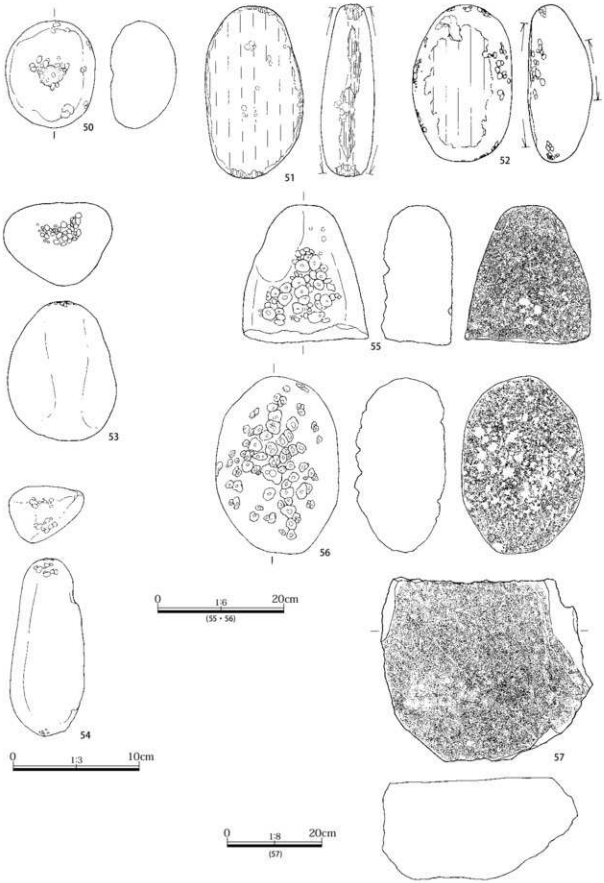
第19図　3号住居出土遺物（2）



第20図　３号住居出土遺物（３）



第21図　3号住居出土遺物（4）

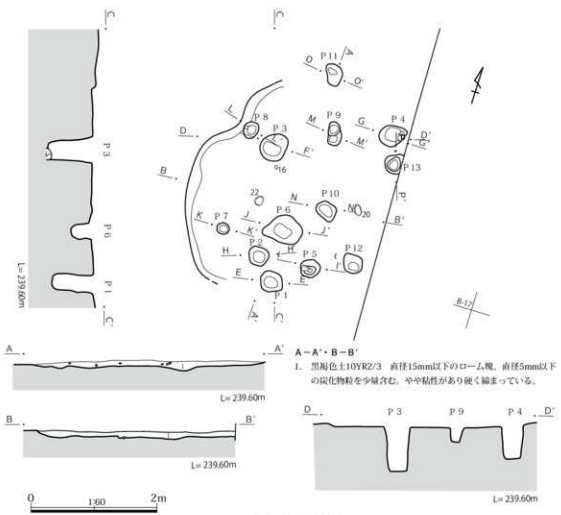


第22図　３号住居出土遺物（５）

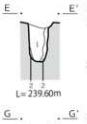
前期中葉(黒浜式)56点、前期後葉(諸磯a～c式)9点、中期中葉(阿玉台式・勝坂式)20点、中期後葉(加曽利ＥⅠ新～Ⅱ式)1116点、不明69点で、このうち、36点を図化・掲載した。石器類は石器33点、剥片110点、礫・礫片101点が出土した。このうち、21点の石器を図化・掲載した。本遺跡で検出された他の竪穴住居跡に比べ、出土遺物数が非常に多い。また、炉の周辺を中心としてこれらの遺物の多くが、床面から10～30cm高い位置から出土しており、住居廃絶後に投棄されたものであると考えられる。線刻石(47)はＰ２の上端部をふさぐ位置に出土した。また炉の上面には比較的大型の礫が複数残存しており、住居廃絶時の何らかの行動の結果とも考えられる。　**所見**　炉体土器の型式から、加曽利ＥⅠ新式期の住居であると考えられる。

４号住居（第23～25図　PL7･17･18　遺物属性表P.67･70･71）

位置　Ｂ区Ｂ－17・18Ｇ　**形状・規模**　残存状況不良のため、形状・規模は不明であるが、円形と推定される。長軸不明　短軸不明　残存壁高0.08ｍ　**面積**　計測不能　**方位**　N-72°-E　**重複**　なし。**埋没土**　硬く締まった黒褐色土を主体とする。自然埋没土と考えられる。　**柱穴**　４号住居の床面想定範囲内から13基のピットを検出したが、本住居周辺に縄文時代のピットが見られなかったことから、これらはすべて４号住居の柱穴とした。このうち主柱穴（長軸×短軸×深さ）は、Ｐ１(0.4×0.34×0.65ｍ)、Ｐ３(0.48×0.4×0.72ｍ)、Ｐ４(0.47×0.34×0.52ｍ)であると考えられる。また、Ｐ２(0.33×0.29×0.58ｍ)はＰ１の差し替え、Ｐ13(0.30



第23図　４号住居



E－E'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径10mm以下のローム塊、炭化物粒を少量含む。粘性がありやや硬く締まっている。
2. 黒褐色土10YR2/3　直径15mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり軟らかい。

G－G'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径15mm以下のローム塊をやや多く含む。粘性があり軟らかい。
2. 黒褐色土10YR2/3　直径15mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり軟らかい。

I－I'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径10mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒を少量含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 黒褐色土10YR2/3　１層土とローム斑状の混土。粘性があり硬く締まっている。

K－K'

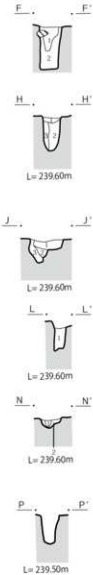
1. 暗褐色土10YR3/3　直径15mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり硬く締まっている。

M－M'

1. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下のローム塊をやや多く含む。粘性がありやや硬く締まっている。

O－O'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径5mm以下のローム塊、炭化物粒を少量含む。粘性がありやや硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり軟らかい。



F－F'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径5mm以下のローム塊、炭化物粒を少量含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 黒褐色土10YR2/3　直径20mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり軟らかい。

H－H'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径5mm以下のローム塊、炭化物粒を少量含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 黒褐色土10YR2/3　直径10mm以下のローム塊をやや多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性がありやや軟らかい。
3. 黒褐色土10YR2/3　直径20mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり硬く締まっている。

J－J'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径20mm以下のローム塊を少量含む。粘性がありやや硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下のローム塊を少量含む。粘性がありやや軟らかい。
3. 暗褐色土10YR3/3　直径15mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり硬く締まっている。

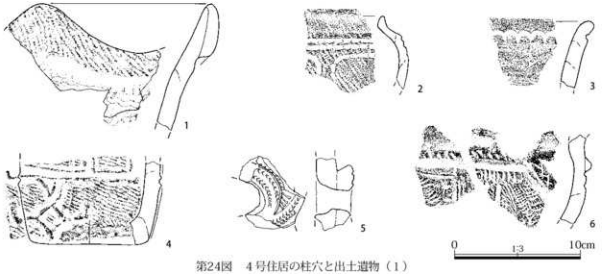
L－L'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径10mm以下のローム塊、炭化物粒を少量含む。粘性があり硬く締まっている。

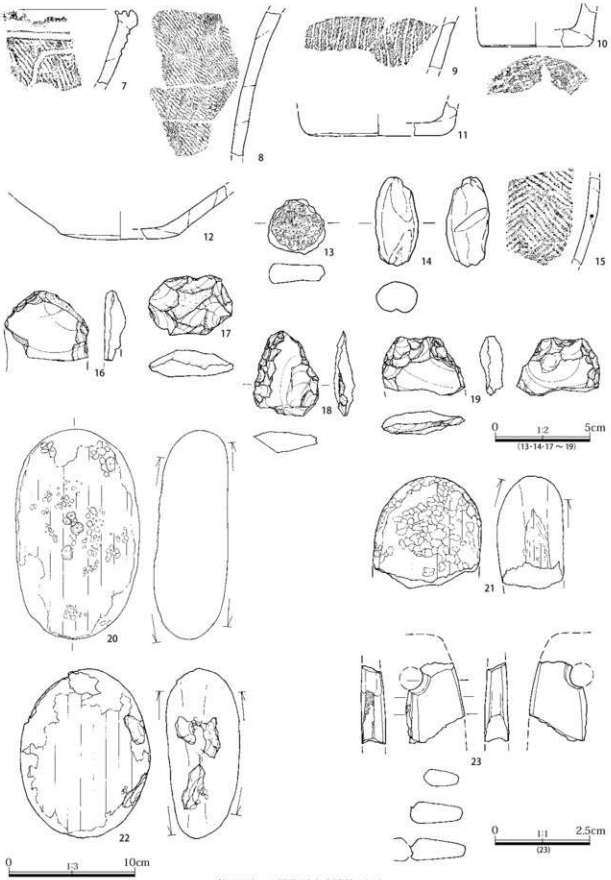
N－N'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径3mm以下のローム塊をやや多く含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/3直径5mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり硬く締まっている。

0　1:60　2m



第24図　４号住居の柱穴と出土遺物（１）



第25図　4号住居出土遺物（2）

以上× 0.31 × 0.44 m) はＰ４の差し替えである可能性が考えられる。　**炉**　Ｐ 10 付近に存在していた可能性が考えられるものの、調査時に掘り込み、焼土、灰層、炭化物の集中域などを検出することはできなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**床面**　地山ローム土上面を床面としたが、この床面は植物等による攪乱を受け、凹凸が著しかった。　**出土遺物**　土器は全体で 237 点が出土した。内訳は前期中葉 (黒浜式)41 点、前期後葉 (諸磯ａ～ｃ式) ８点、中期中葉 (阿玉台式・勝坂式)169 点、不明 19 点で、このうち、15 点を図化・掲載した。石器類は石器 12 点、剥片 19 点、礫・礫片 89 点が出土した。このうち、８点の石器を図化・掲載した。残存壁高が低いことから、他の竪穴住居跡に比べ出土遺物数が少ない。土器は埋没土中からの出土である。石器は打製石斧 (第 25 図 16)　凹石 (同 20)、磨石 (同 22) が床面直上および周辺から出土した。埋没土中からであるが、変質蛇紋岩製の垂飾 (第 25 図 23) も出土している。　**所見**　推定円形の形状に４本の主柱穴が想定されることや、出土した土器の多くが阿玉台Ⅲ・Ⅳ式併行であることから、阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期の住居であると考えられる。

第５表　Ｂ区４号住居ピット一覧表

長軸　不明	短軸　不明			残存壁高　0.08 m	
主軸方向	Ｎ－72°－Ｅ			面積	－
柱穴	規模 (ｍ)			形状	次柱穴との間隔 (ｍ)
Ｎｏ	長径	短径	深さ		
Ｐ 1	0.4	0.34	0.65	不整円形	2.10(P3)
Ｐ 2	0.33	0.29	0.58	不整円形	
Ｐ 3	0.48	0.4	0.72	楕円形	1.96
Ｐ 4	0.47	0.34	0.52	楕円形	
Ｐ 5	0.31	0.29	0.32	不整円形	
Ｐ 6	0.64	0.46	0.41	楕円形	
Ｐ 7	0.2	0.18	0.15	円形	
Ｐ 8	0.29	0.23	0.45	楕円形	
Ｐ 9	0.39	0.22	0.32	楕円形	
Ｐ 10	0.37	0.25	0.17	楕円形	
Ｐ 11	0.38	0.24	0.45	楕円形	
Ｐ 12	0.36	0.32	0.55	楕円形	
Ｐ 13	0.30 ＋	0.31	0.44	楕円形	

５号住居

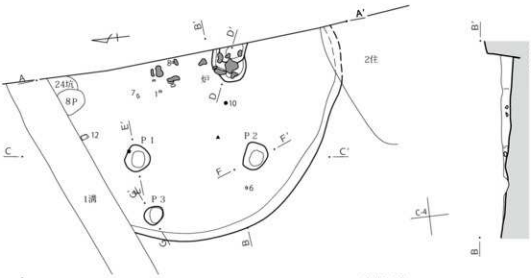
（第 26･27 図　PL4･18　遺物属性表 P.67･71）

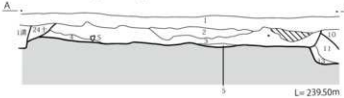
位置　Ａ区Ｂ－４・５Ｇ　**形状・規模**　円形と推定される。長軸 4.3 m以上　残存壁高 0.15 m　**面積**　計測不能　**方位**　N-83°-W　**重複**　１号溝、24 号土坑、８号ピットと重複しているが、いずれも５号住居が古い。**埋没土**　硬く締まった黒褐色土を主体とする。自然埋没土と考えられる。　**柱穴**　主柱穴 (長軸×短軸×深さ) は、Ｐ 1 (0.43 × 0.42 × 0.67 m)、Ｐ 2 (0.45 × 0.4 × 0.59 m) であると考えられる。また、Ｐ 3 (0.32 × 0.27 × 0.52 m) については、位置が壁に近いものの、埋没土の特徴が共通することから、同じく５号住居の柱穴とした。**炉**　住居中央部よりやや南寄りで地床炉１基を検出した。炉の掘り込みが２段になっていることから、作り替えの可能性も考えられる。また、この地床炉のやや北からも焼土が検出されたが、この範囲にも炉があった可能性が考えられる。　**周溝**　検出されなかった。

床面　地山ローム土上面を床面としたが、この床面は西壁から中央部に向かって緩やかに下っている。**出土遺物**　土器は全体で 60 点が出土した。内訳は前期中葉 (黒浜式)19 点、前期後葉 (諸磯ａ～ｃ式)10 点、中期中葉 (阿玉台式･勝坂式) ６点、中期後葉 (加曽利ＥⅠ新～Ⅱ式) ３点、不明 22 点で、このうち、９点を図化･掲載した。石器類は石器３点、剥片４点、礫・礫片 11 点が出土した。このうち、３点の石器を図化・掲載した。残存壁高が低いことから、他の竪穴住居跡に比べ出土遺物数が少ない。床面に近い遺物は炉の西側に集中して出土した。　**所見**　円形の形状に４本の主柱穴が想定されることや、出土土器に加曽利ＥⅠ式が認められることから、加曽利ＥⅠ式期の住居であると考えられる。

第６表　Ａ区５号住居ピット一覧表

長軸　4.3 m以上	短軸　不明			残存壁高　0.15 m	
主軸方向	Ｎ－８３°－Ｗ			面積	－
柱穴	規模 (ｍ)			形状	次柱穴との間隔 (ｍ)
Ｎｏ	長径	短径	深さ		
Ｐ 1	0.43	0.42	0.67	不整円形	1.9
Ｐ 2	0.45	0.4	0.59	楕円形	
Ｐ 3	0.32	0.27	0.52	楕円形	



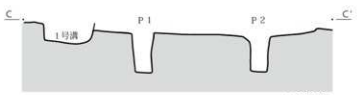


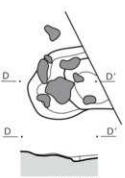
B－B'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径20mm以下のローム塊を多く含む。直径3mm以下の炭化物粒を少量含む。焼土粒をわずかに含む。やや粘性があり硬く締まっている。

A－A'

1. 表土
2. 黒褐色土10YR2/3　直径5mm以下のローム塊。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。
3. 黒褐色土10YR2/3　直径20mm以下のローム塊をやや多く含む。粘性があり硬く締まっている。
4. 黒褐色土10YR2/3　直径5mm以下のローム塊を少量含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。
5. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下のローム塊。直径3mm以下の炭化物。焼土粒をやや多く含む。粘性があり、やや硬く締まっている。





炉D－D'

1. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊を多く含む。直径5mm以下の焼土塊。炭化物粒をやや多く含む。粘性があり硬く締まっている。

E－E'

1. 暗褐色土10YR3/4　直径10mm以下のローム塊をやや多く含む。直径5mm以下の炭化物粒を少量含む。粘性がありやや硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/4　直径15mm以下のローム塊を非常に多く含む。粘性があり硬く締まっている。

F－F'

1. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/4　直径10mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性がありやや軟らかい。
3. 暗褐色土10YR3/4　直径15mm以下のローム塊を非常に多く含む。粘性があり硬く締まっている。

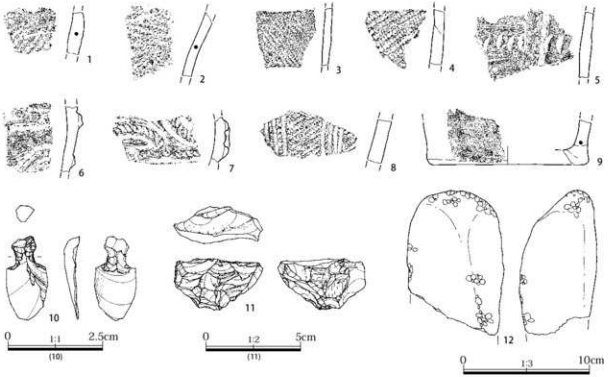
G－G'

1. 暗褐色土10YR3/4　直径15mm以下のローム塊を少量含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性がありやや硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/4　直径10mm以下のローム塊を非常に多く含む。粘性があり硬く締まっている。

0　1:30　1m

0　1:60　2m

第26図　5号住居



第27図　５号住居出土遺物

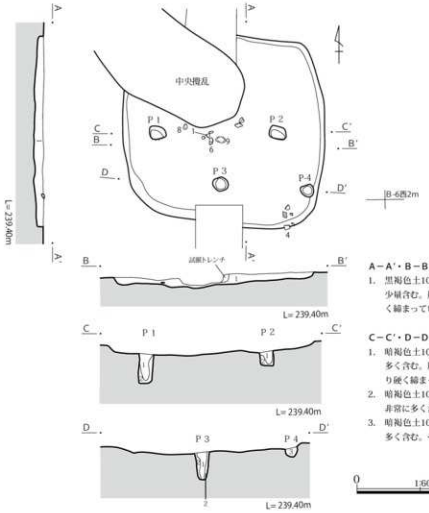
６号住居

（第28図　PL7･8･18　遺物属性表 P.67･71）

位置　A区B・C－５・６G　**形状・規模**　隅丸方形。長軸 3.21 m　短軸 3.02 m　残存壁高 0.12 m　**面積**　7.88㎡　方位　N-90°-E　**重複**　なし。北西部は攪乱によって破壊されている。**埋没土**　硬く締まった黒褐色土を主体とする。自然埋没土と考えられる。　**柱穴**　主柱穴（長軸×短軸×深さ）は、P１（0.27 × 0.22 × 0.5 m）、P２（0.28 × 0.2 × 0.22 m）であると考えられる。また、P３（0.25 × 0.23 × 0.45 m）についても主柱穴、或いは軸を 90°変更した主柱穴の差し替えの可能性が考えられる。P４（0.22 × 0.21 × 0.1 m）については、壁に近く埋没土の特徴がやや異なるものの、６号住居内からの検出であったため、６号住居の柱穴とした。　**炉**　住居中央部でやや遺物が集中していたが、この付近で掘り込み、焼土、灰層、炭化物の集中域などを検出することはできなかった。また、本住居の北東部分は、攪乱により床面が消失していたが、この範囲に炉があった可能性も考えられる。　**周溝**　検出されなかった。　**床面**　地山ローム土上面を床面とした。　**出土遺物**　土器は全体で 43 点が出土した。内訳は前期中葉（黒浜式）７点、前期後葉（諸磯ａ～ｃ式）１点、中期中葉（阿玉台式･勝坂式）35 点で、このうち、７点を図化・掲載した。石器類は石器２点、剥片７点、礫･礫片 18 点が出土した。このうち、２点の石器を図化・掲載した。残存壁高が低いことから、出土遺物数はが少ない。石器類は中央部、土器は南東隅に集中して出土した。石器は剥片系の石器は無く、凹石２点のみであった。　**所見**　隅丸方形の形状に２本主柱穴が想定されることや、出土土器が勝坂３式併行であることから、中期中葉段階の住居であると考えられる。

第７表　A区６号住居ピット一覧表

長軸　3.21 m	短軸　3.02 m		残存壁高　0.12 m		
主軸方向	N－90°－E			面積	7.88㎡
柱穴 No	規模（m）			形状	次柱穴との間隔（m）
	長径	短径	深さ		
P１	0.27	0.22	0.5	楕円形	1.95
P２	0.28	0.2	0.22	楕円形	
P３	0.25	0.23	0.45	円形	
P４	0.22	0.21	0.1	不整円形	

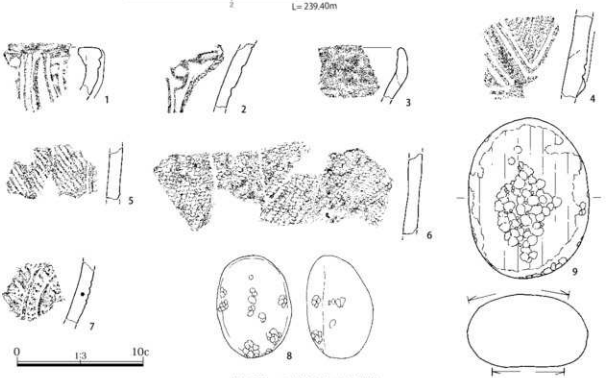


A－A'・B－B'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径15mm以下のローム塊を少量含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。

C－C'・D－D'

1. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。やや粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/3　直径15mm以下のローム塊を非常に多く含む。粘性があり硬く締まっている。
3. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊を多く含む。やや粘性があり硬く締まっている。



第28図　6号住居と出土遺物

７号住居

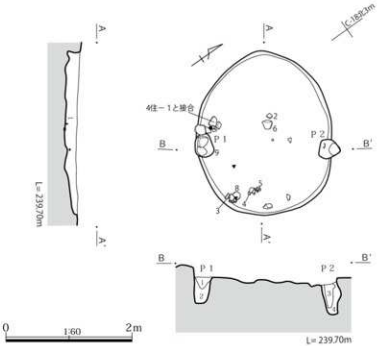
（第29･30図　PL8･18　遺物属性表P.67･71）

位置　B区B・C－17・18G　**形状・規模**　楕円形長軸2.61ｍ　短軸2.15ｍ　残存壁高0.2ｍ　**面積**　4.06㎡　**方位**　N-54°-W　**重複**　なし　**埋没土**　硬く締まった黒褐色土を主体とする。自然埋没土と考えられる。　**柱穴**　短軸側の壁面上に２基の柱穴（長軸×短軸×深さ）を検出したが、このＰ１（0.38 × 0.3 × 0.46 m）、Ｐ２（0.34 × 0.31 × 0.59 m）が主柱穴であると考えられる。　**炉**　調査時に掘り込み、焼土、灰層、炭化物の集中域などを検出することはできなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**床面**　地山ローム土上面を床面としたが、この床面は植物等による攪乱を受け、凹凸が激しかった。　**出土遺物**　土器は全体で49点が出土した。すべてが中期中葉（阿玉台式・勝坂式）の土器で、このうち５点を図化・掲載した。石器類は石器５点、剥片４点が出土した。このうち、４点の石器を図化・掲載した。残存壁高が低いことから、出土遺物数が少ない。床面近くの遺物は、中央部および南西部の壁際に偏在していた。特にＰ１の周囲には大型の礫石器や礫がまとまって出土した。この礫の下の床面直上の土器が４住－１（第24図）と遺構間接合した。

所見　楕円形の形状に２本の主柱穴であることや、出土した土器の多くが勝坂２式と阿玉台Ⅱ式に併行することから、阿玉台式期の住居であると考えられる。

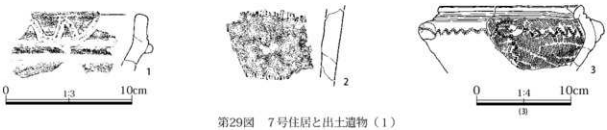
第８表　Ｂ区７号住居ピット一覧表

長軸	2.61 m	短軸	2.15 m	残存壁高	0.2 m
主軸方向	N－54°－W			面積	4.06㎡
柱穴	規模（m）			形状	次柱穴との間隔（m）
Ｎｏ	長径	短径	深さ		
Ｐ１	0.38	0.3	0.46	楕円形	
Ｐ２	0.34	0.31	0.59	不整楕円形	

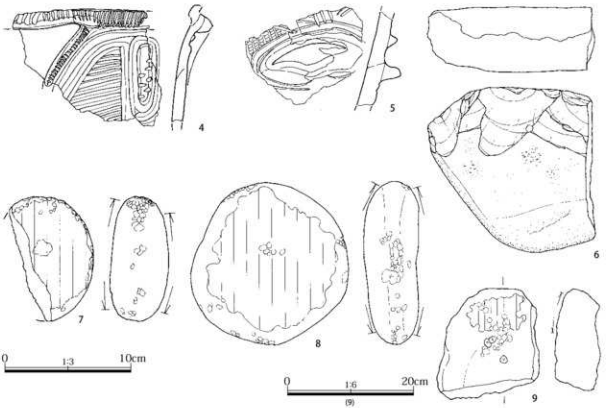


A－A'
1. 暗褐色土10YR2/3　直径20mm以下のローム塊を多く含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む。やや粘性があり硬く締まっている。

B－B'
1. 暗褐色土10YR3/3直径5mm以下のローム塊をやや多く含む。炭化物粒を少量含む。粘性がありやや軟らかい。
2. 暗褐色土10YR3/3直径10mm以下のローム塊を非常に多く含む。粘性がありやや軟らかい。
3. 暗褐色土10YR3/3直径10mm以下のローム塊をやや多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性がありやや軟らかい。
4. 暗褐色土10YR3/3直径20mm以下のローム塊を多く含む。粘性がありやや軟らかい。



第29図　７号住居と出土遺物（１）



第30図　7号住居出土遺物（2）

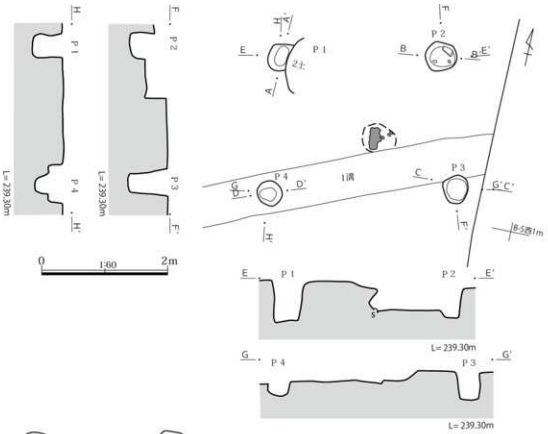
8号住居

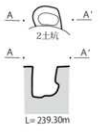
（第31図　PL8･9･18　遺物属性表P.67･71）

位置　A区B・C－4・5G　**形状・規模**　柱穴および焼土のみの残存していた。掘り込みや床面を検出することはできなかった。　**面積**　不明　**方位**　N-78°-W　**重複**　1号溝より古く、5号住居より新しい24号土坑よりも新しい。2号土坑との新旧関係は断面での確認はできなかったが、出土遺物から8号住居が新しいと判断できる。**埋没土**　現代の耕作が確認面まで及んでいたため、埋没土は不明である。　**柱穴**　P1～P4は焼土を中央において方形に位置しており、住居の4本主柱穴の可能性がある。それぞれの規模（長軸×短軸×深さ）は、P1（0.44×0.31以上×0.48 m）、P2（0.5×0.44×0.66 m）、P3（0.45×0.38×0.45 m）、P4（0.41×0.39×0.38 m）である。　**炉**　4本の柱穴のほぼ中央部に、地山のローム土が焼土化した部分を検出した。焼土の範囲は長軸0.36m、短軸0.18mの楕円形で、厚さは1～2㎝ほどであった。地床炉の痕跡の可能性が考えられる。　**出土遺物**　P2埋没土中から黒浜式土器破片1点（第31図1）と変玄武岩の礫片1点が出土した。P4埋没土中からは勝坂式土器破片が1点（第31図2）が出土した。**所見**　4本のピットと中央部の焼土の配置から、4本主柱穴と中央の地床炉が想定され、住居の痕跡と考えたい。P3が5号住居より新しい24号土坑より新しいことから、本8号住居は加曽利EⅠ式期の5号住居より新しいことになり、加曽利EⅠ式期以降の住居と考えられる。P2・P4の出土土器は混入と考えられる。

第9表　A区8号住居ピット一覧表

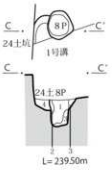
長軸　不明	短軸　不明m			残存壁高　0m	
主軸方向	N－78°－E			面積	－
柱穴 No	規模（m）			形状	次柱穴との間隔（m）
	長径	短径	深さ		
P1	0.44	0.31＋	0.48	楕円形	2.6
P2	0.5	0.44	0.66	楕円形	2.12
P3	0.45	0.38	0.45	楕円形	3
P4	0.41	0.39	0.38	円形	2.2





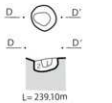
B－B'

1. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下のローム塊、炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/4　直径10mm以下のローム塊をやや多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。
3. 暗褐色土10YR3/4　直径15mm以下のローム塊を非常に多く含む。粘性があり硬く締まっている。



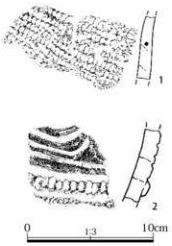
C－C'

1. 暗褐色土10YR3/3　直径20mm以下のローム塊を多く含む。直径5mm以下の炭化物粒を少量含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり硬く締まっている。
3. 褐色土　10YR4/4　直径5mm以下のローム塊を非常に多く含む。粘性があり硬く締まっている。
4. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下のローム塊をやや多く含む。粘性があり硬く締まっている。



D－D'

1. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下のローム塊をやや多く含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり硬く締まっている。



第31図　８号住居と出土遺物

（2）土坑

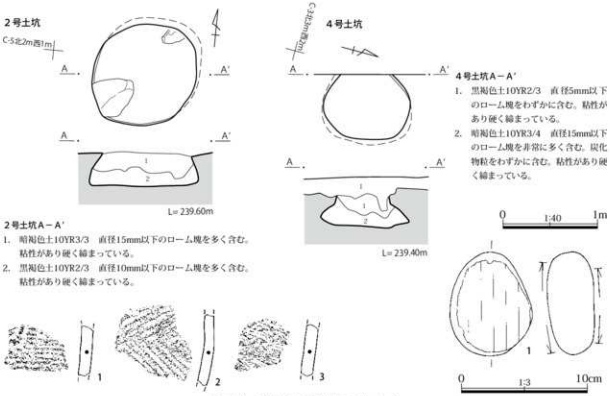
今回の上ノ台遺跡の調査では、埋没土の特徴や出土土器から縄文時代の遺構と推定される土坑は26基検出された。このうち出土土器から時期が推定できる土坑は17基である。これらの土坑は次のような4形態に分類できた。ここでは①円形－断面袋状の土坑　②円形－断面箱形の土坑、③楕円形－断面箱形の土坑、④不整円形の土坑に分けて報告する。個々の計測値は第10表に一括して記載した。なお、19号土坑と24号土坑は調査できた範囲が狭いので形態は不明と言わざるを得ない。本項の記述からは除外したが、縄文時代の遺構に先行するので、縄文時代の遺構であることは明らかである。

①円形－断面袋状の土坑

（第32～34図 PL9・10・19　遺物属性表 P.67・71）

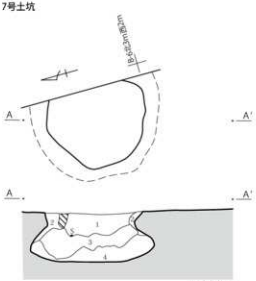
2号・4号・7号・11号・14号・25号・27号・28号・29号土坑の9基が検出された。平面形は2号土坑・4号土坑・11号土坑・27号土坑がやや楕円形、7号土坑・25号土坑は不整円形、28号土坑・29号土坑は円形である。14号土坑は全形が調査できなかったが、楕円形と推定される。規模は最も小さい4号土坑が長軸0.88 m、大きい2号土坑が1.20 mである。断面形はいずれも底面の径が大きくなる袋状である。7号土坑と11号土坑は重複しているが、新旧関係は不明である。25号土坑は3号住居と重複している可能性が考えられるが、新旧関係は不明である。

埋没土は、29号土坑を除いて、いずれも硬く締まった暗褐色土あるいは黒褐色土である。29号土坑は、上層は締まりの弱い褐色土、下層は締まりの弱い暗褐色土で埋まっていた。埋没土が縄文時代の他の土坑と異なっていたため、旧石器の試掘調査の途中で検出した。土坑の時期は、2号土坑・4号土坑・7号土坑・11号土坑・14号土坑・28号土坑から出土した土器が黒浜式であることから、この6基は縄文時代前期黒浜式期と推定される。25号土坑は加曽利ＥⅠ～Ⅱ式土器が出土しており、当該期の土坑と考えられる。土器の出土がなかった29号土坑は時期不明であるが、4号土坑と並ぶ位置からすれば、同様に黒浜式期の可能性もあろう。



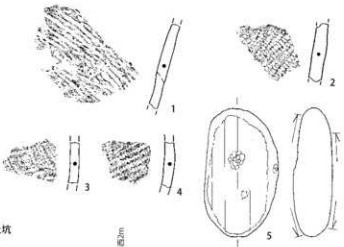
第32図　円形－断面袋状の土坑（1）

7号土坑

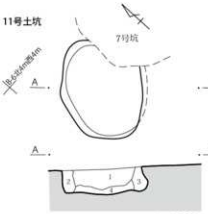


7号土坑Ａ－Ａ'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径5mm以下のローム塊、炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 黒褐色土10YR2/3　直径10mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。
3. 黒褐色土10YR2/3　直径15mm以下のローム塊、直径5mm以下の炭化物粒をやや多く含む。粘性があり硬く締まっている。
4. 暗褐色土10YR3/3　直径15mm以下のローム塊を多く含む。非常に粘性があり硬く締まっている。



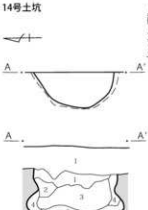
11号土坑



11号土坑Ａ－Ａ'

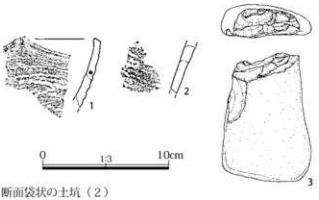
1. 黒褐色土10YR2/3　直径5mm以下のローム塊、炭化物粒をわずかに含む。やや粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり硬く締まっている。
3. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊を非常に多く含む。粘性がありやや硬く締まっている。
4. 暗褐色土10YR3/3　直径15mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり硬く締まっている。

14号土坑



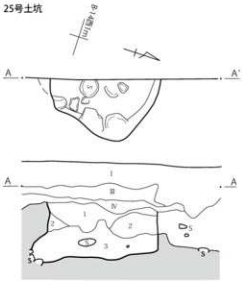
14号土坑Ａ－Ａ'

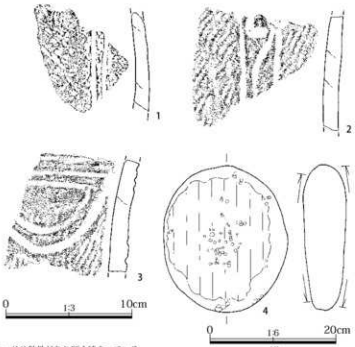
1. 黒褐色土10YR2/3　直径10mm以下の暗褐色土塊、炭化物粒をわずかに含む。やや粘性がある。
2. 黒褐色土10YR2/3　直径10mm以下の暗褐色土塊をややを多く含む。直径10mm以下のローム塊、炭化物粒を少量含む。粘性があり硬く締まっている。
3. 黒褐色土10YR2/3　直径5mm以下の炭化物粒をやや多く含む。直径15mm以下のローム塊を少量含む。粘性がありやや硬く締まっている。
4. 黒褐色土10YR2/3　直径15mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性がありやや硬く締まっている。
5. 暗褐色土10YR3/3　直径20mm以下のローム塊を非常に多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり非常に硬く締まっている。
6. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。



第33図　円形－断面袋状の土坑（２）

25号土坑

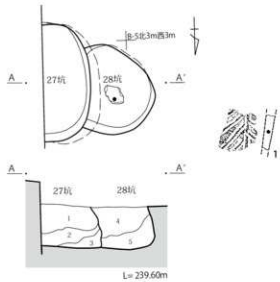




25号土坑Ａ－Ａ'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径5mm以下のローム塊をわずかに含む。やや粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊をやや多く含む。粘性があり非常に硬く締まっている。
3. 黒褐色土10YR2/3　直径15mm以下のローム塊をやや多く含む。炭化物粒を少量含む。粘性があり硬く締まっている。

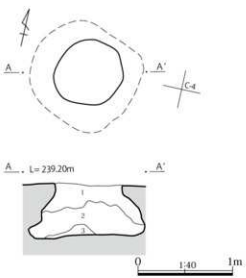
27・28号土坑



27号・28号土坑Ａ－Ａ'

1. 暗褐色土10YR3/4　直径15mm以下のローム塊をやや多く含む。直径5mm以下の炭化物粒を少量含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/4　直径10mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり硬く締まっている。
3. 暗褐色土10YR3/4　直径5mm以下のローム塊をやや多く含む。粘性があり硬く締まっている。
4. 暗褐色土10YR3/4　直径15mm以下のローム塊をやや多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。
5. 暗褐色土10YR3/4　直径25mm以下のローム塊をやや多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。

29号土坑



29号土坑Ａ－Ａ'

1. 褐色土10YR4/6　直径15mm以下のローム塊を非常に多く含む。やや粘性があり締まり弱い。
2. 暗褐色土10YR3/4　直径10mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。やや粘性があり締まり弱い。
3. 褐色土10YR4/6　直径20mm以下のローム塊を非常に多く含む。粘性があり硬く締まっている。

第34図　円形－断面袋状の土坑（3）

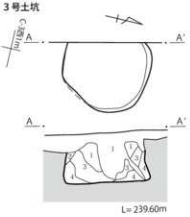
②円形一断面箱形の土坑

(第 35 ～ 36 図　PL10･19　遺物属性表 P.68･72)

３号・８号・18 号・21 号・26 号土坑の５基が検出された。これらは概ね円形で、断面形は箱形、底面は平坦である。18 号土坑は 19 号土坑と重複しているが、18 号土坑が新しい。21 号土坑は４号住居と重複している可能性が考えられるが、新旧関係は不明である。

埋没土はいずれも硬く締まった暗褐色土か黒褐色土である。土坑の時期は、18 号土坑・26 号土坑から黒浜式土器が出土している。８号土坑は諸磯ａ式土器が出土している。３号土坑・21 号土坑は出土遺物がなく、時期は不明であるが、埋没土の状況から縄文時代の土坑であることは明らかである。

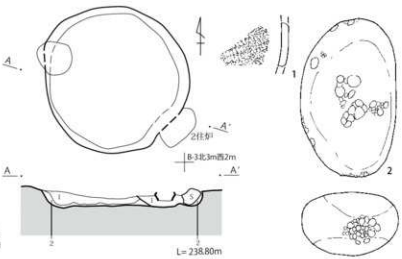
３号土坑



３号土坑Ａ－Ａ'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径5mm以下のローム塊、炭化物粒をわずかに含む。やや粘性があり硬く締まっている。
2. 黒褐色土(10YR2/3)と直径10mm以下のローム塊の斑状混土。軟らかい。
3. 黒褐色土10YR2/3　直径15mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。
4. 暗褐色土10YR3/3　直径15mm以下のローム塊を非常に多く含む。粘性があり硬く締まっている。

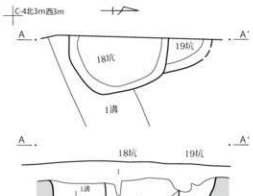
８号土坑



８号土坑Ａ－Ａ'

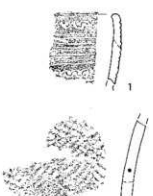
1. 黒褐色土10YR2/3　直径10mm以下のローム塊、直径5mm以下の炭化物粒をやや多く含む。やや粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/3　直径15mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり硬くしまっている。
3. 暗褐色土7.5YR3/4　焼土粒・炭化物粒をやや多く含む。直径5mm以下のローム塊をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。

18・19号土坑

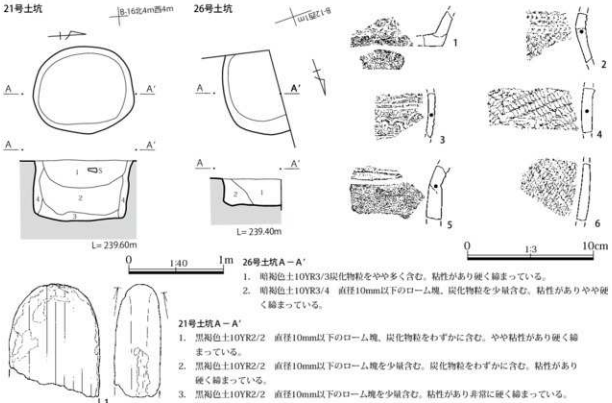


18号・19号土坑Ａ－Ａ'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径15mm以下のローム塊を多く含む。軟らかい。
2. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊、直径　3mm以下の炭化物粒を少量含む。やや粘性があり硬く締まっている。
3. 暗褐色土10YR3/3　直径15mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり非常に硬く締まっている。
4. 暗褐色土10YR3/4　直径20mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり非常に硬く締まっている。
5. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり非常に硬く締まっている。



第35図　円形一断面箱形の土坑（１）



26号土坑Ａ－Ａ'

1. 暗褐色土10YR3/3炭化物粒をやや多く含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/4　直径10mm以下のローム塊、炭化物粒を少量含む。粘性がありやや硬く締まっている。

21号土坑Ａ－Ａ'

1. 黒褐色土10YR2/2　直径10mm以下のローム塊、炭化物粒をわずかに含む。やや粘性があり硬く締まっている。
2. 黒褐色土10YR2/2　直径10mm以下のローム塊を少量含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。
3. 黒褐色土10YR2/2　直径10mm以下のローム塊を少量含む。粘性があり非常に硬く締まっている。
4. 黒褐色土10YR2/2　直径10mm以下のローム塊をやや多く含む。粘性がありやや硬く締まっている。

第36図　円形一断面箱形の土坑（２）

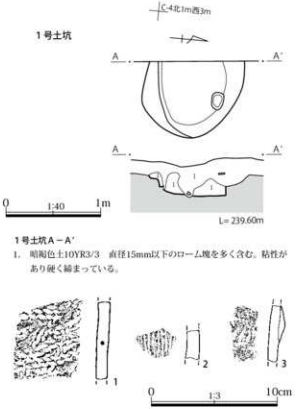
③楕円形一断面箱形の土坑

(第37･38図　PL10･19　遺物属性表P.68)

１号･６号･22号･23号土坑の４基が検出された。これらは23号土坑のみやや大型であるが、同規模の楕円形の土坑で、断面形は箱形である。６号土坑は５号土坑と重複しているが、６号土坑の方が古い。22号土坑と23号土坑は重複しているが、23号土坑の方が古い。

埋没土はいずれも硬く締まった暗褐色土あるいは黒褐色土である。

土坑の時期は、22号･23号土坑から黒浜式土器、１号土坑から黒浜式土器と加曽利Ｅ式土器が出土していることから、加曽利Ｅ式期の土坑である可能性が高い。６号土坑からは出土遺物がなく、時期は不明である。６号土坑・23号土坑からは大型礫が出土している。形状や大型礫の出土から、墓壙の可能性があるが、調査では断定することはできなかった。

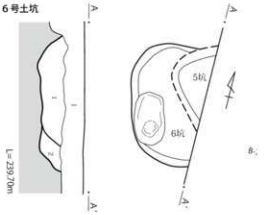


1号土坑Ａ－Ａ'

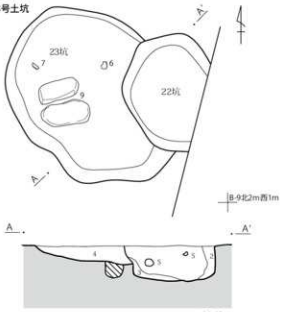
1. 暗褐色土10YR3/3　直径15mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり硬く締まっている。

第37図　楕円形一断面箱形の土坑（１）

6号土坑



22・23号土坑



5号・6号土坑Ａ－Ａ'

1. 黒褐色土10YR2/2　直径20mm以下のローム塊をやや多く含む。やや粘性がある。
2. 黒褐色土10YR2/3　直径10mm以下のローム塊をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。

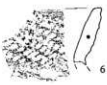
0　1:40　1m

22号・23号土坑Ａ－Ａ'

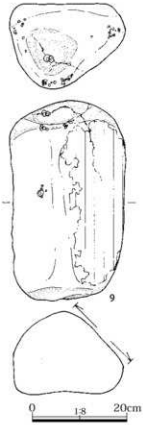
1. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下のローム塊、炭化物粒をわずかに含む。やや粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。やや粘性があり硬く締まっている。
3. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊を多く含む。やや粘性があり硬く締まっている。
4. 暗褐色土10YR3/3　直径15mm以下のローム塊をやや多く含む。炭化物粒をわずかに含む。やや粘性があり硬く締まっている。

22号土坑

23号土坑



0　1:3　10cm



0　1:8　20cm

第38図　楕円形－断面箱形の土坑（２）

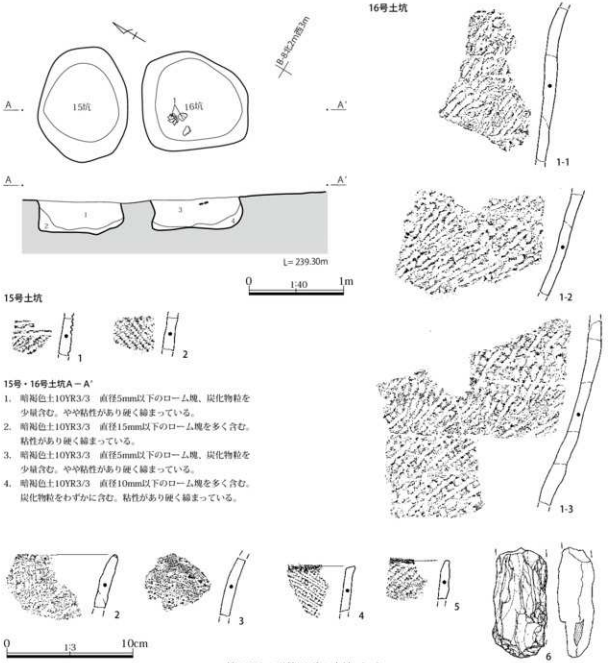
④不整円形の土坑

(第 39・40 図　PL11・19　遺物属性表 P.68・72)

9 号・10 号・12 号・13 号・15 号・16 号土坑の 6 基が検出された。これらは大きさに幅があるが、いずれも不整円形の土坑である。断面形は規模の小さい 9 号土坑・12 号土坑・13 号土坑が皿状、やや大きな 10 土坑と 15 号土坑・16 号土坑は浅い筒状である。

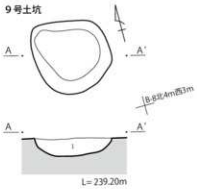
埋没土はいずれも硬く締まった暗褐色土で、10 号土坑のみ黒褐色土であった。

10 号土坑は黒浜式土器を出土した 6 号ピットに切られており、黒浜式期以前の土坑であると考えられる。9 号土坑・12 号土坑・15 号土坑・16 号土坑からも黒浜式土器が出土しており、この時期の土坑と推定される。16 号土坑からは底面上 3 cm で深鉢形土器 (第 39 図 1) が出土した。



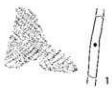
第39図　不整円形の土坑（1）

9号土坑



9号土坑Ａ－Ａ'

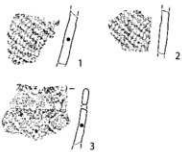
1. 暗褐色土10YR3/4　直径10mm以下のローム塊をやや多く含む。炭化物粒をわずかに含む。硬く締まっている。



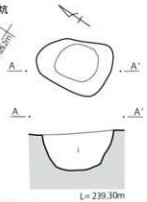
12号土坑

12号土坑Ａ－Ａ'

1. 暗褐色土10YR3/4　直径10mm以下のローム塊をやや多く含む。直径3mm以下の炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。



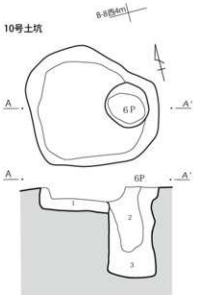
13号土坑



13号土坑Ａ－Ａ'

1. 暗褐色土10YR3/4　直　径１５ｍｍ以下のローム塊をやや多く含む。直径3mm以下の炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。

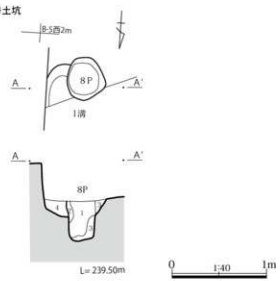
10号土坑



10号土坑・６号ピットＡ－Ａ'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径10mm以下のローム塊を少量含む。炭化物粒をわずかに含む。やや粘性があり硬く締まっている。
2. 黒褐色土10YR2/3　直径15mm以下のローム塊、炭化物粒をやや多く含む。やや粘性があり硬く締まっている。
3. 暗褐色土10YR3/4　直径15mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり硬く締まっている。

24号土坑



24号土坑・８号ピットＡ－Ａ'

1. 暗褐色土10YR3/3　直径20mm以下のローム塊を多く含む。直径5mm以下の炭化物粒を少量含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり硬く締まっている。
3. 褐色土10YR4/4　直径5mm以下のローム塊を非常に多く含む。粘性があり硬く締まっている。
4. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下のローム塊をやや多く含む。粘性があり硬く締まっている。

第40図　不整円形の土坑（２）

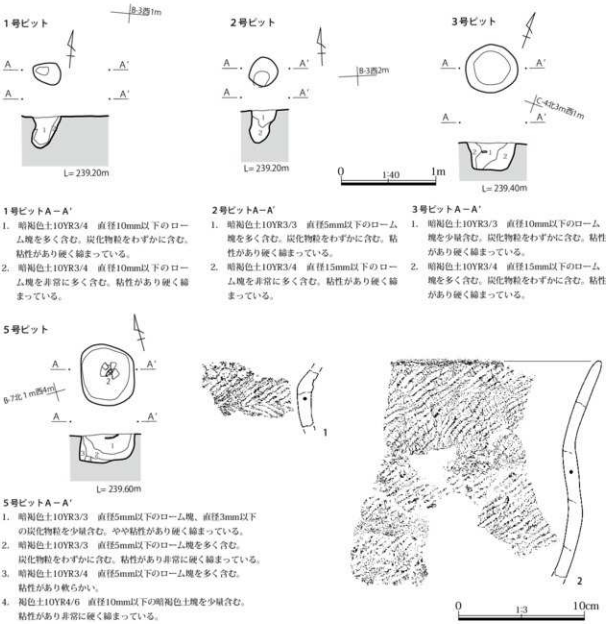
（3）ピット

（第41･42図　PL12･20　遺物属性表P.68）

1号～11号ピットは、埋没土の特徴と出土遺物から縄文時代の遺構と判断した。このうち4号・7号・8号・10号ピットは8号住居の主柱穴と判断したので、8号住居の項で報告した。個々のピットの形態や計測値は第10表に一括して記載した。

3号ピットからは黒浜式土器が3点、5号ピットからは黒浜式土器の破片17点と礫・礫片が3点出土している。6号ピットからは阿玉台式土器1点とチャート製の石核1点が出土しており、注目される。11号ピットは加曽利ＥⅠ～Ⅱ式期と推定される3号住居と重複しており、住居より古いと観察されている。1・2号ピットは時期を明らかにする資料は得られなかったが、埋没土の共通性から縄文時代のピットと判断した。

ピットの性格については調査では明らかにすることはできなかった。何らかの構造物の柱穴と判断できる配列は想定できない。



1号ピットA－A'

1. 暗褐色土10YR3/4　直径10mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/4　直径10mm以下のローム塊を非常に多く含む。粘性があり硬く締まっている。

2号ピットA－A'

1. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/4　直径15mm以下のローム塊を非常に多く含む。粘性があり硬く締まっている。

3号ピットA－A'

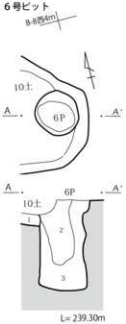
1. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊を少量含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/4　直径15mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。

5号ピットA－A'

1. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下のローム塊、直径3mm以下の炭化物粒を少量含む。やや粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性があり非常に硬く締まっている。
3. 暗褐色土10YR3/4　直径5mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり軟らかい。
4. 褐色土10YR4/6　直径10mm以下の暗褐色土塊を少量含む。粘性があり非常に硬く締まっている。

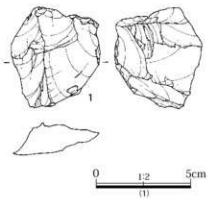
第41図　ピット（1）

６号ピット

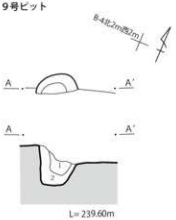


6号ピットA－A

2. 黒褐色土10YR2/3　直径15mm以下のローム塊、炭化　物粒をやや多く含む。やや粘性があり硬く締まっている。
3. 暗褐色土10YR3/4　直径15mm以下のローム塊を多く含む。粘性があり硬く締まっている。



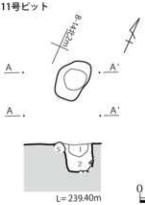
９号ピット



9号ピットA－A'

1. 暗褐色土10YR3/3　直径10mm以下のローム塊を多く含む。炭化物粒・直径3mm以下の焼土塊をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/3　直径15mm以下のローム塊を非常に多く含む。粘性があり硬く締まっている。

11号ピット



11号ピットA－A'

1. 暗褐色土10YR3/3　直径20mm以下のローム塊を多く含む。直径5mm以下の炭化物粒を少量含む。粘性があり硬く締まっている。
2. 暗褐色土10YR3/3　直径5mm以下のローム塊をわずかに含む。直径30mm以下の礫をやや多く含む。粘性があり硬く締まっている。

第42図　ピット（２）

3．時期不明の遺構と遺物

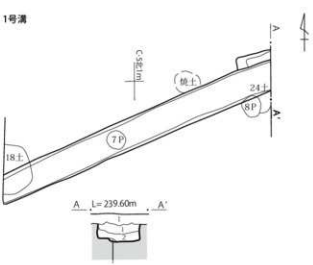
(1) 溝

1号溝（第43図　PL13）

位置　A区B・C－4・5G　**形状・規模**　底面は平坦で、側面はほぼ垂直に立ち上がっている。東端部分では、幅が0.2mほど拡張されている。**調査長** 63.0m　**最大幅**　1.40m　**残存深**　0.24m　**走向** N-67°-E　**重複**　5号住居、18・24号土坑、7・8号ピット（8号住居）と重複しているが、いずれも1号溝が新しい。**埋没土**　黒味の強い黒褐色土である。砂層の堆積は認められない。　**出土遺物**　遺物は縄文土器11点、礫・礫片3点が出土した。縄文土器の内訳は前期中葉2点、中期中葉3点、中期後葉6点であるが、いずれも1号溝に伴うものとは考えられないので、遺構外で報告した。礫・礫片の時期は不明と言わざるを得ない。また陶器破片2片が1号溝から出土した可能性があるが、断定はできない。いずれも小破片で時期を特定するには困難な破片である。　**所見**　本遺跡の発掘調査中、夕立のたびに側溝から溢れた雨水がアスファルトの路面を川のようになって流れる様子を目撃した。本遺跡東側の山地に降った雨が、標高の低い本遺跡周辺に一気に集まってくるためと思われる。1号溝は、狭い段丘面を横断する方向に掘られていることから、集まってきた雨水を素早く下位段丘面に排水するための排水溝であると考えられる。しかし埋没土中に砂層の堆積が認められないことから、常時、水が流れていたわけではなく、区画溝としての役割をもっていた可能性も考えられる。

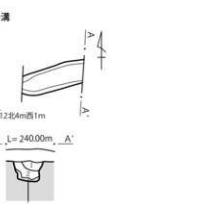
2号溝（第43図　PL13）

位置　B区A・B－12G　**形状・規模**　底面は平坦である。側面は底面付近ではほぼ垂直に立ち上がっているが、上端ではやや開いている。**調査長** 1.34m　**最大幅**　0.52m　**残存深**　0.11m　**走向** N-75°-E　**重複**　なし。　**埋没土**　黒味の強い黒褐色土である。砂層の堆積は認められない。　出土遺物　遺物は出土しなかった。　**所見**　1号溝と同様に、狭い段丘面を横断する方向に掘られていることから、降雨時の排水溝であると考えられる。また、埋没土中に砂層の堆積が認められないことから、区画溝としての役割をもっていた可能性も考えられる。



1号溝A－A'

1. 黒褐色土 10YR2/2　直径20mm以下のローム塊を非常に多く含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2　直径30mm以下のローム塊をやや多く含む。やや粘性がある。
3. 黒褐色土 10YR2/2　直径5mm以下のローム塊を非常に多く含む。やや粘性があり硬く締まっている。



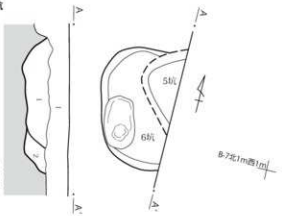
2号溝A－A'

1. 黒褐色土 10YR2/2　直径15mm以下のローム塊を多く含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2　直径10mm以下のローム塊を少量含む。やや粘性がある。
3. 黒褐色土 10YR2/2　直径5mm以下のローム塊をやや多く含む。やや粘性がある。

0　1:80　2m

第43図　1号・2号溝

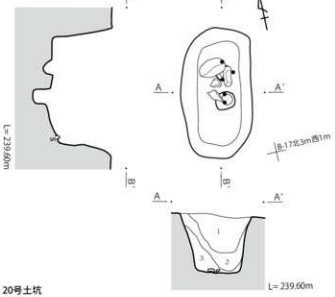
5・6号土坑



5号・6号土坑Ａ－Ａ'

1. 黒褐色土10YR2/2　直径20mm以下のローム塊をやや多く含む。やや粘性がある。
2. 黒褐色土10YR2/3　直径10mm以下のローム塊をわずかに含む。粘性があり硬く締まっている。

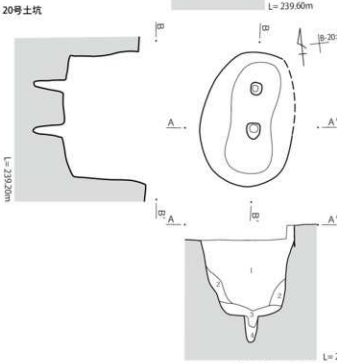
17号土坑



17号土坑Ａ－Ａ'

1. 黒褐色土10YR2/3　直径3mm以下のローム塊をわずかに含む。やや粘性がある。
2. 黒褐色土10YR2/3　直径5mm以下のローム塊を少量含む。粘性がある。
3. 黒褐色土10YR2/3　直径10mm以下のローム塊を多く含む。粘性がありやや硬く締まっている。

20号土坑



20号土坑Ａ－Ａ'

1. 黒褐色土10YR2/2　直径5mm以下のローム塊をわずかに含む。やや粘性があり軟らかい。
2. 黒褐色土10YR2/2　直径10mm以下のローム塊を多く含む。やや粘性があり軟らかい。
3. 黒褐色土10YR2/2　直径10mm以下のローム塊を少量含む。粘性があり軟らかい。
4. 黒褐色土10YR2/2　直径15mm以下のローム塊を非常に多く含む。粘性があり軟らかい。

0　1:40　1m

第44図　時期不明の土坑

（2）土坑

5号土坑（第44図　PL10）

位置　A区B－7G　**形状・規模**　隅丸方形と推定される。長軸・短軸とも不明。**残存壁高** 0.07 m　**重複**　6号土坑と重複しているが、5号土坑が新しい。**埋没土**　黒味の強い黒褐色土である。　**出土遺物**　遺物は出土しなかった。　**所見**　時期、性格とも不明である。

17号土坑（第44図　PL12）

位置　B区B－17G　**形状・規模**　隅丸長方形。側面はほぼ垂直に立ち上がっている。**長軸** 1.40 m　**短軸** 0.75 m　**残存壁高** 0.66 m　**底面**　底面はほぼ平坦で、長軸中央に2基の小ピットをもつ。　**長軸方位**　N-13°-E　**重複**　なし。**埋没土**　黒褐色土である。　**出土遺物**　遺物は出土しなかった。　**所見**　時期不明の陥穴である。ただし、埋没土中に浅間C軽石（As-C）が認められないことから、古墳時代前期以前の遺構である可能性も考えられる。

20号土坑（第44図　PL12）

位置　B区B－20G　**形状・規模**　底面付近では隅丸長方形であるが、上端では楕円形である。側面はほぼ垂直に立ち上がっており、上端でやや開く。**長軸** 1.43 m　**短軸** 0.98 m　**残存壁高** 0.85 m　**底面**　底面は平坦で、長軸中央に2基の小ピットをもつ。　**長軸方位**　N-21°-E　**重複**　なし　**埋没土**　黒味が強く柔らかい黒褐色土である。　**出土遺物**　遺物は出土しなかった。　**所見**　時期不明の陥穴である。ただし、埋没土中に浅間C軽石（As-C）が認められないことから、古墳時代前期以前の遺構である可能性も考えられる。

（3）ピット

B区の15ラインより北側で検出されたピット35基は、埋没土の特徴から、縄文時代の遺構ではないと判断したが、詳細な時期は不明である。これらのピットの埋没土は、2号溝等の埋没土と共通しており、やや軟質で黒味の強い黒褐色土であった。

ピットの規模や形状は第10表にまとめた。平面形は円形・楕円形のものが多く、隅丸方形のものが一部に含まれている。規模は長軸長0.20～0.46 m、短軸長0.21～0.42 m、残存壁高0.13～0.65 mの範囲におさまる。

これらのピットの分布状況は若干の粗密はあるが、不規則である。建物や柵と言った構造物の柱穴と判断できるような分布状況ではなかった。

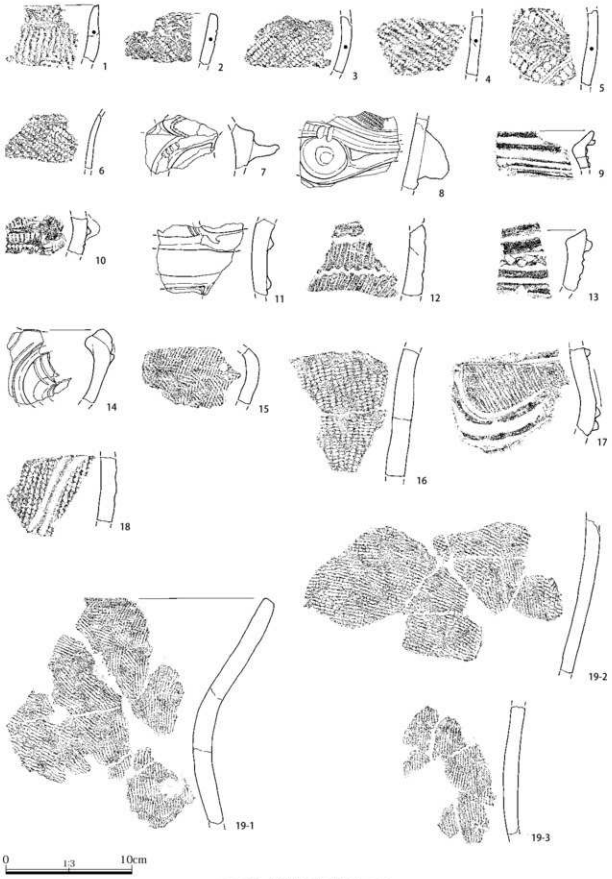
4．遺構外の出土遺物

上ノ台遺跡では、遺構から出土した遺物のほかに土器や石器類が出土しているが、それらは、大別して①試掘トレンチ、②中央攪乱内、③表土内、④表面採集の4カ所から出土している。

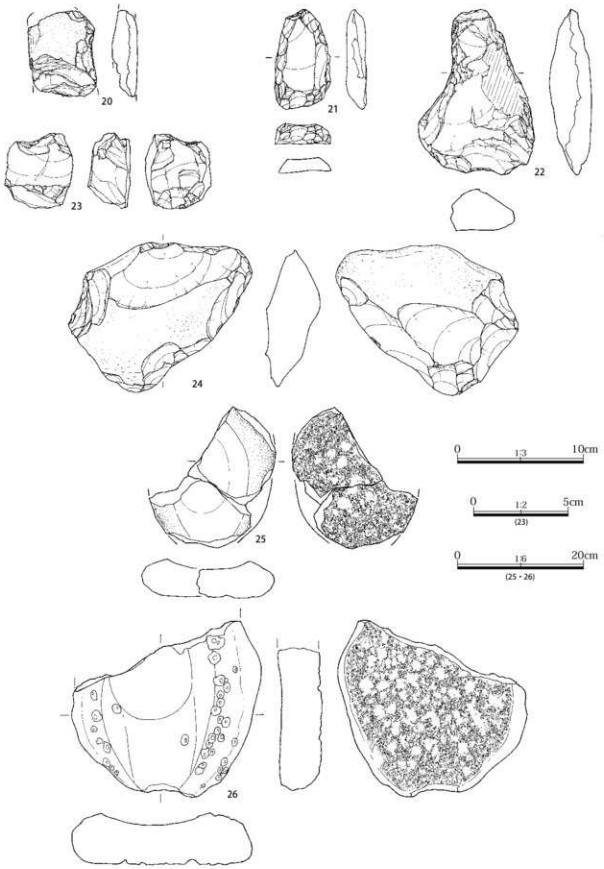
①は平成18年2月に文化課が実施した試掘トレンチである。②はA区中央部B・C－6Gにあった長径3.0 m、短径1.3 mの楕円形の攪乱土坑である。A区6号住居の北西隅を壊して掘られていた。③は遺構確認作業時に出土した遺物、④は発掘調査前に畑の脇に集められていた遺物である。

遺構外で出土した土器は314点で、内訳は縄文土器312点（第11表）、陶器2点である。このうち陶器2点は出土位置が不明であり、B区1号溝から出土した可能性もある。縄文土器の出土位置および時期の内訳は第11表に記載した。注記無しの58点は微細破片である。遺構外で出土した石器類は26点で、内訳は石器11点、剥片4点、礫・礫片11点である。これらの出土位置および石材・重量等の属性は第13表に記載した。

これらの遺構外出土の遺物すべてを報告書に掲載できないので、土器19点、石器7点を選択して報告した。1号溝出土縄文土器3点は時期が大きく異なるので、遺構外扱いとして本項図版に掲載した。なお図版は出土位置ごとでなく、土器は土器型式、石器は形態別に配置して報告した。出土位置は、第12・13表に記載した。



第45図　遺構外の出土遺物（１）



第46図　遺構外の出土遺物（2）

第４章　調査のまとめ

１．遺構について

今回の上ノ台遺跡の発掘調査では、縄文時代前期から中期の集落の一部と、縄文時代以降ではあるが時期の特定できない溝・土坑・ピット群を明らかにすることができた。特に縄文時代の遺構は、南に接する平成 17 年度調査区では前期前葉関山式期の竪穴住居が中心だったのに対して、今回の調査区では前期中葉黒浜式期の土坑群、前期後葉諸磯式期の住居、中期中葉阿玉台式・勝坂式期の住居、中期後葉加曽利ＥⅠ式期の住居という概ね４段階の遺構が検出された。上ノ台遺跡の調査区は幅が狭いことから、全掘できた遺構は少ないが、段丘面縁辺に比較的長期にわたって展開した縄文時代集落の一端を明らかにし得た調査といえよう。また、本地域では中期後葉の大集落である瀬戸ケ原遺跡以前の中期中葉の様相が明らかでなかったが、今回の調査でその資料を得ることができたことも成果の一つであろう。

検出された縄文時代の土坑はその多くが黒浜式土器を出土し、概ねＡ区に偏在していた。形態は前章で分類した通りであるが、特に円形・袋状の土坑はＡ区中央部に集中していた。これらの袋状土坑群は貯蔵施設と推定されるが、同時期の竪穴住居は発掘区内では検出されていない。発掘区周辺にあったことが想定できよう。また円形や楕円形の土坑が散在しており墓壙の可能性も考えられるが、調査では確定するまでにはいたらなかった。

縄文時代の竪穴住居８軒はＡ区からＢ区南半に分布していた。前期後葉の２号住居は隅丸方形で、炉には諸磯ｃ式の深鉢が埋設されていた。中期中葉の１号・４号・６号・７号住居は出土土器の時期にずれがあり、順次建てられたものと推定される。形態はそれぞれ円形・推定円形・隅丸方形・楕円形とバラエティがあり、明確なかはいずれの住居でも検出できなかった。本期は土器様相に多系統の土器が混在し、住居形態にも同様な多様性が認められる時期である。６号・７号住居のような隅丸方形や楕円形の住居も中期中葉の多様性を示しているのだろう。楕円形の７号住居は阿玉台式期小型住居の一つの形態と見られる。確実な中期後葉の住居は３号住居で加曽利ＥⅠ新式期である。５号・８号住居は住居形態等から加曽利ＥⅠ新式期と推定した。３号・５号住居は円形を基調とした住居である。炉の形態が判明した３号住居は土器埋設、５号・８号住居は地床炉であった。

一方、時期不明の 17 号・20 号土坑は陥穴と推定される長方形土坑である。群馬県では吾妻地域で平安時代後期の類例があり、それとの関連性を考えておきたい。

２．縄文土器について

本遺跡出土土器全てが縄文時代の所産であり、前期中葉・後葉、中期中葉と後葉に時期が限られる。この様相は、先に調査・報告された『上ノ台遺跡』（田村・小林 2005）とは差が認められ、同一台地における、各時期の集落占地状況に多様性を含む例として認識されよう。

ここでは、時期別に概略を述べるが、全ての破片資料に関しては、詳細が及ばない。挿図・図版及び属性表を参照されたい。

前期中葉：殆どが黒浜式に比定される資料である。

いわゆる、有尾式の資料が見られないが、前回報告では、３号住より有尾式の出土が見られることから、確実に土器組成に加わる様相が想起される。黒浜式への偏りは、地点あるいは遺構種によっては、有尾式が希薄になる現象として考えておきたい。

黒浜式の遺構出土としては、各土坑出土に限られるようである。土器を出土した土坑内では、16 号坑・23 号坑・26 号坑・５号ピット等に該期土器片が集

まる。ただし、完形土器の出土はなく、明確な時期や土坑の性格を類推する状態ではない。

文様の特徴としては、黒浜式の特徴である縄文施文を主とするが、横位連続刺突文、横位コンパス文、平行沈線による波状文などが見られる。横位 LR・RL による羽状縄文構成も見られるが、単方向の斜縄文構成を多く見る。原体は付加条１種・２種、前々段合撚りなど多様性に富む。

前期後半：２号住炉体土器に諸磯ｃ式土器（第 14 図１）を見る。また、その他に１号住埋土中に諸磯ａ式を主体に数片の出土を見ることができるが、これは、重複する８号坑の影響であろうか。

２号住炉体土器である諸磯ｃ式土器は、集合沈線を地文とし、貼付文を付す典型例であるが、口縁部文様帯に、意図的な縦位撫でが施されている。主体的な文様とは捉え難いが、口縁部棒状貼付文と同様の施文位置にあるため、同等の文様効果・意識を持たせた文様要素であろうか。

中期中葉：１・４・６・７号住に出土土器を見る。

１号住は、阿玉台Ⅰｂ式～Ⅱ式・勝坂１式、「新巻類型」等を出土する。県内の該期型式組成に沿う出土状態であるが、阿玉台式が若干ながら量的にも多く、個体も見ることができる。反対に勝坂１式は文様要素からも良好な例ではなく、個体も見られないことから、客体的な存在と判断できよう。「新巻類型」は県東部では量的には少なく、やはり客体的な存在と捉えられる組成傾向であるが、近年桐生市三島台遺跡などでも大型深鉢の出土が認められることから、分布圏に包括されるものである。

４号住（第 24 図）は２の七郎内Ⅱ群土器、４～６の勝坂２式等中葉の資料が目立つが、阿玉台Ⅳ式（１）を見るように、中葉末の資料（７～９）が混じる。

７号住の資料（第 29・30 図）は、阿玉台Ⅱ式（１・２）、勝坂２式（３・４）に比定され、比較的時間幅を狭く捉えられるが、小片ながら４号住１との遺構間接合が見られ注意を要しよう。５もあるいは中葉末の突起破片であろうか。中葉末の土器としては６号住（第 28 図１～６）が挙げられよう。

中期後葉：加曽利ＥⅠ式新段階の土器が３号住にまとまる（第 18 ～ 20 図）。炉体土器１、床直上出土２・３ともにＥⅠ式の特徴を具体化する資料である。

４は体部上半のみの残存だが、縦位波状隆線上に蛇行隆線を貼付する特徴を見せる。５の底部は４と同一個体であろうか。７はおそらく小型の大木８ｂ式であろう。南東北地方に見る体部上半に強い内湾を持たせる器形であろう。４・６・７は大木式との関連を考えておきたい。

その他では、縦位隆線を貼付する 16 は南関東から信州地方に散見する一群であろうか。小片のため判然としないが、口縁部に格子目状貼付文を付す例が、加曽利ＥⅠ式古段階あたりから知られる。30 は台付き深鉢脚部と判断したが、あるいは中空状突起の一部とする考えもある。17・18・26 はＥⅡ式の文様要素も見られ、３号住出土土器群はある程度時間幅を持たせておきたい。

３．石器について

上ノ台遺跡では、総計 774 点（剥片系石器 50 点、磨石等の礫石器 48 点、剥片類 241 点、礫・礫片類 435 点）の石器類が出土した。これらは 774 点中 631 点が住居埋没土、72 点が土坑埋没土、11 点がピット・溝の埋没土から出土したほか、表土・表採とした 60 点がある。

本遺跡の住居の時期は前期後葉から中期後葉で、中期の住居埋没土には例外なく前期土器破片が含まれていることから、石器についても前期から中期の石器が混在している可能性が高い。たとえば、中期中葉の１号住居から出土した乳房状の磨製石斧（第 13 図 54）や、４号住居から出土した石斧様の石製垂飾（第 25 図 23）は前期に特徴的な遺物である。一方、土坑については前期黒浜式土器が出土する土坑が多く、異なる時期の土器は混在しないようであるから、土坑出土の石器は、概ね前期黒浜式期の所産ということができよう。

出土した石器の器種と出土数は、磨製石斧２、打

製石斧 13・石鏃３・削器２・加工痕ある剥片 15・石核 12・石匙２・礫器１の剥片系石器と、凹石 12・磨石 10・敲石９・石皿３・台石６・多孔石５・線刻石１・垂飾１等の礫石器類である。

個別石器で注目される石器は、３号住居から出土した線刻石（第 22 図 57）や、磨製石斧破片（第 21 図 45）、４号住居出土の垂飾（第 25 図 23）、５号住居出土の小形石匙（第 27 図 10）等がある。線刻石は亜角礫の平坦面に斜向する幅２mm の条線と、これに「∠」状の浅い線刻（幅２～４mm）が交差するものである。「∠」の線刻は上下両端で対称的な位置にあり、その意味するところは不明だが、意図的意匠を感じる。このほか、礫面・中央より下半には顕著な磨耗面があり、類例に注目していきたい。磨製石斧破片は定角式で、蛇紋岩特有の緑色が変成作用で白く脱色したような印象を受ける。原産地は近隣では飛騨外縁帯（青海蓮華帯）にあるようで、県内縄文遺跡出土の磨製石斧にも少なからず存在（飯島静男氏の教示）するようである。同様に垂飾も変質蛇紋岩とされたもので、交易品として理解されるものである。垂飾は縦位スリットで破損した後、破損面を研磨しており、これには何らかの再生意図があったことは明らかである。その後、さらに上下両端を破損した後、表裏面を研磨している。表裏両面とも複数の方向の研磨痕（線状痕）が多方向に走り、量的に単なる使用過程のキズとするには無理があり、上述した破損面の研磨、垂飾の再生作業に関係したものと考えておきたい。石匙は実用具として疑問の残る小型品だが、左側縁には小剥離痕が連続してあり、実用具として機能したことが確定した。

出土石器に用いた各種石材は、基本的に渡良瀬川の河床礫を用いていると考えられる。打製石斧は珪質粘板岩製のそれに刃部磨耗があり、使用段階にある。石鏃はチャート製の３点中２点の加工が粗く、未製品であろう。石核はホルンフェルス製・チャート製があり、同種石材を用いた削器・加工痕ある剥片が出土していることから、石器の遺跡内製作は確実視される。

各種石器は、石材との関係性（第 14 表）が明らかであり、剥片系石器にはホルンフェルス・チャート・頁岩等を、礫石器類には粗粒輝石安山岩・溶結凝灰岩を多用する。これら各種石材は渡良瀬川流域の遺跡で多用されることが本遺跡下流域の大道東遺跡（太田市東今泉町）等でも確認されており、利根川中流域の縄文遺跡に多い黒色頁岩や黒色安山岩が少ないことと併せ、石材の地域的な選択傾向を示している。特定器種の石材選択傾向を指摘するとすれば、打製石斧にはホルンフェルス（８／13 点）や珪質粘板岩（２／13 点）等の流域石材を、石鏃・加工痕ある剥片などの小形石器にはチャートを多用する傾向が明らかである。これに漏れる黒色頁岩や黒曜石、赤碧玉、変質蛇紋岩等は流域外から持ち込まれたものであろう。単独出土、あるいは極めて少ない剥片量からすれば、周辺集団間を通じて得た物資のひとつとして理解しておきたい。

石器器種の形態的特徴を述べるとすると、打製石斧や石鏃、石皿等に形態上の類似性が指摘できる。２号住居の石皿（第 14 図４）や３号住居の打製石斧（第 21 図 37・38）や石鏃（同 42・43）がそれで、形態的にもサイズ的にも酷似する。２号住居の石皿は前期住居の炉石とされたものであるが、それには「掻き出し口」があり、表採の石皿（第 46 図 25・26）に共通している。こうした形態的類似が直接帰属時期の決定にはならないことは明らかであるが、時期別の石器の形態的特徴は抽出可能である。このような状況からすれば、本遺跡出土石器は前期諸磯式期から中期加曽利Ｅ式期前半という枠の中で理解するのが妥当であり、帰属時期の明らかに異なるものを除けば、各住居に帰属する石器として理解して差し支えないと考えられる。

さらに、本遺跡では、中期から後期にかけて特徴的な分銅型の打製石斧は、表採の１例（第 46 図 22）が類似例としてあるのみで、前期的様相を色濃く残している一方で、中・後期に多出する多孔石（第 22 図 55・56）が３号住居に出土しており、過渡的な様相が見て取れるということだろう。

第５章　自然科学分析報告

１．上ノ台遺跡の火山灰分析

上記分析は株式会社火山灰考古学研究所に委託した。分析結果は下記の通りである。

１．はじめに

関東地方北西部に位置する赤城火山とその周辺に分布する後期更新世以降の地層や土壌の中には、赤城はもちろんのこと、榛名や浅間さらに遠方の火山に由来するテフラ（火山ていせつ砕屑物、いわゆる火山灰）が数多く分布している。テフラの中には、すでに層位や噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、それらとの層位関係を明らかにすることで、遺構や遺物包含層の層位や年代に関する資料を得ることが可能となっている。

みどり市上ノ台遺跡の発掘調査でも、層位や年代が不明な土層が検出されたことから、地質調査を行って土層の層序やテフラの層相に関する記載を行うとともに、採取された試料についてテフラ検出分析と火山ガラスの屈折率測定を行って、土層の層位や年代に関する資料を得ることになった。調査分析の対象となった地点は、Ａ区およびＢ区である。

２．土層の層序

（１）Ａ区北壁 (A 地点)

本遺跡におけるいわゆるローム層の標式的な断面が認められた段丘面の平坦部に位置するＡ区では、下位よりシャーベット状に風化した黄色軽石混じり灰色砂層（層厚７cm 以上，軽石の最大径７mm，12 層）、逆級化構造が認められる青灰色砂礫層（層厚 23cm，礫の最大径 23mm，11 層）、亜円礫混じりで炭化物をごく少量含む褐色砂質土（層厚 23cm，礫の最大径 71m，10 層）、炭化物を少量含む褐色砂質土（層厚 13cm，９層）、炭化物に富み若干灰色がかった褐色砂質土（層厚 18cm，８層）、橙色細粒軽石および炭化物を少量含む褐色砂質土（層厚 10cm，軽石の最大径３mm，７層）、橙色細粒軽石層（層厚３cm，軽石の最大径３mm）、橙色細粒軽石混じり黄褐色砂質土（層厚 11cm，軽石の最大径３mm，以上６層）、黄褐色砂質土（層厚 10cm，５層）、黄褐色土（層厚 15cm，４層）、黄褐色土ブロック混じり灰褐色土（層厚 25cm，３層）、暗灰褐色土（層厚 11cm，２層）、黄色細粒軽石（最大径２mm）および白色粗粒軽石（最大径 11mm）混じり黒灰褐色土（層厚 13cm，層厚 13cm，１層）が認められる（図１）。

これらのうち、６層下部にパッチ状に認められる橙色細粒軽石層については、層相から 1.9 ～ 2.4 万年前 *1 に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group，新井，1962，早田，1996，未公表資料）の中部あるいは上部と考えられる。

（２）Ｂ区東壁 (B 地点)

段丘面上の埋没谷部に位置するＢ区では、厚い腐植質土壌の堆積が認められた（図２）。ここでは、下位より黄褐色砂質土（層厚４cm 以上）、橙色細粒軽石層（層厚７cm，軽石の最大径２mm）、橙色細粒軽石混じり黄褐色砂質土（層厚４cm，軽石の最大径３mm，以上 10 層）、黄褐色砂質土（層厚 21cm）、黄白色から黄灰色の細粒軽石混じり黄褐色土（層厚 27cm，軽石の最大径３mm，以上９層）、黄色砂質土（層厚７cm）、黄色細粒軽石層（層厚３cm，軽石の最大径３mm）、黄色砂質土（層厚４cm）、桃灰色砂質細粒火山灰層（層厚３cm）、黄色砂質土（層厚 19cm，以上８層）、黄色土ブロック混じり灰褐色土（層厚 13cm，７層）、灰褐色土（層厚 11cm，６層）、黒灰褐色土（層厚 29cm，５層）、暗灰褐色土（層厚 45cm，４層）、黒灰褐色土（層厚 10cm）、黄灰色軽石混じり黒色土（層厚９cm，軽石の最大径３mm，以上３層）、白色粗粒軽石混じり黒灰褐色土（層厚 14cm，軽石の最大径 27mm，２層）、黒灰褐色作土（層厚 17cm，１層）が認められる。

これらのうち、10 層中に認められる橙色細粒軽石層については、層相から As-BP Group の中部あるいは上部に、また８層中にパッチ状に認められる黄色細粒軽石層と桃灰色砂質細粒火山灰層については約 1.3 ～ 1.4 万年前 *1 に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP，新井，1962，町田・新井，1992）の下部（主体部）と上部にそれぞれ対比される。

なお、発掘調査では、これらのうち４層から縄文時代中期の土器が検出されている。

３．テフラ検出分析

（１）分析試料と分析方法

Ａ区およびＢ区において、テフラ層ごとさらに土壌については基本的に厚さ５cm ごとに採取された試料を対象に、指標テフラの降灰層準を求めるために、16 点についてテフラ検出分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

１）試料 12g について超音波洗浄により泥分を除去。

２）80゜Ｃで恒温乾燥。

３）実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。

（２）分析結果

テフラ検出分析の結果を表１に示す。Ａ区では、比較的粗粒の軽石やスコリアは認められなかった。一方、火山ガラスは試料４と試料２をのぞくいずれの試料からも検出された。これらの試料には、無色透明のバブル型ガラスが少量ずつ含まれている。試料４や試料２には、斜方輝石や単斜輝石まどマフィックな鉱物が多く含まれている。また、試料 12 および試料 10 では、白色や灰白色の軽石型ガラスが少量認められる。

Ｂ区では、試料６から試料２にかけて灰白色軽石を認めることができた。この軽石は比較的発泡が良く、斑晶に斜方輝石や単斜輝石が認められ、とくに試料４に多い。また、試料４および試料２には、さほど発泡の良くない白色軽石が含まれている。この軽石には斑晶に角閃石や斜方輝石が認められ、とくに試料２に多く含まれている。

一方、火山ガラスはどの試料にも含まれている。試料 42 には、スポンジ状に発泡した白色や灰色の軽石型ガラスが少量含まれている。試料 38 には、スポンジ状によく発泡した白色軽石型ガラスが比較的多く含まれている。試料 30 から試料 20 にかけては、白色や無色透明の軽石型ガラスが認められる。このタイプの火山ガラスは下位から上位にかけて比率が減少するようにみえる。また、試料 20 では、ほかに透明のバブル型ガラスが比較的顕著である。試料６から試料２にかけては、軽石の細粒物である灰白色や白色の軽石型ガラスが比較的多く含まれている。

４．屈折率測定

（１）測定試料と測定方法

指標テフラとの同定精度を向上させるために、温度変化型屈折率測定法により、Ａ区の試料 20 について火山ガラスの屈折率（n）の測定を行った。火山ガラスの測定には、古澤地質社製 MAIOT を使用した。

（２）測定結果

屈折率測定の結果を表２に示す。Ａ区の試料 20 に含まれる火山ガラスの屈折率は、1.498-1.502(34 粒子）である。

５．考察

Ａ区の試料 20 に含まれるバブル型ガラスの多くについては、その形態や色調、さらに屈折率などの特徴から、約 2.4 ～ 2.5 万年前*1に南九州の姶良カルデラから噴出した姶良 Tn 火山灰（AT，町田・新井，1976，2003，松本ほか，1987，村山ほか，1993，池田ほか，1995 など）に由来すると考えられる。風成堆積物の最下部から AT が検出されたことは、その下位の 11 層以下の水成堆積物が段丘構成層であれば、とくに間に不整合がないかぎり本遺跡の位置する河成段丘の離水が AT 降灰前後に発生したことを示唆する。

Ｂ区試料 38（９層上部）に含まれる火山ガラスについては、野外での層位および岩相や火山ガラスの特徴などから、浅間大窪沢第１軽石（As-Ok1，約 1.7 万年前*1，中沢ほか，1984，早田，1996）および浅間大窪沢第２軽石（As-Ok2，約 1.6 万年前*1，中沢ほか，1984，早田，1996）からなる大窪沢テフラ群（As-Ok Group）に由来すると思われる。このことから、Ｂ区試料 42（９層下部）に含まれる火山ガラスについては、As-BP Group 中部あるいは上部の上位で As-Ok Group の下位にあるらしいこと、また岩相などから、浅間白糸軽石（As-Sr，約 1.8 ～ 1.9 万年前*1，町田ほか，1984 など）に由来するのかも知れない。これらのテフラについては、さらに火山ガラスの屈折率測定などを行って、同定精度を向上させると良い。

また、試料 20（５層）に含まれるバブル型ガラスについては、約 6.300 年前に南九州の鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホ

ヤ火山灰（K-Ah, 町田・新井, 1978）に由来する可能性が期待されたが、その特徴的な有色のバブル型ガラスは今回検出されなかった。

軽石が多く含まれることから軽石質テフラの降灰層準が考えられる３層上部（試料４）と２層（試料２）のテフラについては、それぞれ軽石の特徴から、４世紀初頭に浅間火山から噴出したと推定されている浅間Ｃ軽石（As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 友廣, 1988, 若狭, 2000）と、６世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992）および６世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992）に由来すると考えられる。

6．まとめ

上ノ台遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、火山ガラスの屈折率測定を行った。その結果、下位より姶良 Tn 火山灰（AT, 約 2.4 ～ 2.5 万年前*1）、浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group, 約 1.9 ～ 2.4 万年前*1）、浅間大窪沢テフラ群（As-Ok Group, 約 1.6 ～ 1.7 万年前*1）、浅間板鼻黄色軽石（As-YP, 約 1.3 ～ 1.4 万年前*1）、浅間Ｃ軽石（As-C, ４世紀初頭）、榛名二ッ岳渋川テフラ（Hr-FA, ６世紀初頭）および榛名二ッ岳伊香保テフラ（Hr-FP, ６世紀中葉）などの多くのテフラ層やテフラ粒子を検出することができた。

*1　放射性炭素（^{14}C）年代．AT、As-YP、K-Ah の較正年代については，順に約 2.6 ～ 2.9 万年前、約 1.5 ～ 1.65 万年前、約 7,300 年前と考えられている（町田・新井，2003）.

文献

新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編，10，p.1-79.

新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層．考古学ジャーナル，no.157，p.41-52.

荒牧重雄（1968）浅間火山の地質．地団研専報，no.45，65p.

池田晃子・奥野　充・中村俊夫・小林哲夫（1995）南九州、姶良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器 ^{14}C 年代．第四紀研究，34，p.377-379.

町田　洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰－姶良 Tn 火山灰の発見とその意義－．科学，46，p.339-347.

町田　洋・新井房夫（1978）南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ－アカホヤ火山灰．第四紀研究，17，p.143-163.

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

町田　洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫（1984）テフラと日本考古学－考古学研究に関係するテフラのカタログ．古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」，p.865-928.

松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗（1987）姶良 Tn 火山灰（AT）の ^{14}C 年代．第四紀研究，26，p.79-83.

村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村　真・安田尚登・平　朝彦（1993）四国沖ピストンコア試料を用いた AT 火山灰噴出年代の再検討－タンデトロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の ^{14}C 年代．地質雑，99，p.787-798.

中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦（1984）浅間火山，黒斑～前掛期のテフラ層序．日本第四紀学会講演要旨集，no.14，p.69-70.

坂口　一（1986）榛名二ツ岳起源 FA・FP 層下の土師器と須恵器．群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡－今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」，p.103-119.

早田　勉（1989）６世紀における榛名火山の２回の噴火とその災害．第四紀研究，27，p.297-312.

早田　勉（1996）関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴－とくに御岳第１テフラより上位のテフラについて－．名古屋大学加速器質量分析計業績報告書，7，p.256-267.

友廣哲也（1988）古式土師器出現期の様相と浅間山Ｃ軽石．群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」，p.325-336.

若狭　徹（2000）群馬の弥生土器が終わるとき．かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く－古墳が成立する頃の土器の交流」，p.41-43.

表１　テフラ検出分析結果

分析地点名	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
A区	2						
	4						
	10				*	bw,pm	cl,wh
	12				*	bw,pm	cl,gw
	16				*	bw	cl
	20				*	bw	cl
B区	2	**	wh,gw	27.1,2.3	***	pm	gw,wh
	4	**	gw>wh	3.4,5.4	***	pm	gw>wh
	6	*	gw	4.1	**	pm	gw>wh
	12				*	pm	gr,wh
	20				*	pm>bw	wh,cl,gw
	24				*	pm	wh,cl
	26				**	pm	wh,cl
	30				***	pm	wh,cl
	38				**	pm	wh
	42				*	pm	wh,gr

****；とくに多い，***：多い，**：中程度，*：少ない，bw：バブル型，pm：軽石型，cl：無色，wh：白色，gr：灰色，gw：灰白色．

表２　屈折率測定結果

分析地点名	試料	火山ガラスの屈折率（n）	測定粒子数
A区	20	1.498-1.502	34

屈折率の測定は，温度変化型屈折率測定装置（MAIOT）による．

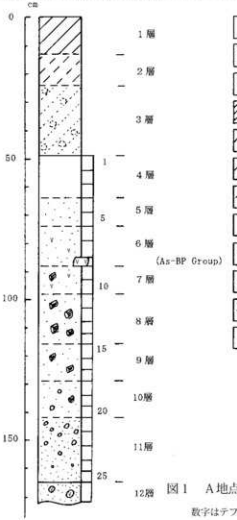


図１　A地点の土層柱状図

数字はテフラ分析の試料番号

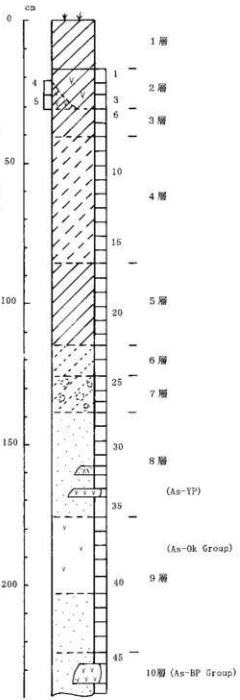


図２　B地点の土層柱状図

数字はテフラ分析の試料番号

２．上ノ台遺跡の放射性炭素（^{14}C）年代測定

上記分析は株式会社火山灰考古学研究所に委託した。分析結果は下記の通りである。

１．測定試料と測定方法

試料	地点	種類	重量	前処理・調整	測定法
^{14}C-８層	A区	炭化物	2.03g	酸・アルカリ・酸洗浄	加速器質量分析（AMS）法

２．測定結果

試料	^{14}C 年代（年 BP）	δ ^{13}C（‰）	補正 ^{14}C 年代（年 BP）	暦年代（西暦）	測定№（Beta-）	（ITNH-）
^{14}C-８層	23480 ± 140	-25.6	23470 ± 140	２σ：－ １σ：－ 交点：－	251362	00023

１）^{14}C 年代測定値（同位体分別未補正 ^{14}C 年代：measured radiocarbon age）

試料の ^{14}C/^{12}C 比から、単純に現在（AD1950 年）から何年前かを計算した値。^{14}C の半減期は、国際的慣例により Libby の 5,568 年を用いた。

２）δ ^{13}C 測定値

試料の測定 ^{14}C/^{12}C 比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}C/^{12}C）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。その計算式は以下のとおり。

$$\delta^{13}\mathrm{C}(‰) = \frac{(^{13}\mathrm{C}/^{12}\mathrm{C})[\text{試料}] - (^{13}\mathrm{C}/^{12}\mathrm{C})[\text{標準}]}{(^{13}\mathrm{C}/^{12}\mathrm{C})[\text{標準}]} \times 1000$$

ここで、$(^{13}\mathrm{C}/^{12}\mathrm{C})[\text{標準}] = 0.011237$2である。

３）補正 ^{14}C 年代値（同位体分別補正 ^{14}C 年代：conventional radiocarbon age）

δ ^{13}C 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、^{14}C/^{12}C の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料のδ ^{13}C 値を -25(‰) に標準化することによって得られる年代である。暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。

(Stuiver, M and Polach,H.A.(1977)Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon, 19 を参照)

４）暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより算出した年代（西暦）。補正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、およびサンゴの U-Th 年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。

使用したデータセット：Intcal04

Intcal04: Calibration Issue of Radiocarbon, 46(3), 2004

（海洋性試料については，Marine04 を使用）

較正曲線のスムース化にもちいた理論：

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates.

Talma, A.S. and Vogel, J.C., 1993, Radiocarbon, 35(2), p.317-322.

なお、暦年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。１σ（68％確率）・２σ（95％確率）は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。

BETA

Consistent Accuracy... Delivered On Time.

Beta Analytic Inc
4985 SW 74 Court
Miami, Florida 33155 USA
Tel: 305 667 5167
Fax: 305 663 0964
Beta@radiocarbon.com
Www.radiocarbon.com

Mr. Darden Hood
Director

Mr. Ronald Hatfield
Mr. Christopher Patrick
Deputy Directors

Quality Assurance Report

This report provides the results of reference materials used to validate radiocarbon dating results on unknown materials prior to reporting. Known age reference materials were analyzed as QA measurements to verify the accuracy of the results. They are analyzed in multiple detectors. To test accuracy, the "Blind sample" was measured in TIRI separate detectors without the customers knowing the age. This report quotes the results of the QA measurements.

Report Date:	November 19, 2008
Submitter:	Mr. Kazuma Aso, Mr. Sumabiro Matsuyama
Sample:	Beta-251359, 251362, 251377, 251378

QA MEASUREMENTS

TIRI wood standard (international standard)

Expected value:	4500 +/- 50 BP
Measured value:	4540 +/- 40 BP
Agreement:	accepted

TIRI Turbidite standard (international standard)

Expected value:	18160 +/- 100 BP
Measured value:	18010 +/- 80 BP
Agreement:	accepted

Blind sample

Known age:	1020 +/- 40 BP
AMS age:	1070 +/- 40 BP
Agreement:	accepted

Background signal

Expected value:	39000 to 48000 BP
Measured value:	48430 +/- 550 BP
Agreement:	accepted

COMMENT: All standards were within accepted ranges. (TIRI stands for Third International Radiocarbon Inter-comparison. This material has a very well known age.) The "Blind sample" is a sample that was measured at least twice in a detector at different times.

Validation: Darden Hood　　Date: November 19, 2008

３．上ノ台遺跡の炭化材樹種同定

上記分析は株式会社火山灰考古学研究所に委託した。分析結果は下記の通りである。

１．はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては、木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

２．試料

試料は、上ノ台遺跡８層より出土した炭化材１点である。なお、同層準の炭化物からは、23470 ± 140y BP (Beta-251362) の補正 ^{14}C 年代が得られている（前述）。

3．方法

試料を割折して新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって 50 ～ 1000 倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4．結果

試料は　トウヒ属－カラマツ　*Picea-Larix kaempferi Carr.*　であった。以下に同定の根拠となった特徴を記し、各断面の顕微鏡写真を示す。

トウヒ属－カラマツ　*Picea-Larix kaempferi* Carr.　マツ科

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管および垂直、水平両樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はやや急である。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は小型のものが見られるが、型及び 1 分野における個数は不明である。放射仮道管の有縁壁孔対が存在する。

接線断面：放射組織は単列であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の形質よりトウヒ属－カラマツに同定される。トウヒ属とカラマツは放射仮道管の有縁壁孔対の形の違いなどで同定できるが、本試料は保存状態が悪く有縁壁孔対の形の違いなどを観察する事が困難な為、トウヒ属－カラマツとした。

トウヒ属にはアカエゾマツ、エゾマツ、トウヒがあり、アカエゾマツとエゾマツは北海道に自生し、トウヒは関東山地、中部山岳地、大台ヶ原に自生する。温帯上部から寒冷な亜高山帯ないし亜寒帯に分布する常緑針葉樹である。カラマツは本州（石川県、静岡県から宮城県まで）の温帯から亜寒帯ないし亜高山帯に分布する落葉針葉樹であり、北海道には広く植栽されている。

5．所見

同定の結果、上ノ台遺跡の炭化材は、寒冷な気候下に生育する亜高山帯性のトウヒ属－カラマツであった。本試料採取地点における最終寒冷期の寒冷種に針葉樹林の分布が推定される。

文献

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造．文永堂出版．p.20-48.

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造．文永堂出版．p.49-100.

島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧．雄山閣．p.296

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成．植生史研究特別第 1 号．植生史研究会．p.242

横断面 ：0.2mm　**放射断面** ：0.04mm　**接線断面** ：0.1mm

炭化材　トウヒ属－カラマツ

写真 1　上ノ台遺跡の炭化材

第 10 表　遺構一覧表

区	No.	遺構	グリッド	時期	形態		規模　m			長軸方位	員	遺構		遺物		備考
					平面形	断面形	長軸	短軸	残存壁高			図	写真	図	写真	
A	1	住居	B-3・4	縄文時代中期中葉	円形	箱形	(3.96)	(3.63)	0.37	N－45°－E	15	9・10	3・4	11-13	14	阿玉台Ⅰb式
A	2	住居	B-3・4	縄文時代前期後葉	方形	箱形	4.92	2.11 以上	0.39	N－13°－W	20	15	3・4	15	15	諸磯c式
B	3	住居	A・B-14・15	縄文時代中期後葉	不整円形	箱形	4.86	2.42 以上	0.25	N－11°－W	22	16・17	5・7	18-22	15・16	加曽利E Ⅰ新式
A	4	住居	B-17・18	縄文時代中期中葉	不明	箱形	不明	不明	0.08	N－72°－E	29	23・24	7	24・25	17	阿玉台第一形式
A	5	住居	B-4・5	縄文時代中期	不整円形	箱形	4.3 以上	不明	0.15	N－83°－W	32	26	4	27	18	加曽利E Ⅰ新式か
A	6	住居	B・C-5・6	縄文時代中期	方形	箱形	3.21	3.02	0.12	N－90°－E	34	28	7・8	28	18	阿玉台Ⅱ式
B	7	住居	B・C-17・18	縄文時代中期中葉	楕円形	箱形	2.61	2.15	0.2	N－54°－W	36	29	8	29・30	18・19	勝坂2式
A	8	住居	B・C-4・5	縄文時代中期	不明	不明	不明	不明	0	N－78°－E	37	31	8・9	31	-	黒浜・勝坂2式
A	2	土坑	B・C-5	縄文時代前期中葉	楕円形	袋状	1.26 1.32	1.05 1.10	0.36	N－40°－E	29	32	9	32	19	黒浜式
A	4	土坑	C-3	縄文時代前期中葉	円形	袋状	0.88 0.97	0.80 0.84	0.38	N－13°－E	29	32	9	32	19	黒浜式
A	7	土坑	B-6	縄文時代前期中葉	不整円形	袋状	1.02 1.35	不明 不明	0.53	N－15°－E	39	33	9	33	-	黒浜式
A	11	土坑	B-6	縄文時代前期中葉	楕円形	袋状	1.08 1.0	0.87 0.91	0.32	N－44°－E	39	33	9	33	19	黒浜式
A	14	土坑	B-6・7	縄文時代前期中葉	不明	袋状	0.92 1.04	不明 不明	0.37	N－52°－E	39	33	9	33	19	黒浜式
B	25	土坑	B-14	縄文時代中期後葉	不整円形	袋状	1.18 1.30	不明 不明	0.4	－	39	34	9	34	19	加曽利E Ⅰ～Ⅱ式
A	27	土坑	B-5	縄文時代前期中葉	楕円形	袋状	1.25 1.26	0.52 以上 0.63 以上	0.43	N－0°－E	39	34	9	34	-	黒浜式
A	28	土坑	B-5	縄文時代前期中葉	楕円形	袋状	(1.0) 不明	0.88 0.80	0.47	N－60°－W	39	34	9	34	19	黒浜式以前
A	29	土坑	C-3・4	縄文時代	不整円形	袋状	0.73 1.20	0.70 1.18	0.57	N－61°－E	39	34	9	-	-	
A	3	土坑	C-3	縄文時代	円形	箱形	0.92	0.74 以上	0.5	N－0°－E	42	35	10	-	-	
A	8	土坑	B-3	縄文時代	円形	箱形	1.58	1.53	0.21	N－44°－W	42	35	10	35	19	諸磯a式？
A	18	土坑	C-4	縄文時代	円形	箱形	1.06	0.77 以上	0.41	N－21°－W	42	35	10	35	19	黒浜式
B	21	土坑	B-16	縄文時代	円形	箱形	1.07	0.91	0.64	N－4°－E	42	36	10	36	19	
B	26	土坑	B-12	縄文時代	円形と推定	箱形	0.90 以上	0.58 以上	0.33	－	42	36	10	36	19	黒浜式
A	1	土坑	C-4	縄文時代	楕円形	箱形	0.82 以上	0.92	0.22	N－90°－E	43	37	10	37	19	阿玉台式
A	6	土坑	B-7	縄文時代	楕円形	箱形	1.32	0.38 以上	0.16	N－16°－W	43	38	10	-	-	
A	22	土坑	B-9	縄文時代	楕円形	箱形	1.26	0.99	0.35	N－32°－W	43	38	10	38	19	黒浜式
A	23	土坑	B-9	縄文時代	楕円形	箱形	2.08	1.58	0.2	N－41°－W	43	38	10	38	19	黒浜式
A	9	土坑	B-8	縄文時代	不整楕円形	箱形	0.90	0.82	0.21	N－40°－W	45	40	11	40	19	黒浜式？
A	10	土坑	B・C-7	縄文時代	不整楕円形	箱形	1.37	1.27	0.28	N－76°－W	45	40	11	40	-	黒浜式以前
A	12	土坑	B-10	縄文時代	不整楕円形	箱形	0.83	0.73	0.35	N－62°－W	45	40	11	40	19	黒浜式
A	13	土坑	B-10	縄文時代	不整楕円形	箱形	0.8	0.56	0.4	N－20°－W	45	40	11	-	-	
A	15	土坑	B-8	縄文時代	不整楕円形	箱形	1.20	0.97	0.34	N－52°－E	45	39	11	39	19	黒浜式
A	16	土坑	B-8	縄文時代	不整楕円形	箱形	1.12	1.03	0.36	N－30°－E	45	39	11	39	19	黒浜式
A	24	土坑	B-5	縄文時代	不整楕円形	皿形？	不明	不明	0.2	N－0°－E	45	40	11	-	-	黒浜式以前
A	19	土坑	C-4	縄文時代	不明	不明	不明	不明	0.29	N－21°－W	47	41	11	-	-	黒浜式以前
A	1	ピット	B-2	縄文時代	楕円形	箱形	0.30	0.24	0.37	N－82°－W	47	41	11	-	-	
A	2	ピット	B-3	縄文時代	不整円形	箱形	0.30	0.28	0.35	N－20°－E	47	41	12	-	-	
A	3	ピット	C-4	縄文時代		箱形	0.55	0.52	0.28	N－70°－E	47	41	12	-	-	黒浜式
A	5	ピット	B-7	縄文時代	隅丸方形	箱形	0.65	0.57	0.27	N－13°－E	47	41	12	41	24	黒浜式
A	6	ピット	B-7	縄文時代	円形	箱形	0.47	0.45	0.99	－	47	42	-	42	24	黒浜式
A	9	ピット	B-4	縄文時代	円形？	箱形	0.46	不明	0.43	－	47	-	12	-	-	
B	11	ピット	A-14	縄文時代	楕円形	箱形	0.46	0.31	0.42	N－4°－E	47	-	12	-	-	
B	17	ピット	B-17	時期不明	長方形	箱形・底面中央に小孔	1.40	0.75	0.66	N－13°－E	50	44	12	-	-	
B	20	ピット	B-20	時期不明	長方形	箱形・底面中央に小孔	1.43	0.98	0.85	N－12°－E	50	44	12	-	-	
A	5	ピット	B-7	時期不明	方形	皿形	不明	不明	0.07	N－40°－W	50	44	12	-	-	
B	12	ピット	B-15	時期不明	楕円形	箱形	0.33	0.26	0.21	N－70°－E	50	8	-	-	-	
B	13	ピット	B-15	時期不明	隅丸方形	箱形	0.42	0.40	0.25	N－5°－E	50	8	-	-	-	
B	14	ピット	B-15	時期不明	不整楕円形	箱形	0.30	0.23	0.35	N－17°－E	50	8	-	-	-	
B	15	ピット	B-15	時期不明	楕円形	箱形	0.45	0.30	0.2	N－84°－E	50	8	-	-	-	
B	16	ピット	B-15	時期不明	楕円形	箱形	0.33	0.25	0.34	N－70°－E	50	8	-	-	-	
B	17	ピット	B-16	時期不明	楕円形	箱形	0.28	0.23	0.29	N－83°－W	50	8	-	-	-	
B	18	ピット	B-16	時期不明	楕円形	箱形	0.27	0.22	0.2	N－36°－W	50	8	-	-	-	
B	19	ピット	B-16	時期不明	不整円形	箱形	0.27	－	0.23	－	50	8	-	-	-	
B	20	ピット	B-16	時期不明	楕円形	箱形	0.26	0.21	0.13	N－60°－W	50	8	-	-	-	
B	21	ピット	B-16	時期不明	楕円形	箱形	0.28	0.24	0.55	N－57°－E	50	8	-	-	-	
B	22	ピット	C-17	時期不明	円形	箱形	0.26	－	0.42	－	50	8	-	-	-	
B	23	ピット	B-17	時期不明	不整円形	箱形	0.24	－	0.36	－	50	8	-	-	-	
B	24	ピット	B-17	時期不明	不整円形	箱形	0.24	－	0.29	－	50	8	-	-	-	
B	25	ピット	B-17	時期不明	楕円形	箱形	(0.35)	0.30	0.19	N－80°－W	50	8	-	-	-	
B	26	ピット	B-17	時期不明	楕円形	箱形	0.40	0.31 以上	0.42	N－70°－E	50	8	-	-	-	
B	27	ピット	B-17	時期不明	楕円形	箱形	0.41	0.33	0.28	N－58°－E	50	8	-	-	-	
B	28	ピット	B-17	時期不明	楕円形	箱形	0.27	0.23	0.23	N－84°－W	50	8	-	-	-	
B	29	ピット	C-17	時期不明	隅丸方形	箱形	0.29	0.25	0.14	N－36°－E	50	8	-	-	-	
B	30	ピット	C-18	時期不明	円形	箱形	0.22	－	0.33	－	50	8	-	-	-	
B	31	ピット	C-18	時期不明	隅丸方形	箱形	0.41	0.35	0.29	N－15°－E	50	8	-	-	-	
B	32	ピット	B-18	時期不明	楕円形	箱形	0.29	0.24	0.19	N－70°－E	50	8	-	-	-	
B	33	ピット	B-18	時期不明	楕円形	箱形	0.35	0.25	0.23	N－78°－E	50	8	-	-	-	
B	34	ピット	B-18	時期不明	楕円形	箱形	0.24	0.21	0.24	N－30°－E	50	8	-	-	-	
B	35	ピット	B-18	時期不明	楕円形	箱形	0.40	0.29	0.48	N－33°－E	50	8	-	-	-	
B	36	ピット	B-18	時期不明	楕円形	箱形	0.37	0.35	0.65	N－85°－W	50	8	-	-	-	
B	37	ピット	B-18	時期不明	楕円形	箱形	0.27 以上	0.26	0.23	N－45°－W	50	8	-	-	-	
B	38	ピット	B-18	時期不明	楕円形	箱形	0.47	0.40	0.34	N－16°－E	50	8	-	-	-	
B	39	ピット	B-19	時期不明	円形	箱形	0.23	－	0.27	－	50	8	-	-	-	

区	No	遺構	グリッド	時期	形態		規模 m			長軸方位	員	遺構		遺物		備考
					平面形	断面形	長軸	短軸	残存深為			図	写真	図	写真	
B	41	ピット	B-19	時期不明	円形	箱形	0.29	—	0.2	—	50	8	-	-	-	
B	42	ピット	B-19	時期不明	楕丸方形	箱形	0.46	0.42	0.25	N－23°－E	50	8	-	-	-	
B	43	ピット	B-19	時期不明	円形	箱形	0.25	—	0.48	—	50	8	-	-	-	
B	44	ピット	B-19	時期不明	円形	箱形	0.20	—	0.13	—	50	8	-	-	-	
B	45	ピット	B-20	時期不明	楕丸方形	箱形	0.27	0.23	0.43	N－5°－W	50	8	-	-	-	
B	46	ピット	B-20	時期不明	不整円形	箱形	0.20	—	0.13	—	50	8	-	-	-	
区	No	出土遺構	グリッド	時期	形態		規模 m			走向	員	遺構		遺物		備考
					平面形	断面形	調査長	上幅	残存深為			図	写真	図	写真	
A	1	溝	B・C-4・5	時期不明	—	箱形	6.15	0.64	0.25	N－67°－E	49	43	13	-	-	
B	2	溝	A・B-12	時期不明	—	箱形	1.34	0.52	0.11	N－75°－E	49	43	13	-	-	

第 11 表　縄文土器出土破片一覧表

区	No	遺構	前期中葉	前期後葉	中期中葉	中期後葉	不明	小計	総数
			黒浜式	諸磯 a～c 式	阿玉台式	加曽利 E Ⅰ新～加曽利 E 2 式			
A	1	住居	143	80	200		142	565	52
A	2	住居		1			3	4	1
B	3	住居	56	9	20	1116	69	1270	36
A	4	住居	41	8	169		19	237	15
A	5	住居	19	10	6	3	22	60	9
A	6	住居	7	1	35			43	7
B	7	住居			49			49	5
A	8	住居	1			1		2	2
A	2	土坑	19					19	3
A	4	土坑	5					5	
A	7	土坑	20					20	4
A	11	土坑	12					12	2
A	14	土坑	7	3				10	2
B	25	土坑				3		3	3
A	27	土坑						0	
A	28	土坑	2					2	0
A	29	土坑						0	
A	3	土坑						0	
A	8	土坑		2				2	1
A	18	土坑	5					5	2
B	21	土坑						0	
B	26	土坑	18		1			19	7
A	1	土坑	2			4		6	3
A	6	土坑						0	
A	22	土坑	16					16	3
A	23	土坑	30					30	8
A	9	土坑	1					1	1
A	10	土坑						0	
A	12	土坑	8					8	3
A	13	土坑						0	
A	15	土坑	8	1				9	2
A	16	土坑	24					24	5
A	24	土坑						0	
A	19	土坑						0	
B	17	土坑	1					1	
B	20	土坑						0	
A	5	土坑						0	
A	3	ピット	3					3	0
A	5	ピット	17					17	2
A	6	ピット			1			1	0
A	1	溝	2		3	6		11	3
B	1	トレンチ		1	10	111		122	7
A	2	トレンチ	5	1	8	2	3	19	2
A		中央検乱	22	2	14	8	4	50	4
B		表土	29	1	6	25	2	63	3
注記なし			7		1	13	37	58	
合計			523	120	522	1279	264	2708	197
遺構外小計			63	5	39	159	46	312	19

第 12 表　縄文土器属性一覧表

図版番号	遺物番号	PL番号	層種	区	NO	遺構	出土位置		部位	残存	胎土	色調	焼成	備考	時期・型式名など
							西部	床面上 10cm	口縁部	破片	粗：石英大粒・繊維	明黄褐	良好	口唇部外削状、0 段多条 RL 横位施文	黒浜式
11	2	14	深跡	A	1	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：白色粒・繊維	鈍い黄橙	良好	口唇部はある、無節 R 横位施文	黒浜式
11	3	14	深跡	A	1	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：石英・繊維	灰褐	良好	口唇部角頭状、0 段多条 LR を横位に施す	黒浜式
11	4	14	深跡	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：石英・片岩・繊維	鈍い橙	良好	外反部に横位連続爪形文、上位は LR か	黒浜式
11	5	14	深跡	A	1	住居	埋没土中		胴部上半	破片	粗：石英・輝石・繊維	鈍い黄橙	良好	横位連続爪形文以下横位 LR を施す	黒浜式
11	6	14	深跡	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：石英・繊維	橙	良好	内皮文線による横位縄紋文、横位 LR	黒浜式
11	7	14	深跡	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：石英少・繊維	橙	良好	内皮使用の平行沈線による波状文	黒浜式
11	8	14	深跡	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：石英・繊維	鈍い黄橙	良好	平行沈線による横位波状文	黒浜式
11	9	14	深跡	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：片岩・繊維	橙	やや軟質	横位短沈線が施される	黒浜式
11	10	14	深跡	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：輝石・繊維	鈍い赤褐	やや軟質	連続爪形文を横位・斜位に施す、横位 LR	黒浜式
11	11	14	深跡	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：石英・輝石・繊維	鈍い黄橙	良好	付加条 1 種 LR+L と RL+L の羽状縄文構成	黒浜式
11	12	14	深跡	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：石英・繊維	鈍い黄橙	良好	0 段多条 LR・RL による縦位羽状縄文構成	黒浜式
11	13	14	深跡	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：石英・輝石・繊維	鈍い黄橙	良好	横位 LR が施される	黒浜式
11	14	14	深跡	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：石英・繊維	橙	良好	付加条 1 種 RL+L 横位施文、器壁凹凸あり	黒浜式

図番号	遺物番号	PL番号	種類	区	NO	遺構	出土位置		部位	残存	胎土	色調	焼成	備考	時期・型式名など
11	15	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：片岩粒・石英・雲母	黄褐～赤褐	良好	縦線の内皮沈線による米字文か、横位RL	黒浜式
11	16	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		底部	破片	細：白色粒・雲母	橙	良好	胴部 RLR 横位施文	黒浜式
11	17	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	細：白色粒・輝石	黄褐～黄橙	良好	横位連続刺突文と位置が配される	諸磯a式
11	18	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：白色粒・石英	橙	良好	撚糸で外反する口縁部、横位 RL を施す	諸磯a式
11	19	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：石英・雲母	橙	良好	撚糸で外反する口縁部、横位 RL を施す	諸磯a式
11	20	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	微粗：白色粒	黒褐	良好	横位沈線に連続市形文が重なる、横位 RL	諸磯a式
11	21	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		胴部上半	破片	粗：白色粒・石英	黄褐～赤褐	良好	外反する胴部上半、横位 RL を施す	諸磯a式
11	22	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：白色粒・輝石	灰褐	良好	横位 RL を施す	諸磯a式
11	23	14	深鉢	A	1	住居	北部	床面上 15cm	胴部	破片	微粗：石英・雲母末	赤褐	良好	横位 RL を施す	諸磯a式
11	24	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：片岩粒	橙	良好	横位 RL を施す	諸磯a式
11	25	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		底部	破片	粗：白色粒・輝石	黄褐～黄橙	良好	小径の小型深鉢か、RL を横位・斜位に施す	諸磯a式
11	26	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：白色粒・輝石	黄褐～黄橙	良好	縦線の横位平行沈線が多段に施される	諸磯b式
11	27	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：白色粒	橙	良好	横位平行沈線群以下縦位矢羽状構成	諸磯c式
11	28	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：白色粒・輝石	黄褐～黄橙	良好	横状貼付文とボタン状貼付文を付す	諸磯c式
12	29	14	深鉢	A	1	住居	北部	床面上 33cm	口縁部	破片	粗：白色粒・石英・雲母	暗赤褐	良好	無文、縦やから口縁部内周、口縁部内縁肥厚	阿玉台Ⅰb式
12	30	14	深鉢	A	1	住居	北部	床面上 23cm	口縁～底部	破片	粗：石英多・雲母	橙	良好	口：15.6、底：5.2、高：6.9、無文、内縁肥厚	阿玉台Ⅰb式
12	31	14	深鉢	A	1	住居	北部	床面上 17cm	口縁部	破片	粗：石英・雲母	灰褐～黄	良好	口縁部波状突起、胴部は強い撚で横が残る	阿玉台Ⅰb式
12	32	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：石英・雲母	褐	良好	隆線梯円状区画、単列の結節沈線が沿う	阿玉台Ⅰb式
12	33	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：石英・雲母多	褐	良好	波状線、隆線区画交差点、単列の結節沈線	阿玉台Ⅰb式
12	34	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：石英・雲母	灰黄褐	良好	波状線、単列の結節沈線が施される	阿玉台Ⅰb式
12	35	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：石英・雲母多	黄褐～黄橙	良好	波状線、複列の結節沈線が施文される	阿玉台Ⅰb式
12	36	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：石英・雲母多	黒褐	良好	波状線、隆線区画内を幅広の角押文が沿う	阿玉台Ⅰb式
12	37	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：石英多・雲母	黄橙～暗	良好	口縁部区画文、結節沈線と角を側線とする	阿玉台Ⅰb式
12	38	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		胴部上半	破片	粗：石英・雲母	灰褐	良好	胴部横位隆線下に横位波状沈線を施す	阿玉台Ⅰb式
12	39	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		胴部中位	破片	粗：白色粒・雲母末・輝石	黄褐～暗	良好	横位斜み目列を施す、内面炭化物付着	阿玉台Ⅰb式
12	40	14	深鉢	A	1	住居	中央部	床面上 22cm	胴部	破片	粗：石英・雲母	明赤褐	良好	撚糸の櫛原、横位斜み目列を施す	阿玉台Ⅰb式
12	41	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		底部	破片	粗：輝石・白色粒	褐	良好	押圧を加える重下隆線下端部	阿玉台Ⅰb式
12	42	14	深鉢	A	1	住居	中央やや東寄り2	床面上 27cm	底部	破片	粗：輝石	暗褐	良好	無文の底部、直立気味に立ち上がる	中期中葉
12	43	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		底部	破片	粗：石英・雲母	褐	良好	無文、底面に網代痕残る、内面炭化物付着	中期中葉
12	44	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		底部	破片	粗：石英・白色粒	暗赤褐	良好	無文、外面は撚でにより平滑	中期中葉
12	45	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：石英・雲母末	灰褐～黄	良好	口唇端部と口縁部に三角連続刺突文を施す	勝坂1式か
12	46	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：石英・片岩	褐	良好	2条の横位隆線による分帯、上位に弧状沈線	勝坂1式か
12	47	14	深鉢	A	1	住居	中央やや東寄り	床面上 16cm	胴部	破片	粗：石英・輝石	明赤褐	良好	横位隆線以下沈線による小区画文を配す	中期中葉
12	48	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		胴部	破片	粗：石英・雲母	橙	良好	沈線による縦位長楕円状意匠と弧状意匠	中期中葉
12	49	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		胴部上半	破片	粗：白色粒・輝石	黄褐～赤褐	良好	横位隆線上位に波状沈線、下位は斜位沈線	勝坂1式か
12	50	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		底部	破片	粗：白色粒・雲母	黒褐	良好	斜位縦沈線区画に横位隆線を付す	勝坂1式か
12	51	14	深鉢	A	1	住居	埋没土中		底部	破片	粗：白色粒・輝石	褐～暗	良好	台付き深鉢底部か、横位平行沈線と弧状沈線	勝坂1式か
12	52	14	深鉢	A	1	住居	中央やや東寄り	床面上 15cm	胴部～胴部	1/3・2点	粗：石英・輝石	暗褐	良好	口：(25.8)、環状突起と隆線による横位連繋	「新巻類型」
14	1	15	深鉢	A	2	住居	炉体土器	炉内埋設	口縁～胴部	破片	粗：白色粒・石英少・輝石	褐～暗	良好	粘付文と集合沈線、口縁部に縦位無で垂糸り	諸磯c式
14	1	15	深鉢	B	3	住居	炉体土器	炉内埋設	口縁～胴部	1/1	粗：白色粒・石英	褐～橙	良好	口縁 24.8、口縁部底面文、胴部連巻文、斜位 RL	加曽利E1式新 RL
18	2	15	深鉢	B	3	住居	南東壁際	床面直上	口縁～底部	4/5	粗：石英・輝石・白色粒	橙	良好	口：17.6、底：7.5、高：22.1、口縁部波状、胴部無文	加曽利E1式新
18	3	15	深鉢	B	3	住居	炉東側	床面直上	口縁～胴部	1/1	粗：石英・輝石多・白色粒	褐～黄橙	良好	口：16.2、口縁部区画文、胴部無文、胴部連巻文	加曽利E1式新
18	4	15	深鉢	B	3	住居	炉東側	床面上 4cm	胴部上半	4点	粗：白色粒・石英・雲母少	褐～橙	良好	5と同一個体か、波状隆線上に蛇行隆線	加曽利E1式新 大木系？
18	5	15	深鉢	B	3	住居	炉南側	床面上 12cm	底部	破片	粗：白色粒・石英・雲母	褐～暗	良好	底：9.1、隆線による懸垂文構成、斜位 RL	加曽利E1式新 大木系？
18	6	15	深鉢	B	3	住居	埋没土中		口縁部	1/3	粗：白色粒・輝石	黄褐～黄橙	良好	口：(26.5)、口縁部区画文・渦巻文、胴部無文	加曽利E1式新
18	7	16	深鉢	B	3	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：白色粒・輝石	褐	良好	波頂部欠損、隆線と沈線の渦巻文、縦位 RL	加曽利E1式新
19	8	15	深鉢	B	3	住居	炉北西縁＋北縁	床面上 8cm	口縁～胴部	2点	粗：白色粒・雲母少・輝石	灰黄褐	良好	口縁部波状突起、高系統大木 8 b か、RL	大木8 b式
19	9	16	深鉢	B	3	住居	炉南側	床面上 2cm	口縁～胴部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	灰褐	良好	口縁部渦巻文と区画文、胴部無文、横位 RL	加曽利E1式新
19	10	16	深鉢	B	3	住居	炉北東側	床面上 3cm	口縁部	破片	粗：白色粒・雲母少・輝石	褐～赤褐	良好	波状線、波頂部に渦巻文、横位 RL	加曽利E1式新
19	11	16	深鉢	B	3	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	黄褐～暗	良好	口縁部渦巻文と区画文、斜位 RL	加曽利E1式新
19	12	16	深鉢	B	3	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：白色粒・輝石	褐～暗	良好	波頂部欠損、環状突起に沈線渦巻文	加曽利E1式新
19	13	16	深鉢	B	3	住居	炉東側	床面上 7cm	口縁～胴部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	明黄褐	良好	口縁部区画内は横位交互刺突文を充填	加曽利E1式新
19	14	16	深鉢	B	3	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	黄褐～暗	良好	口縁部区画文と渦巻文、斜位結束縄を充填	加曽利E1式新
19	15	16	深鉢	B	3	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：白色粒・輝石	黄褐～暗	良好	隆線による口縁部区画文、渦巻文も加わるか	加曽利E1式新
19	16	16	深鉢	B	3	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	黄褐～暗	良好	内周口縁部に縦位結束縄を充填か	加曽利E1式新 高系統？
19	17	16	深鉢	B	3	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	褐	良好	口縁部渦巻文、頸部隆線直下より沈線懸垂文	加曽利E1式
19	18	16	深鉢	B	3	住居	埋没土中		口縁部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	黄褐～暗	良好	口縁部横位2条沈線と地文縦位波状条線	加曽利E1式
19	19	16	深鉢	B	3	住居	炉北東側	床面上 8cm	胴部～胴部上半	2点	粗：白色粒・石英・輝石	黄褐～赤褐	良好	胴部無文、横位2条隆線以下胴部縦結束文	加曽利E1式新
19	20	16	深鉢	B	3	住居	埋没土中		胴部中位	破片	粗：白色粒・石英・輝石	黄褐～暗	良好	斜位波状隆線による懸垂文、縦位・斜位 RL	加曽利E1式新・E II式
19	21	16	深鉢	B	3	住居	埋没土中		胴部上半	破片	粗：白色粒・輝石	黄褐～黄橙	良好	新下隆線中位に渦巻文、外反部横位波線	加曽利E1式新・E II式
20	22	16	深鉢	B	3	住居	埋没東側	床面上 26cm	胴部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	褐	良好	2条沈線の波状文と懸垂文、縦位隆線 LRL	加曽利E1式新・E II式
20	23	16	深鉢	B	3	住居	埋没土中		胴部上半	破片	粗：白色粒・石英・雲母少	褐	良好	横位隆線文以下2条沈線による懸垂文構成	加曽利E1式新・E II式

図番号	遺物番号	PL番号	層種	区	NO	遺構	出土位置		部位	残存	胎土	色調	焼成	備考	時期・型式名など
20	24	16	深跡	B	3	住居	北部	床面直上	胴部中位	破片	細：白色粒・石英	橙	良好	蕨下文縄に横位楽出原匠を加える。斜位 RL	加曽利 E Ⅰ式 新・E Ⅱ式
20	25	16	深跡	B	3	住居	埋没土中		胴部上半	破片	細：白色粒・輝石	橙	良好	横位沈線3条以下長楕円状文を加えた懸垂文	加曽利 E Ⅰ式 新・E Ⅱ式
20	26	16	深跡	B	3	住居	埋没土中		胴部中位	破片	細：白色粒・石英・輝石	橙	良好	2条の蕨下沈線、地文は縦位波状原縄条線	加曽利 E Ⅰ式 新・E Ⅱ式
20	27	16	深跡	B	3	住居	炉北東側	床面上7cm	胴部下半～底部	3点	細：白色粒・石英・輝石	橙	良好	蕨下隆線2条・波状隆線による懸垂文構成	加曽利 E Ⅰ式 新・E Ⅱ式
20	28	16	深跡	B	3	住居	埋没土中		底部	1/3	細：白色粒・輝石	橙	良好	底：12.0。蕨下沈線下端を見る。地文は撚糸L	加曽利 E Ⅰ式 新・E Ⅱ式
20	29	16	深跡	B	3	住居	炉南東側	床面上2cm	底部	破片	細：白色粒少・石英・輝石	暗褐	良好	底：13.2。大型の深跡。蕨下沈線下端を見る	加曽利 E Ⅰ式 新・E Ⅱ式
20	30	16	深跡	B	3	住居	埋没土中		胴部7	3点	細：白色粒多・石英・雲母	褐灰	良好	あるいは中空状突起か？中位に円孔を設ける	加曽利 E Ⅰ式 新・E Ⅱ式
20	31	16	深跡	B	3	住居	埋没土中		口縁部	破片	細：石英・雲母	鈍い黄橙	良好	口縁部肥厚、僅かに赤色塗彩残る	加曽利 E Ⅰ式 新・E Ⅱ式
20	32	16	深跡	B	3	住居	埋没土中		口縁部	破片	細：石英・繊維	鈍い褐	良好	口縁部に横位連続爪形文、付加条1種	黒浜式
20	33	16	深跡	B	3	住居	埋没土中		胴部	破片	細：白色粒・輝石・繊維	黄灰	良好	横位連続爪形文と平行沈線	黒浜式
20	34	16	深跡	B	3	住居	埋没土中		口縁部	破片	細：白色粒・繊維	鈍い橙	良好	波状縁、口唇部角潰状、棒9節横位施文か	黒浜式
20	35	16	深跡	B	3	住居	埋没土中		胴部中位	破片	細：石英・雲母	灰褐	良好	幅広の横位刻み目列	黒浜式
20	36	16	深跡	B	3	住居	埋没土中		口縁部突起	破片	細：石英・補色粒	橙	良好	幅狭大型突起。連続爪形文中刺突文を施す	勝坂1式
24	1	17	深跡	A	4	住居	埋没土中		口縁部	破片	細：石英・雲母	鈍い黄橙	良好	双波状縁か、肥厚部に縦文施文、耳五分ヤ	阿玉台Ⅳ式
24	2	17	深跡	A	4	住居	埋没土中		口縁部	破片	細：石英多・雲母	鈍い黄橙	良好	横位細粘線と角押文、七郎内Ⅱ群	「七郎内Ⅱ群」
24	3	17	深跡	A	4	住居	埋没土中		口縁部	破片	細：石英・片岩	暗褐	良好	半円形刺突文の横位施文	勝坂2式
24	4	17	深跡	A	4	住居	埋没土中		胴部下半～底部	破片	細：白色粒・輝石	橙	良好	底：(8.6)。縦隆線による区画文と要区文	勝坂2式
24	5	17	深跡	A	4	住居	埋没土中		口縁部突起	破片	細：石英・雲母少	黄褐	良好	環状突起。三角連続刺突文と幅広連続爪形文	勝坂1式
24	6	17	深跡	A	4	住居	埋没土中		胴部上半	2点	細：石英・片岩・輝石	灰赤	良好	隆線による区画文構成。隆線上に格子状刻み	勝坂2式
25	7	17	深跡	A	4	住居	埋没土中		口縁部 口唇部欠	破片	細：白色粒・輝石	明赤褐	良好	口縁部横位隆線に交互の押圧を加える	加曽利 E Ⅰ式 新・E Ⅱ式
25	8	17	深跡	A	4	住居	埋没土中		胴部	破片	細：白色粒・輝石	赤褐	良好	連続外19と同一個体か。縦位無節L	勝坂2式か
25	9	17	深跡	A	4	住居	埋没土中		胴部	破片	細：石英大粒・白色粒・輝石	鈍い橙	良好	器ひな縦位燃糸L施文	加曽利 E Ⅰ式 新・E Ⅱ式
25	10	17	深跡	A	4	住居	埋没土中		底部	破片	細：石英・雲母	明赤褐	良好	無文。外面平滑な強く調整。底面網代痕	中期中葉
25	11	17	深跡	A	4	住居	埋没土中		底部	破片	細：石英・雲母多	明赤褐	良好	底：(10.8)。無文。外面平滑な強く調整	中期中葉
25	12	17	深跡	A	4	住居	埋没土中		底部	破片	細：白色粒・石英・雲母	黒褐	良好	底：(9.4)。内外面丁寧な研磨	中期中葉
25	13	17	土製円板	A	4	住居	埋没土中		胴部	破片	細：白色粒・輝石	褐	良好	径3cm。無文胴部片の外縁剥離のみの調整	中期
25	14	17	粘土塊	A	4	住居	埋没土中			破片	細：白色粒・輝石	明赤褐	良好	結晶状の形態。斜位沈線をみる	中期
25	15	17	深跡	A	4	住居	埋没土中		胴部	破片	細：石英・繊維	橙	良好	羽状縄文による亜形状構成	黒浜式
25	1	18	深跡	A	5	住居	中央部焼土北側	床面上5cm	胴部	破片	細：白色粒・繊維	鈍い黄橙	良好	胴節L横位施文	黒浜式
25	2	18	深跡	A	5	住居	埋没土中		胴部	破片	細：片岩・白色粒・繊維	鈍い黄褐	やや軟質	胴部縦減著しい。横位 RL か	黒浜式
25	3	18	深跡	A	5	住居	埋没土中		胴部	破片	細：白色粒・輝石	鈍い黄褐	良好	横位 RL を施す	諸磯a式
25	4	18	深跡	A	5	住居	埋没土中		胴部	破片	細：輝石・繊維	暗	良好	横位 LR を施す	諸磯a式
25	5	18	深跡	A	5	住居	埋没土中		胴部	破片	細：石英多・輝石	灰褐	良好	蕨下隆線と横位刻み目列を施す	阿玉台Ⅰb式
25	6	18	深跡	A	5	住居	南西部	床面上7cm	胴部	破片	細：石英・雲母	暗褐	良好	胴部隆線以下鈍状隆線と単列の結節沈線	阿玉台Ⅰb式
25	7	18	深跡	A	5	住居	中央やや北東寄り	床面上9cm	胴部	破片	細：石英・繊維	鈍い赤褐	良好	刻み隆帯による格円状区画文、沈線側縁	加曽利E Ⅰ式
27	8	18	深跡	A	5	住居	中央部焼土脇	床面上16cm	胴部	破片	細：白色粒・石英・輝石	暗	良好	蕨下沈線による懸垂文構成。地文は縦位 RL	加曽利 E Ⅰ式 新・E Ⅱ式
27	9	18	深跡	A	5	住居	中央部焼土北側	床面上5cm	底部	破片	細：白色粒・輝石・繊維少	鈍い黄橙	良好	無文。内面は平滑	中期後葉か
28	1	18	深跡	A	6	住居	中央部	床面直上	口縁部	破片	細：白色粒・輝石	鈍い褐	良好	内皮文様による鳥階線文、三叉文と刺突文	「諸町類型」
28	2	18	深跡	A	6	住居	埋没土中		胴部	破片	細：白色粒・輝石	橙	良好	円形刺突文と三叉文、内皮波線が外縁を囲す	「諸町類型」
28	3	18	深跡	A	6	住居	埋没土中		口縁部	破片	細：白色粒・石英・輝石	橙	良好	無文、小型品か	中期中葉
28	4	18	深跡	A	6	住居	南東壁際	床面上8cm	胴部	破片	細：白色粒・輝石・雲母	橙	良好	隆線による三角区画文構成、斜位 RL	中期中葉
28	5	18	深跡	A	6	住居	埋没土中		胴部中位	破片	細：白色粒・輝石	暗褐	良好	内皮文様を縦位に施す。地文は縦位 LR	中期中葉
28	6	18	深跡	A	6	住居	中央部	床面上2cm	胴部	破片	細：白色粒	鈍い赤褐	良好	縦位 RL が覆う	中期中葉
28	7	18	深跡	A	6	住居	埋没土中		口縁部	破片	細：白色粒	明赤褐	良好	内皮文様と連続爪形文による弧状亜形	黒浜式
29	1	18	深跡	B	7	住居	P 3 埋没土中		口縁部	破片	細：白色粒	明赤褐	良好	複列結節沈線による横位波状文	阿玉台Ⅰb式
29	2	18	深跡	B	7	住居	中央部	床面上2cm	胴部	破片	細：石英・片岩多・輝石	明赤褐	良好	幅狭の横位刻み目列	阿玉台Ⅰb式
29	3	18	深跡	B	7	住居	南壁際	床面上5cm	口縁部	1/4	細：小礫・白色粒	鈍い橙	良好	口頸部に幅狭小突起、横位三角連続刺突文	勝坂2式
30	4	18	深跡	B	7	住居	埋没土中		胴部	破片	細：白色粒多・石英	灰褐	良好	隆線による区画文構成。隆線上に刻み	勝坂2式
30	5	18	深跡	B	7	住居	南東壁際	床面上8cm	口縁部	破片	細：白色粒・石英	赤褐	良好	隆帯による格円状突起。側縁は平行沈線	中期中葉か
31	1	18	深跡	A	8	住居	P 2 埋没土中		胴部	破片	細：石英・繊維	鈍い黄褐	良好	横位 RL を施す	黒浜式
31	2	18	深跡	A	8	住居	P 4 埋没土中		胴部	破片	細：白色粒・石英	鈍い赤褐	良好	横位隆線による分葉。上位は沈線弧状亜匠	勝坂2式
32	1	19	深跡	A	2	土坑	埋没土中		胴部	破片	細：白色粒・輝石・繊維	鈍い褐	良好	胴節L斜位施文	黒浜式
32	2	19	深跡	A	2	土坑	埋没土中		胴部	破片	細：石英・繊維	鈍い橙	良好	0段多条の RL・LR による横位羽状縄文構成	黒浜式
32	3	19	深跡	A	2	土坑	埋没土中		胴部	破片	細：白色粒・繊維	鈍い黄橙	良好	付加条2種（LR+R）+ 胴節 R か	黒浜式
33	1	19	深跡	A	7	土坑	埋没土中		胴部	破片	細：白色粒・雲母少・繊維	暗褐	良好	横位胴節 R	黒浜式
33	2	19	深跡	A	7	土坑	埋没土中		胴部	破片	細：白色粒・石英少・繊維	灰褐	良好	0段多条 LR 横位施文	黒浜式
33	3	19	深跡	A	7	土坑	埋没土中		胴部	破片	細：白色粒・繊維	灰黄褐	良好	横位 RL と無節 L による羽状縄文構成	黒浜式
33	4	19	深跡	A	7	土坑	埋没土中		胴部	破片	細：石英・繊維	鈍い橙	良好	横位 LR と RL による羽状縄文構成	黒浜式
33	6	19	深跡	A	11	土坑	埋没土中		胴部	破片	細：白色粒・繊維	鈍い黄橙	良好	横位 RL と LR+R による羽状縄文構成	黒浜式
33	7	19	深跡	A	11	土坑	埋没土中		胴部	破片	細：石英・繊維	灰黄褐	良好	内皮使用の連続刺突文。蕨形状構成か	黒浜式
33	1	19	深跡	A	14	土坑	埋没土中		口縁部	破片	細：白色粒・繊維	黒褐	良好	波状縁、刺突文とコンパス文、研磨を加える	黒浜式
33	2	19	深跡	A	14	土坑	埋没土中		胴部	破片	細：白色粒・輝石	鈍い褐	良好	胴節 R 横位施文	黒浜式

図番号	遺物番号	PL番号	層種	区	NO	遺構	出土位置		部位	残存	胎土	色調	焼成	備考	時期・型式名など
34	1	19	深跡	B	25	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：白色粒・輝石	暗褐	良好	2条の垂下沈線による懸垂文構成、縦位 RL	加曽利E Ⅰ式新・E Ⅱ式
34	2	19	深跡	B	25	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：白色粒・石英	橙	良好	垂下沈線と蕨手状沈線による懸垂文構成。	加曽利E Ⅰ式新・E Ⅱ式
34	3	19	深跡	B	25	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：白色粒・石英	黄褐	良好	横位沈線以下沈線による蕨状意匠	加曽利E Ⅰ式新・E Ⅱ式
34	5	19	深跡		28	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：白色粒・繊維	黒褐	良好	縦位沈線と斜位沈線、米字状意匠か	黒浜式
35	1	19	深跡	A	8	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：石英・輝石	黄褐	良好	横位 LR を施す	諸磯a式
35	1	19	深跡	A	18	土坑	埋没土中		口縁部	破片	暗：白色粒・輝石・繊維	橙	良好	横位コンパス文と平行沈線が多段に施される	黒浜式
35	2	19	深跡	A	18	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：白色粒・石英・繊維	暗	良好	LR と RL 横位施文による菱形状構成か	黒浜式
36	1	19	深跡	B	26	土坑	埋没土中		底部	破片	暗：白色粒	暗褐	良好	横位 RL か	諸磯a式
36	2	19	深跡	B	26	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：白色粒・繊維	黄褐	良好	横位連続爪形文以下横位 LR	黒浜式
36	3	19	深跡	B	26	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：石英・繊維	黄褐	良好	横位内皮沈線とコンパス文	黒浜式
36	4	19	深跡	B	26	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：石英・繊維	黄褐	良好	0段多条 LR と RL による縦位羽状縄文構成	黒浜式
36	5	19	深跡	B	26	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：白色粒・繊維	黄褐	良好	横位沈線下に横位蕨状沈線を施す	加曽利E Ⅰ式新・E Ⅱ式
36	6	19	深跡	B	26	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：白色粒・輝石	黄褐	良好	横位 RL を施す	諸磯a式
37	1	19	深跡	A	1	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：白色粒・輝石	黄褐	良好	付加条2種（R+2L）+R か、結条体 L 2条	黒浜式
37	2	19	深跡	A	1	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：白色粒	黄褐	良好	胴体 L 縦位施文	加曽利E Ⅰ式新・E Ⅱ式
37	3	19	深跡	A	1	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：石英・雲母	褐	良好	横位隆線と横位刺み目列	阿玉台Ⅰb式
38	1	19	深跡	A	22	土坑	埋没土中		底部	破片	暗：白色粒・石英・輝石・繊維	黄褐	良好	底：（4.5）。横位 RL が底部縁部にまで及ぶ	黒浜式
38	2	19	深跡	A	22	土坑	埋没土中		口縁部	破片	暗：白色粒・繊維	黄褐	良好	角張状口縁。LR と RL の羽状縄文構成	黒浜式
38	3	19	深跡	A	22	土坑	埋没土中		口縁部	破片	暗：石英・繊維	黒褐	良好	内皮沈線に連続刺突文を重ねる。横位 RL	黒浜式
38	1	19	深跡	A	23	土坑	埋没土中		口縁部	破片	暗：石英・繊維	橙	良好	付加条2種、RL+L を軸に燃糸 L を加える	黒浜式
38	2	19	深跡	A	23	土坑	埋没土中		口縁部	破片	暗：石英大粒・繊維	黒褐	良好	角張状で僅かに外反する。横位 LR を施す	黒浜式
38	3	19	深跡	A	23	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：白色粒・輝石・繊維	黄褐	良好	横位 LR と RL による羽状縄文構成	黒浜式
38	4	19	深跡	A	23	土坑	埋没土中		底部	破片	暗：小礫・繊維	黄褐	良好	胴部僅かに張り出す小径の底部	黒浜式
38	5	19	深跡	A	23	土坑	埋没土中		胴部上半	破片	暗：石英小・繊維	橙	良好	胴部外反部か。横位連結爪形文	黒浜式
38	6	19	深跡	A	23	土坑	北半部	直径上10cm	胴部	破片	暗：石英・繊維	黄褐	良好	口縁部外形状、頭部で湾曲。縦位 LR	黒浜式
38	7	19	深跡	A	23	土坑	北半部	直径上9cm	胴部	破片	暗：白色粒・輝石・繊維	黄褐	良好	胴部 R と結条体燃糸 R 2条による羽状構成か	黒浜式
38	8	19	深跡	A	23	土坑	埋没土中		頸部	破片	暗：白色粒・石英多・輝石	褐	良好	強く外反する頸部。横位隆線を付し、上端に沈線が沿う	中期中葉か
39	1	19	深跡	A	15	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：石英・片岩少・繊維	赤褐	良好	横位平行沈線以下横位 LR	黒浜式
39	2	19	深跡	A	15	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：石英少・繊維	黄褐	良好	横位 LR を施す	黒浜式
39	1	19	深跡	A	16	土坑	北西部	直径上 3cm	胴部	破片	暗：石英・輝石・繊維	暗褐	良好	付加条1種 LR+R	黒浜式
39	2	19	深跡	A	16	土坑	埋没土中		口縁部	破片	暗：褐色粒・石英・繊維	黒褐	良好	口縁部に刻みを施す。付加条1種 LR+R	黒浜式
39	3	19	深跡	A	16	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：石英・繊維	褐	良好	横位 RL。隙で調整が重なる	黒浜式
39	4	19	深跡	A	16	土坑	埋没土中		口縁部	破片	暗：白色粒・石英・繊維	橙	良好	口唇端部角頭状。付加条1種 RL+ 2L	黒浜式
39	5	19	深跡	A	16	土坑	埋没土中		口縁部	破片	暗：石英・輝石・繊維	褐	良好	口唇部僅かに外反する。横位 LR を施す	黒浜式
40	1	19	深跡	A	9	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：石英・繊維	灰褐	良好	横位 RL と0段多条 LR による羽状縄文構成	黒浜式
40	1	19	深跡	A	12	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：白色粒・繊維	褐	良好	横位 RL を施す	黒浜式
40	2	19	深跡	A	12	土坑	埋没土中		胴部	破片	暗：片岩少・輝石	褐	良好	横位 RL を施す	諸磯a式
40	3	19	深跡	A	12	土坑	埋没土中		口縁部	破片	暗：白色粒・輝石・繊維	黄褐	良好	結節孔有り。横位刺突文、付加条1種 RL+L か	黒浜式
41	1	20	深跡	A	5	ピット	埋没土中		胴部	破片	暗：白色粒・繊維	黄褐	良好	横位円形刺突文、無節 L と R の横位羽状縄文	黒浜式
41	2	20	深跡	A	5	ピット	中央部	直径上 22cm	口縁～胴部中位	破片	暗：白色粒・石英・繊維	褐	良好	結中かに頭部外反。胴部内湾する。横位 RL	黒浜式
45	1	20	深跡	A		中央搬乱			口縁部	破片	暗：白色粒・繊維	黄褐	良好	無節 R 斜位施文	黒浜式
45	2	20	深跡		1	溝	埋没土中		口縁部	破片	暗：雲母末・繊維	黄褐	良好	コンパス文以下付加条1種 LR+無節 R	黒浜式
45	3	20	深跡	A		中央搬乱			胴部	破片	暗：白色粒・輝石	灰褐	良好	付加条1種 LR+R 2条	黒浜式
45	4	20	深跡	B		表土			胴部	破片	暗：白色粒・繊維	橙	良好	横位 RL を施す	黒浜式
45	5	20	深跡	A		中央搬乱			胴部	破片	暗：石英・繊維	黄褐	良好	面前段合撚りによる菱形状構成	黒浜式
45	6	20	深跡	A		中央搬乱			胴部	破片	暗：石英・片岩粒	黄褐	良好	横位 RL を施す	諸磯a式
45	7	20	深跡	A	2	トレンチ			口縁部肥厚手	破片	暗：石英・雲母	黄褐	良好	肥厚肥手。複列の結節沈線を施す	阿玉台Ⅱ式
45	8	20	深跡	B		表土			胴部	破片	暗：石英・雲母末・輝石	橙	良好	張状突起と隆線、側縁太い沈線、縦位 LR	「新巻類型」
45	9	20	深跡	B	1	トレンチ			口縁部	破片	暗：白色粒・輝石	暗褐	良好	口縁部横位隆線以下横位平行沈線を重ねる	「新巻類型」？
45	10	20	深跡	B	1	トレンチ			胴部	破片	暗：白色粒・輝石	黄褐	良好	隆線と瘤状突起、側縁は連続爪形文と刺突文	勝坂1式
45	11	20	深跡	B	1	トレンチ			胴部	破片	暗：白色粒・輝石	灰赤	良好	横位隆線による分帯、弧状隆線が派生する	勝坂式
45	12	20	深跡	B	1	トレンチ			口縁部	破片	暗：石英・雲母	黄褐	良好	横位縦歯状沈線、浅い特沈線を地文	阿玉台Ⅲ式
45	13	20	深跡		1	溝	埋没土中		口縁～胴部	破片	暗：石英・白色粒	黄褐	良好	横位隆線と横位沈線、交互刺突文	勝坂3式
45	14	20	深跡	A	2	トレンチ			口縁部	破片	暗：白色粒・輝石	灰赤	良好	隆線と内皮沈線による曲隆線文	「焼町類型」
45	15	20	深跡	B	1	トレンチ			胴部上半	破片	暗：白色粒・石英	黄褐	良好	無節 L 縦位・斜位施文	勝坂3式？
45	16	20	深跡	B	1	トレンチ			胴部	破片	暗：白色粒・輝石	明赤褐	良好	斜位 RL が覆う	勝坂3式？
45	17	20	深跡	B	1	溝	埋没土中		胴部	破片	暗：白色粒・石英	黄褐	良好	2条隆線による区画文、地文は縦位無節 L	加曽利E Ⅰ式新
45	18	20	深跡	B		表土			胴部	破片	暗：白色粒・石英・輝石・雲母少	灰黄褐	良好	2条の波状沈線、地文は縦位複節 RLR	加曽利E Ⅰ式新・E Ⅱ式
45	19	20	深跡	B	1	トレンチ			口縁～胴部	3点	暗：白色粒多・輝石	黄褐	やや軟質	無節 L の縦位・斜位施文、4住に同一個体	勝坂2式か

第 13 表　石器類一覧表

図番号	遺物番号	ＰＬ番号	器種	区	NO	出土遺構	出土位置		石材	重量	長さ	幅	点数
13	53	14	打製石斧	A	1	住居	埋没土中		珪質粘板岩	24.3	4.4	3.7	
13	54	14	磨製石斧	A	1	住居	埋没土中		変質玄武岩	123.5	7.1	4.7	
13	55	14	石錐	A	1	住居	埋没土中		チャート	1.2	1.7	1.8	
13	56	14	石匙	A	1	住居	埋没土中		チャート	4.6	4.5	1.8	
13	57	14	削器	A	1	住居	北壁付近	床面上 7cm	ホルンフェルス	195.0	7.1	11.3	
13	58	14	石核	A	1	住居	埋没土中		チャート	200.8	5.9	6.0	
			加工痕ある剥片	A	1	住居	埋没土中		ホルンフェルス	73.1	4.7	8.3	
			加工痕ある剥片	A	1	住居	埋没土中		頁岩	50.8	7.9	5.2	
13	59	14	加工痕ある剥片	A	1	住居	埋没土中		ホルンフェルス	785.1	14.1	12.6	
13	60	15	敲石	A	1	住居	南壁際	床面上 5cm	溶結凝灰岩	1217.8	14.1	9.6	
13	61	14	敲石	A	1	住居	埋没土中		ホルンフェルス	91.3	8.1	4.5	
13	62	15	多孔石	A	1	住居	南壁際	床面上 4cm	溶結凝灰岩	4246.0	22.4	20.0	
			磨石	A	1	住居	位置不明		細粒輝石安山岩	276.7	9.6	6.6	
			磨石	A	1	住居	埋没土中		細粒輝石安山岩	82.1	3.9	8.7	
			台石	A	1	住居	南壁際	床面上 40cm	溶結凝灰岩	114600.0	31.1	28.2	
			敲石	A	1	住居	埋没土中		細粒輝石安山岩	407.0	9.8	7.2	
			剥片	A	1	住居	南壁際	床面上 9cm	ホルンフェルス	2.8			
			剥片	A	1	住居	西部	床面上 1cm	ホルンフェルス	4.3			
			剥片	A	1	住居	西壁際	床面上 14cm	黒曜石	1.2			
			剥片	A	1	住居	東部	床面上 16cm	黒曜石	0.5			
			剥片	A	1	住居	中央部	床面上 2cm	頁岩	15.9			
			剥片	A	1	住居	中央部	床面上 14cm	黒色頁岩	44.8			
			剥片	A	1	住居	埋没土中		頁岩	184.4			9
			剥片	A	1	住居	埋没土中		黒色安山岩	5.2			2
			剥片	A	1	住居	埋没土中		黒色頁岩	39.8			3
			剥片	A	1	住居	埋没土中		黒曜石	7.0			9
			剥片	A	1	住居	埋没土中		チャート	272.6			25
			剥片	A	1	住居	埋没土中		ホルンフェルス	31.1			2
			礫・礫片	A	1	住居	南部壁際	床面上 13cm	砂岩	89.9			
			礫・礫片	A	1	住居	南部壁際	床面上 5cm	ホルンフェルス	45.7			
			礫・礫片	A	1	住居	南西部	床面上 5cm	溶結凝灰岩	301.4			
			礫・礫片	A	1	住居	南西部	床面直上	石英斑岩	3019.6			
			礫・礫片	A	1	住居	西壁際	床面上 11cm	砂岩	41.2			
			礫・礫片	A	1	住居	北西部	床面上 15cm	溶結凝灰岩	848.3			
			礫・礫片	A	1	住居	北部	床面上 5cm	砂岩	94.3			
			礫・礫片	A	1	住居	北部	床面上 7cm	石英斑岩	263.9			
			礫・礫片	A	1	住居	北部	床面上 23cm	変質安山岩	99.7			
			礫・礫片	A	1	住居	北部	床面上 5cm	変質安山岩	106.6			
			礫・礫片	A	1	住居	北部	床面上 6cm	変質玄武岩	68.9			
			礫・礫片	A	1	住居	北部	床面上 15cm	細粒輝石安山岩	6.1			
			礫・礫片	A	1	住居	北部	床面上 3cm	細粒輝石安山岩	73.1			
			礫・礫片	A	1	住居	北部	床面上 20cm	溶結凝灰岩	387.1			
			礫・礫片	A	1	住居	中央部	床面上 22cm	溶結凝灰岩	569.2			
			礫・礫片	A	1	住居	中央部	床面上 12cm	石英斑岩	222.3			
			礫・礫片	A	1	住居	中央部	床面上 22cm	砂岩	64.8			
			礫・礫片	A	1	住居	中央部	床面上 13cm	細粒輝石安山岩	563.2			
			礫・礫片	A	1	住居	中央部	床面上 13cm	砂岩	30.3			
			礫・礫片	A	1	住居	埋没土中		かこう岩	3.5			
			礫・礫片	A	1	住居	埋没土中		珪質粘板岩	2.2			
			礫・礫片	A	1	住居	埋没土中		頁岩	147.2			10
			礫・礫片	A	1	住居	埋没土中		砂岩	1077.0			38
			礫・礫片	A	1	住居	埋没土中		石英	78.7			
			礫・礫片	A	1	住居	埋没土中		石英斑岩	32.7			2
			礫・礫片	A	1	住居	埋没土中		細粒輝石安山岩	157.9			4
			礫・礫片	A	1	住居	埋没土中		チャート	1110.2			21
			礫・礫片	A	1	住居	埋没土中		変質玄武岩	29.1			
			礫・礫片	A	1	住居	埋没土中		ホルンフェルス	872.9			20
			礫・礫片	A	1	住居	埋没土中		溶結凝灰岩	10969.2			7
			加工痕ある剥片	A	2	住居	南部壁際	床面上 3cm	頁岩	37.9	4.7	9.6	
14	2	15	凹石	A	2	住居	炉東脇	床面直上	溶結凝灰岩	224.8	5.3	7.9	
14	3	15	凹石	A	2	住居	炉東脇	床面直上	細粒輝石安山岩	796.9	11.2	9.4	
14	4	15	石皿	A	2	住居	炉東脇	床面壁崩込み	細粒輝石安山岩	8020.0	20.0	26.4	
			剥片	A	2	住居	埋没土中		ホルンフェルス	5.8			
			礫・礫片	A	2	住居	炉東部	床面直上	チャート	77.5			
			礫・礫片	A	2	住居	炉東部	床面直上	チャート	211.3			
			礫・礫片	A	2	住居	炉東脇	床面直上	溶結凝灰岩	15.8			
			加工痕ある剥片	B	3	住居	埋没土中		ホルンフェルス	74.5	9.3	4.2	
			加工痕ある剥片	B	3	住居		埋没土中	ホルンフェルス	76.5	7.9	5.7	
21	37	16	打製石斧	B	3	住居	炉北西脇	床面上 3cm	ホルンフェルス	120.1	8.4	6.0	
21	38	16	打製石斧	B	3	住居	埋没土中		ホルンフェルス	130.8	9.1	5.2	
21	39	16	打製石斧	B	3	住居	埋没土中		ホルンフェルス	60.2	6.4	3.9	
			打製石斧	B	3	住居	埋没土中		ホルンフェルス	79.6	6.9	4.6	
			打製石斧	B	3	住居	埋没土中		黒色頁岩	58.7	6.6	3.4	
21	40	16	打製石斧	B	3	住居	埋没土中		珪質粘板岩	60.1	6.0	5.3	
21	45		磨製石斧	B	3	住居	埋没土中		変質蛇紋岩	17.0	4.2	3.0	
21	41	16	礫器	B	3	住居	埋没土中		ホルンフェルス	328.3	9.6	6.5	
21	42	16	石錐	B	3	住居	埋没土中		チャート	1.9	2.0	1.9	
21	43	16	石錐	B	3	住居	埋没土中		黒色安山岩	1.3	2.2	1.5	
21	44	16	削器	B	3	住居	埋没土中		ホルンフェルス	46.3	9.0	3.8	

図番号	遺物番号	ＰＬ番号	器種	区	NO	出土遺構	出土位置		石材	重量	長さ	幅	点数
21	46	16	石核	B	3	住居	埋没土中		チャート	187.7	8.2	7.6	
21	47	17	石核	B	3	住居	炉西脇	床面上 5cm	ホルンフェルス	4094.4	25.0	17.6	
21	48	16	凹石	B	3	住居	炉東脇	床面直上	溶結凝灰岩	698.5	11.8	8.9	
21	49	16	凹石	B	3	住居	埋没土中		細粒輝石安山岩	834.2	12.2	9.1	
22	50	17	凹石	B	3	住居	炉北西脇	床面上 11cm	細粒輝石安山岩	483.9	8.4	7.1	
			磨石	B	3	住居	炉北東部	床面上 2cm	細粒輝石安山岩	622.9	11.7	7.5	
22	51	17	磨石	B	3	住居	炉東脇	床面直上	細粒輝石安山岩	677.1	13.6	7.6	
22	52	17	磨石	B	3	住居	炉東部	床面上 10cm	溶結凝灰岩	743.5	12.5	7.9	
			石核	B	3	住居	埋没土中		チャート	256.8	6.9	5.1	
			石核	B	3	住居	埋没土中		黒曜石	18.7	2.2	4.5	
22	53	17	敲石	B	3	住居	炉北東脇	床面上 4cm	溶結凝灰岩	776.6	11.0	8.5	
			敲石	B	3	住居	炉体土器東脇	床面上 5cm	石英斑岩	145.3	13.9	10.2	
			敲石	B	3	住居	北西部	床面上 6cm	ホルンフェルス	309.1	12.2	7.2	
			敲石	B	3	住居	南部	床面上 3cm	溶結凝灰岩	688.1	10.4	9.8	
22	54	17	敲石	B	3	住居	埋没土中		ホルンフェルス	488.1	14.0	5.8	
			多孔石	B	3	住居	炉北東部	焼土面上 4cm	細粒輝石安山岩	328.6	9.2	9.0	
22	55	17	多孔石	B	3	住居	炉内	焼土面上 6cm	細粒輝石安山岩	7140.0	22.0	20.0	
22	56	17	多孔石	B	3	住居	炉内	焼土面上 1cm	細粒輝石安山岩	9620.0	28.0	19.4	
22	57	17	細形石	B	3	住居	ＰＦ２上位	床面上 5cm	細粒輝石安山岩	65400.0	39.0	44.8	
			台石	B	3	住居	炉北部	床面直上	細粒輝石安山岩	10200.0	31.3	22.0	
			剥片	B	3	住居	北部	床面上 7cm	チャート	4.1			
			剥片	B	3	住居	南西部	床面上 20cm	ホルンフェルス	28.5			
			剥片	B	3	住居	埋没土中		赤鉄石	1.8			
			剥片	B	3	住居	埋没土中		珪質頁岩	49.6			
			剥片	B	3	住居	埋没土中		珪質粘板岩	43.6			
			剥片	B	3	住居	埋没土中		頁岩	181.0			16
			剥片	B	3	住居	埋没土中		黒色安山岩	33.4			6
			剥片	B	3	住居	埋没土中		黒色頁岩	75.1			4
			剥片	B	3	住居	埋没土中		細粒輝石安山岩	7.9			
			剥片	B	3	住居	埋没土中		砂岩	24.4			3
			剥片	B	3	住居	埋没土中		チャート	314.6			25
			剥片	B	3	住居	埋没土中		変質武岩	23.1			2
			剥片	B	3	住居	埋没土中		ホルンフェルス	1488.4			46
			剥片	B	3	住居	埋没土中		溶結凝灰岩	32.1			2
			礫・礫片	B	3	住居	炉北東部	床面上 9cm	ホルンフェルス	553.4			
			礫・礫片	B	3	住居	炉北東部	床面上 4cm	チャート	2261.9			
			礫・礫片	B	3	住居	炉北東部	床面上 10cm	細粒輝石安山岩	82.1			
			礫・礫片	B	3	住居	炉北東部	床面上 9cm	砂岩	1168.1			
			礫・礫片	B	3	住居	炉北東部	床面上 6cm	細粒輝石安山岩	75.6			
			礫・礫片	B	3	住居	炉北東部	床面直上	溶結凝灰岩	2256.5			
			礫・礫片	B	3	住居	炉東部	床面上 10cm	かこう岩	44.7			
			礫・礫片	B	3	住居	炉東脇	床面上 4cm	ホルンフェルス	233.2			
			礫・礫片	B	3	住居	東部ＰＩ内	直面上 28cm	砂岩	245.4			
			礫・礫片	B	3	住居	炉東脇	床面上 9cm	ホルンフェルス	27.8			
			礫・礫片	B	3	住居	炉東脇	床面上 5cm	溶結凝灰岩	80.2			
			礫・礫片	B	3	住居	炉体土器南脇	使用面壁めぶち	細粒輝石安山岩	14900.0			
			礫・礫片	B	3	住居	炉体土器東縁	炉体土器直上	細粒輝石安山岩	3063.7			
			礫・礫片	B	3	住居	炉中央部	炉体土器直上	細粒輝石安山岩	14100.0			
			礫・礫片	B	3	住居	北西部	床面上 2cm	溶結凝灰岩	407.7			
			礫・礫片	B	3	住居	炉西脇	床面上 5cm	ホルンフェルス	1799.5			
			礫・礫片	B	3	住居	炉西脇	床面上 4cm	溶結凝灰岩	1781.9			
			礫・礫片	B	3	住居	炉西脇	床面上 6cm	細粒輝石安山岩	377.1			
			礫・礫片	B	3	住居	炉南西脇	床面上 5cm	かこう岩	919.4			
			礫・礫片	B	3	住居	炉南縁	床面上 2cm	細粒輝石安山岩	5519.5			
			礫・礫片	B	3	住居	南部	床面上 20cm	石英斑岩	3120.6			
			礫・礫片	B	3	住居	南部	床面上 34cm	流紋岩	349.1			
			礫・礫片	B	3	住居	南壁際	床面上 11cm	砂岩	8.5			
			礫・礫片	B	3	住居	南壁際	床面直上	溶結凝灰岩	1703.4			
			礫・礫片	B	3	住居	南壁際	床面上 10cm	細粒輝石安山岩	6800.0			
			礫・礫片	B	3	住居	炉西脇	床面直上	かこう岩	21120.0			
			礫・礫片	B	3	住居	炉体土器東脇	炉使用面直上	細粒輝石安山岩	262.6			
			礫・礫片	B	3	住居	埋没土中		珪質頁岩	11.5			
			礫・礫片	B	3	住居	埋没土中		頁岩	458.0			9
			礫・礫片	B	3	住居	埋没土中		黒色安山岩	1.8			
			礫・礫片	B	3	住居	埋没土中		砂岩	642.1			17
			礫・礫片	B	3	住居	埋没土中		細粒輝石安山岩	2075.6			11
			礫・礫片	B	3	住居	埋没土中		チャート	894.3			18
			礫・礫片	B	3	住居	埋没土中		ひん岩	141.5			
			礫・礫片	B	3	住居	埋没土中		変質玄武岩	82.7			
			礫・礫片	B	3	住居	埋没土中		ホルンフェルス	1508.3			14
			礫・礫片	B	3	住居	埋没土中		溶結凝灰岩	222.0			
25	16	18	打製石斧	A	4	住居	ＰＩ西脇	床面上 5cm	ホルンフェルス	54.7	5.5	6.5	
25	17	18	加工痕ある剥片	A	4	住居	埋没土中		黒色頁岩	19.7	3.2	4.4	
			加工痕ある剥片	A	4	住居	埋没土中		チャート	18.4	3.5	5.0	
25	18	18	加工痕ある剥片	A	4	住居	埋没土中		珪質頁岩	13.6	2.2	1.7	
25	19	18	加工痕ある剥片	A	4	住居	埋没土中		チャート	16.5	4.4	3.1	
			加工痕ある剥片	A	4	住居	埋没土中		ホルンフェルス	105.7	7.2	7.2	
			加工痕ある剥片	A	4	住居	埋没土中		ホルンフェルス	11.5	3.3	2.8	
			加工痕ある剥片	A	4	住居	埋没土中		ホルンフェルス	11.3	4.9	2.7	
25	20	18	凹石	A	4	住居	中央部	床面直上	溶結凝灰岩	1379.4	16.6	9.8	

図番号	遺物番号	ＰＬ番号	器種	区	NO	出土遺構	出土位置		石材	重量	長さ	幅	点数
25	21	18	凹石	A	4	住居	埋没土中		輝緑凝灰岩	620.8	9.0	8.6	
25	22	18	磨石	A	4	住居	西部	床面上 2cm	輝緑凝灰岩	1101.8	13.4	10.2	
25	23	18	敲磨	A	4	住居	埋没土中		変質蛇紋岩	3.0	1.2	1.5	
			剥片	A	4	住居	埋没土中		頁岩	53.3			5
			剥片	A	4	住居	埋没土中		黒色頁岩	18.9			
			剥片	A	4	住居	埋没土中		砂岩	196.8			2
			剥片	A	4	住居	埋没土中		チャート	23.8			7
			剥片	A	4	住居	埋没土中		ホルンフェルス	21.7			4
			礫・礫片	A	4	住居	Ｐ 12 西脇	床面直上	輝緑輝石安山岩	204.6			
			礫・礫片	A	4	住居	埋没土中		頁岩	500.5			6
			礫・礫片	A	4	住居	Ｐ 3 埋没土中		黒色頁岩	3.6			
			礫・礫片	A	4	住居	埋没土中		砂岩	1857.0			56
			礫・礫片	A	4	住居	Ｐ 1 埋没土中		砂岩	40.7			2
			礫・礫片	A	4	住居	Ｐ 2 埋没土中		砂岩	7.8			
			礫・礫片	A	4	住居	Ｐ 8 埋没土中		砂岩	65.4			3
			礫・礫片	A	4	住居	Ｐ 13 埋没土中		砂岩	35.5			4
			礫・礫片	A	4	住居	埋没土中		閃緑岩	92.8			
			礫・礫片	A	4	住居	埋没土中		輝緑輝石安山岩	388.9			7
			礫・礫片	A	4	住居	埋没土中		チャート	73.6			3
			礫・礫片	A	4	住居	埋没土中		変質玄武岩	159.2			4
			礫・礫片	A	4	住居	埋没土中		ホルンフェルス	187.3			5
			礫・礫片	A	4	住居	Ｐ 2 埋没土中		ホルンフェルス	7.0			
27	10	18	石皿	A	5	住居	炉西脇	床面上 12cm	黒曜石	0.5	2.2	1.7	
27	11	18	石核	A	5	住居	埋没土中		チャート	25.8	2.8	4.7	
27	12	18	加工痕ある剥片	A	5	住居	北西壁寄り	床面直上	輝緑輝石安山岩	652.0	11.4	7.5	
			剥片	A	5	住居	Ｐ 1 北東縁	床面上 3cm	チャート	1.3			
			剥片	A	5	住居	埋没土中		砂岩	47.7			
			剥片	A	5	住居	埋没土中		チャート	2.8			
			剥片	A	5	住居	埋没土中		ホルンフェルス	53.2			
			礫・礫片	A	5	住居	中央部	床面直上	砂岩	574.8			
			礫・礫片	A	5	住居	中央部	床面上 2cm	輝緑輝石安山岩	78.3			
			礫・礫片	A	5	住居	埋没土中		砂岩	165.3			5
			礫・礫片	A	5	住居	埋没土中		チャート	68.8			2
			礫・礫片	A	5	住居	埋没土中		変玄武岩	357.3			
			礫・礫片	A	5	住居	埋没土中		ホルンフェルス	106.5			
28	8	18	凹石	A	6	住居	Ｐ 1 東中央部	床面上 2cm	輝緑輝石安山岩	287.0	8.1	5.9	
28	9	18	凹石	A	6	住居	中央部	床面直上	輝緑輝石安山岩	976.2	12.8	9.5	
			剥片	A	6	住居	埋没土中		黒曜石	0.1			
			剥片	A	6	住居	埋没土中		ホルンフェルス	30.1			6
			礫・礫片	A	6	住居	中央部	床面直上	輝緑輝石安山岩	159.0			
			礫・礫片	A	6	住居	中央部	床面上 4cm	砂岩	190.0			
			礫・礫片	A	6	住居	中央部	床面上 10cm	変質安山岩	79.6			
			礫・礫片	A	6	住居	埋没土中		黒色頁岩	14.4			
			礫・礫片	A	6	住居	埋没土中		砂岩	227.8			9
			礫・礫片	A	6	住居	埋没土中		チャート	243.6			3
			礫・礫片	A	6	住居	埋没土中		変質玄武岩	63.8			
			礫・礫片	A	6	住居	埋没土中		ホルンフェルス	35.7			
30	6	18	石核	B	7	住居	中央部	床面直上	ホルンフェルス	1299.2	13.1	13.2	
			台石	B	7	住居	Ｐ 1 北縁	床面上 9cm	輝緑輝石安山岩	2210.4	19.2	15.3	
30	7	18	凹石	B	7	住居	Ｐ 1 北縁	床面上 7cm	輝緑輝石安山岩	334.7	9.8	6.7	
30	8	18	磨石	B	7	住居	南壁際	床面上 6cm	輝緑輝石安山岩	1087.9	12.8	12.3	
30	9	18	多孔石	B	7	住居	Ｐ 1 内	直面上 45cm	輝緑輝石安山岩	2533.0	17.4	16.2	
			剥片	B	7	住居	埋没土中		チャート	4.5			4
			礫・礫片	A	7	住居	南東壁際	床面上 2cm	溶結凝灰岩	508.1			
			礫・礫片	A	7	住居	南西壁際	床面上 2cm	溶結凝灰岩	1752.1			
			礫・礫片	A	7	住居	南西壁際	床面上 6cm	かこう岩	832.3			
			礫・礫片	A	7	住居	南西壁際	床面上 2cm	かこう岩	220.3			
			礫・礫片	A	8	住居	Ｐ 2 埋没土中		変玄武岩	75.0			
			剥片	A	2	土坑	埋没土中		ホルンフェルス	8.8			2
			礫・礫片	A	2	土坑	埋没土中		頁岩	54.5			
			礫・礫片	A	2	土坑	埋没土中		輝緑輝石安山岩	113.2			
			礫・礫片	A	2	土坑	埋没土中		チャート	12.1			2
			礫・礫片	A	2	土坑	埋没土中		ホルンフェルス	134.3			5
32	1	19	磨石	A	4	土坑	埋没土中		輝緑輝石安山岩	292.7	8.2	6.6	
33	5	19	凹石	A	7	土坑	埋没土中		溶結凝灰岩	271.5	10.0	5.9	
			礫・礫片	A	7	土坑	埋没土中		珪質頁岩	34.9			
			礫・礫片	A	7	土坑	埋没土中		砂岩	34.6			
			磨石	A	8	土坑	埋没土中		溶結凝灰岩	203.0	6.9	5.6	
35	2	19	凹石	A	8	土坑	埋没土中		輝緑輝石安山岩	766.3	12.5	7.6	
			剥片	A	8	土坑	埋没土中		頁岩	52.8			3
			礫・礫片	A	8	土坑	埋没土中		ホルンフェルス	7.0			
			礫・礫片	A	8	土坑	埋没土中		溶結凝灰岩	211.1			
			剥片	A	9	土坑	埋没土中		ホルンフェルス	41.9			
			礫・礫片	A	9	土坑	埋没土中		輝緑輝石安山岩	89.8			
			礫・礫片	A	9	土坑	埋没土中		チャート	10.9			

図番号	遺物番号	ＰＬ番号	器種	区	NO	出土遺構	出土位置		石材	重量	長さ	幅	点数
			礫・礫片	A	9	土坑	埋没土中		ホルンフェルス	487.0			
			剥片	A	11	土坑	埋没土中		チャート	38.7			
			礫・礫片	A	11	土坑	埋没土中		珪質粘板岩	6.3			
			礫・礫片	A	11	土坑	埋没土中		細粒輝石安山岩	2.3			
			礫・礫片	A	11	土坑	埋没土中		チャート	26.1			2
			礫・礫片	A	12	土坑	埋没土中		細粒輝石安山岩	153.7			
33	3	19	石核	A	14	土坑	埋没土中		砂岩	254.0	10.1	7.0	
			剥片	A	15	土坑	埋没土中		砂岩	18.6			
			剥片	A	15	土坑	埋没土中		チャート	10.2			
			剥片	A	15	土坑	埋没土中		ホルンフェルス	7.0			
			礫・礫片	A	15	土坑	埋没土中		細粒輝石安山岩	6.7			
			礫・礫片	A	15	土坑	埋没土中		変質武岩	14.9			
			礫・礫片	A	15	土坑	埋没土中		流紋岩	75.4			
39	6	19	打製石斧	A	16	土坑	埋没土中		ホルンフェルス	126.3	8.6	4.3	
			剥片	A	16	土坑	埋没土中		黒色頁岩	2.4			
			剥片	A	16	土坑	埋没土中		砂岩	5.2			
			剥片	A	16	土坑	埋没土中		チャート	7.9			
			礫・礫片	A	16	土坑	埋没土中		細粒輝石安山岩	3.4			
			剥片	A	18	土坑	埋没土中		ホルンフェルス	5.6			
			礫・礫片	A	18	土坑	埋没土中		砂岩	43.5			
			礫・礫片	A	18	土坑	埋没土中		ホルンフェルス	37.0			
			加工痕ある剥片	A	21	土坑	埋没土中		ホルンフェルス	244.1	7.6	9.0	
36	1	19	磨石	A	21	土坑	埋没土中		細粒輝石安山岩	328.4	8.9	7.1	
			礫・礫片	A	21	土坑	埋没土中		ホルンフェルス	1334.4			
			剥片	A	22	土坑	埋没土中		珪質頁岩	0.6			
			礫・礫片	A	22	土坑	埋没土中		砂岩	8.2			3
			礫・礫片	A	22	土坑	埋没土中		チャート	7.9			3
			礫・礫片	A	22	土坑	埋没土中		ホルンフェルス	5.3			2
38	9	19	台石	A	23	土坑	西壁際	底面上 4cm	細粒輝石安山岩	28180.0	42.4	24.4	
			礫	A	23	土坑	西壁際	底面上 4cm	細粒輝石安山岩	32080.0	49.5	26.5	
			剥片	A	23	土坑	埋没土中		チャート	19.0			3
			剥片	A	23	土坑	埋没土中		ホルンフェルス	5.1			
			礫・礫片	A	23	土坑	埋没土中		砂岩	10.3			
			礫・礫片	A	23	土坑	埋没土中		ホルンフェルス	4.9			2
34	4	19	台石	B	25	土坑	中央部	底面上 16cm	細粒輝石安山岩	4637.8	23.2	19.6	
			礫・礫片	A	26	土坑	埋没土中		頁岩	11.0			
			礫・礫片	A	26	土坑	埋没土中		砂岩	279.9			
			礫・礫片	A	26	土坑	埋没土中		ホルンフェルス	12.8			
			礫・礫片	A	5	ピット	埋没土中		砂岩	6.3			
			礫・礫片	A	5	ピット	埋没土中		細粒輝石安山岩	18.8			
			礫・礫片	A	5	ピット	埋没土中		変質玄武岩	3.6			
			礫・礫片	A	5	ピット	埋没土中		ホルンフェルス	6.1			2
42	1	20	石核	A	6	ピット	埋没土中		チャート	40.1	5.3	4.7	
			礫・礫片	A	1	溝	埋没土中		砂岩	155.3			2
			礫・礫片	A	1	溝	埋没土中		細粒輝石安山岩	230.0			
			礫・礫片	A	1	溝	埋没土中		ホルンフェルス	87.5			
			剥片	B	1	トレンチ	層位不明		チャート	19.0			
			剥片	B	1	トレンチ	層位不明		ホルンフェルス	5.1			
			礫・礫片	A	2	トレンチ	層位不明		砂岩	30.3			
			礫・礫片	A	2	トレンチ	層位不明		ホルンフェルス	239.4			2
			礫・礫片	A		攪乱	埋没土中		チャート	14.6			
46	20	20	打製石斧	A		表採	地表面で採集		チャート	89.8	5.8	5.4	
			打製石斧	A		表採	地表面で採集		ホルンフェルス	215.6	12.3	6.1	
46	21	20	打製石斧	B		表採	地表面で採集		黒色頁岩	74.1	7.8	4.4	
46	22	20	打製石斧	B		表採	地表面で採集		ホルンフェルス	376.9	13.0	9.1	
			礫・礫片	A		攪乱	埋没土中		ホルンフェルス	65.8			6
46	23	20	石核	B		表採	地表面で採集		チャート	42.2	4.4	3.5	
46	24	20	石核	A		表採	地表面で採集		ホルンフェルス	807.0	10.3	14.2	
			石核	A		表採	地表面で採集		ホルンフェルス	1717.4	12.7	19.8	
46	25	20	石皿	A		表採	地表面で採集		細粒輝石安山岩	2300.2	22.2	18.6	
46	26	20	石皿	A		表採	地表面で採集		細粒輝石安山岩	8240.0	27.8	30.0	
			台石	A		表採	地表面で採集		細粒輝石安山岩	1127.1	9.2	16.6	
			敲石	A		表採	地表面で採集		ホルンフェルス	84.4	4.0	5.4	
			礫・礫片	A		表採	地表面で採集		細粒輝石安山岩	7500.0			
			剥片	A		表土	遺構確認作業中に出土		黒色頁岩	9.2			
			剥片	A		表土	遺構確認作業中に出土		ホルンフェルス	96.7			5
			剥片	B		表土	遺構確認作業中に出土		頁岩	2.9			
			剥片	B		表土	遺構確認作業中に出土		砂岩	4.2			
			剥片	B		表土	遺構確認作業中に出土		ホルンフェルス	49.5			11
			礫・礫片	A		表土	遺構確認作業中に出土		珪質頁岩	4.9			
			礫・礫片	A		表土	遺構確認作業中に出土		頁岩	71.2			2
			礫・礫片	A		表土	遺構確認作業中に出土		砂岩	78.5			5
			礫・礫片	A		表土	遺構確認作業中に出土		細粒輝石安山岩	4.6			
			礫・礫片	A		表土	遺構確認作業中に出土		変質玄武岩	12.5			
			礫・礫片	A		表土	遺構確認作業中に出土		ホルンフェルス	150.1			4

第 14 表　石器類の種別と石材

区	遺構No.	出土遺構	種別	ホルンフェルス	チャート	頁岩	砂岩	珪質粘板岩	珪質頁岩	安山岩	風化頁岩	黒色頁岩	黒曜石	赤玉石	流紋岩系石材	変質流紋岩	変質安山石材	粗粒輝石安山岩	石英斑岩	かこう岩	流紋岩	変質安山岩	変質粘板岩	細粒輝石安山岩	石英	閃緑岩	ひん岩	小計
A	1	住居	剥片系石器	3	3	2		1								1												10
A	2	住居	剥片系石器																									0
B	3	住居	剥片系石器	9	3			1			1	1	1										1					17
A	4	住居	剥片系石器	4	2				1	1																		8
A	5	住居	剥片系石器		1								1															2
A	6	住居	剥片系石器																									0
B	7	住居	剥片系石器	1																								1
A	4	土坑	剥片系石器																									0
A	7	土坑	剥片系石器																									0
A	8	土坑	剥片系石器																									0
A	14	土坑	剥片系石器				1																					1
A	16	土坑	剥片系石器	1																								1
B	21	土坑	剥片系石器	1																								1
A	23	土坑	剥片系石器																									0
B	25	土坑	剥片系石器																									0
A	6	ピット	剥片系石器	1																								1
A		表採	剥片系石器	3	1																							4
B		表採	剥片系石器	1	1						1																	3
A	1	住居	剥片	4	25	10					4	2	11															56
A	2	住居	剥片	2																								1
B	3	住居	剥片	47	26	16	3	1	1	1	4	6		1	2	2								1				110
A	4	住居	剥片	4	7	5	2				1																	19
A	5	住居	剥片	1	2		1																					4
A	6	住居	剥片	6									1															7
B	7	住居	剥片		4																							4
A	2	土坑	剥片	2																								2
A	8	土坑	剥片				3																					3
A	9	土坑	剥片	1																								1
A	11	土坑	剥片		1																							1
A	15	土坑	剥片	1	1		1																					3
A	16	土坑	剥片		1		1				1																	3
A	18	土坑	剥片	1																								1
A	22	土坑	剥片						1																			1
A	23	土坑	剥片	1	3																							4
B	1	トレンチ	剥片	1	1																							2
A		表土	剥片	5							1																	6
B		表土	剥片	11		1	1																					13
A	1	住居	礫石器	1											3			3										7
A	2	住居	礫石器												1			2										3
B	3	住居	礫石器	2											4			9	1									16
A	4	住居	礫石器												1			2					1					4
A	5	住居	礫石器															1										1
A	6	住居	礫石器															2										2
B	7	住居	礫石器															4										4
A	4	土坑	礫石器															1										1
A	7	土坑	礫石器												1													1
A	8	土坑	礫石器												1			1										2
A	14	土坑	礫石器																									0
A	16	土坑	礫石器																									0
B	21	土坑	礫石器															1										1
A	23	土坑	礫石器															2										2
B	25	土坑	礫石器															1										1
A	6	ピット	礫石器																									0
A		表採	礫石器	1														3										4
B		表採	礫石器																									0
A	1	住居	礫・碑片	21	21	10	43	1							11		2	7	5			3			1			125
A	2	住居	礫・碑片		2										1			1										3
B	3	住居	礫・碑片	18	19	9	20		1			1			6		1	20	1	3	1						1	101
A	4	住居	礫・碑片	6	3	6	66				1						4	8									1	95
A	5	住居	礫・碑片	1	2		6									1												11
A	6	住居	礫・碑片	1	3		10				1						1	1				1						18
B	7	住居	礫・碑片												2					2								4
A	8	住居	礫・碑片													1												1
A	2	土坑	礫・碑片	5	2	1												1										9
A	7	土坑	礫・碑片				1		1																			2
A	8	土坑	礫・碑片	1											1													2
A	9	土坑	礫・碑片	1	1													1										3
A	11	土坑	礫・碑片		2				1									1										4
A	12	土坑	礫・碑片															1										1
A	15	土坑	礫・碑片													1		1			1							3
A	16	土坑	礫・碑片															1										1
A	18	土坑	礫・碑片	1			1																					2
B	21	土坑	礫・碑片	1																								1
A	22	土坑	礫・碑片	2	3		3																					8
A	23	土坑	礫・碑片	2			1																					3
B	26	土坑	礫・碑片	1		1	1																					3
A	5	ピット	礫・碑片	2			2										1	1										6
A	1	溝	礫・碑片	1			2											1										4
A	2	トレンチ	礫・碑片	2			1																					3
A		攪乱	礫・碑片	6	1																							7
A		表採	礫・碑片															1										1
A		表土	礫・碑片	4		2	5		1							1		1										14
																												774

報告書抄録

書名ふりがな	うえのだいいせき　に
書　名	上ノ台遺跡（２）
副書名	単独道路改築（改良）事業（一般県道根利八木原大間々線）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書
シリーズ番号	477
編著者名	小島敦子　齋藤聡　山口逸弘　岩崎泰一
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20091022
作成法人 ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住　所	群馬県渋川市北橘町下箱田７８４番地２
遺跡名ふりがな	うえのだいいせき
遺 跡 名	上ノ台遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんみどりしおおままちしおばらあざうえのだい
遺跡所在地	群馬県みどり市大間々町塩原字上ノ台
市町村コード	10212
遺跡番号	O0024
北緯（日本測地系）	
東経（日本測地系）	
北緯（世界測地系）	362805
東経（世界測地系）	1391537
調査期間	20000901-20000930
調査面積	580
調査原因	道路建設
種　別	集落
主な時代	縄文
遺跡概要	集落－縄文－竪穴住居８＋土坑 26 ＋ピット７－縄文土器＋縄文石器＋石製品／その他－時代不明－溝２＋土坑３－陶器
特記事項	縄文時代の前期から中期にかけての集落遺跡。平成 17 年度に調査された上ノ台遺跡の北側に隣接する。渡良瀬川左岸の河岸段丘上に立地する。検出された住居は諸磯ｃ式期１軒、中期中葉（阿玉台式・勝坂式期）４軒、加曽利ＥⅠ式期３軒である。他に袋状９基、円形５基、楕円形４基、不整楕円形６基の土坑が検出されたが、半数以上が黒浜式期の土坑である。

参考文献

山田郡教育会 1939『山田郡誌』

大間々町誌刊行委員会 1996『大間々町誌「基礎資料Ⅵ」大間々町の遺跡』

大間々町誌刊行委員会 1996『大間々町誌「基礎資料Ⅶ」大間々町の地形と地質』

群馬県教育委員会 2005『上ノ台遺跡－一般県道根利八木原大間々線単独道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』

写 真 図 版

1．遺跡全景 (東から)

2．調査前の状況 (北から)

3．発掘区遠景 (北から)

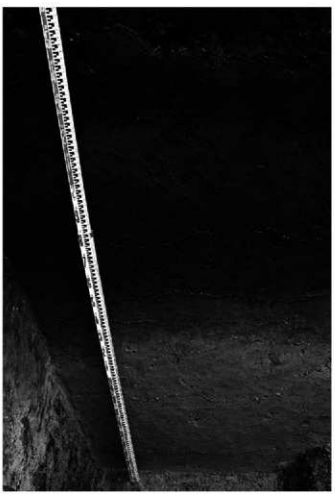
4．発掘区全景 (南から)

5．A区全景 (北から)

6．B区全景（南から）

1．表土掘削作業状況 (北から)

2．遺構確認作業状況 (北から)



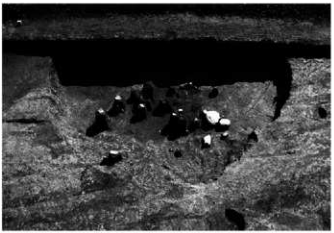
3．B区東壁基本土層(西から)

4．A区北壁基本土層(南から)

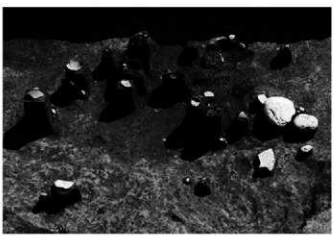
5．B区東壁基本土層観察作業（南西から）

6．地割れの土層断面 (南から)

1．A区１号住居土層断面B-B'(南から)



2．A区１号住居遺物出土状態全景(西から)



3．A区１号住居中央部遺物出土状態(西から)

4．A区１号住居南部礫出土状態(南から)

5．A区１号住居鉢出土状態(南東から)

6．A区１号住居床面精査作業状況(南から)

7．A区２号住居床面全景(西から)

8．A区１号・２号住居底面全景(西から)

1．A区２号住居炉検出状況(北から)

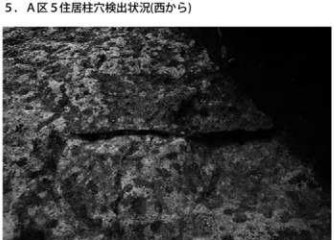
2．A区２号住居炉土層断面(南から)

3．A区５号住居土層断面 (南から)

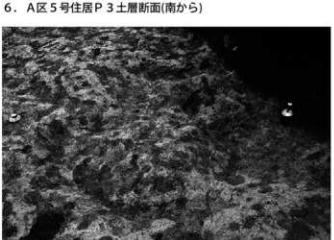
4．A区５住居床面全景(西から)

5．A区５住居柱穴検出状況(西から)

6．A区５号住居Ｐ３土層断面(南から)



7．A区５住居炉検出状況(南西から)



8．A区５住居炉全景(南西から)

1．B区３号住居土層断面B-B′(南から)

2．B区３号住居遺物出土状態全景(北から)

3．B区３号住居遺物出土状態(南から)

4．B区３号住居土層断面A-A′(西から)

5．B区３号住居全景(北から)

6．B区３号住居炉全景(東から)

7．B区３号住居炉体土器(南東から)

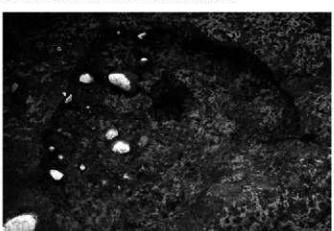
8．B区３号住居炉立ち割り(東から)

1．B区３号住居炉土層断面A-A´(東から)

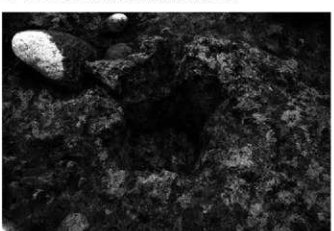
2．B区３号住居炉土層断面B-B´(南から)

3．B区３号住居炉体土器内土層断面(南から)

4．B区３号住居炉体土器内完掘状況(東から)

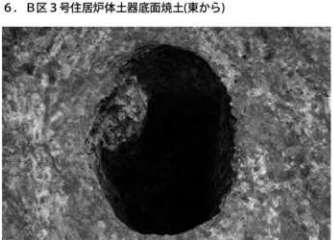


5．B区３号住居炉底面焼土(東から)



6．B区３号住居炉体土器底面焼土(東から)

7．B区３号住居Ｐ１土層断面(西から)



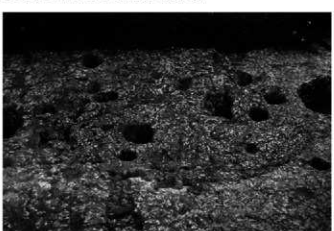
8．B区３号住居Ｐ１完掘状況(北西から)

1．B区３号住居Ｐ２土層断面(西から)

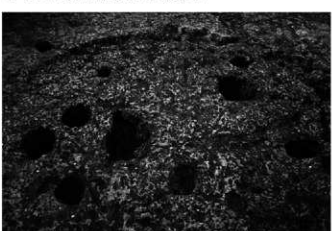
2．B区３号住居Ｐ２完掘状況(南西から)

3．B区４号住居土層断面B-B'(南から)

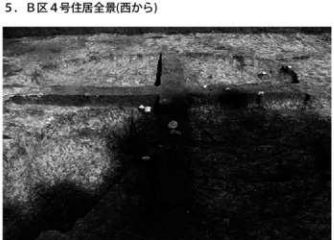
4．B区４号住居土層断面A-A'(西から)



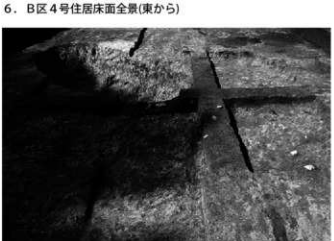
5．B区４号住居全景(西から)



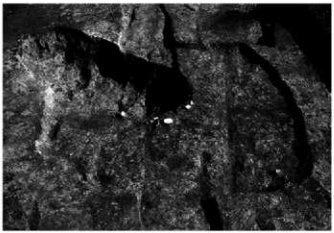
6．B区４号住居床面全景(東から)



7．A区６号住居土層断面B-B'(西から)

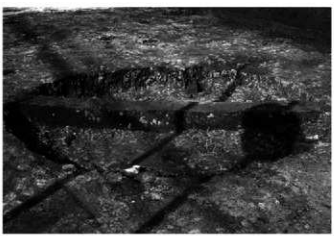


8．A区６号住居土層断面A-A'(南から)

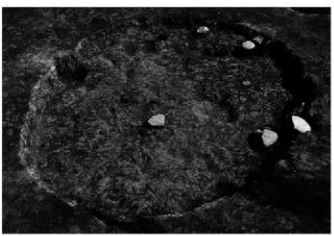


1．A区６号住居遺物出土状態全景(南から)

2．A区６号住居床面全景(南から)

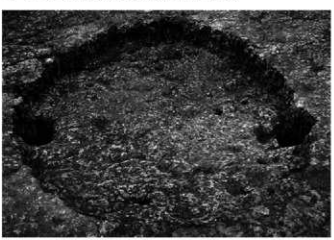


3．A区７号住居土層断面A-A'(南西から)

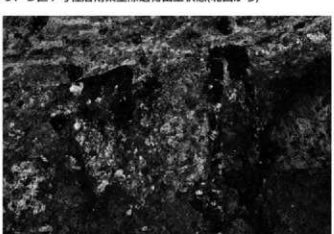


4．B区７号住居遺物出土状態全景(北西から)

5．B区７号住居南東壁際遺物出土状態(北西から)



6．B区７号住居床面全景(南東から)



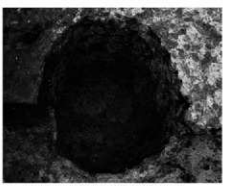
7．A区８号住居炉検出状況(北から)

8．A区８号住居全景(西から)

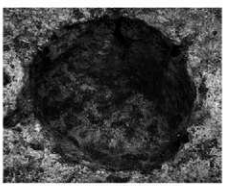
1．A区８号住居Ｐ１全景(東から)

2．A区８号住居Ｐ２土層断面(南から)

3．A区８号住居Ｐ２全景(南から)

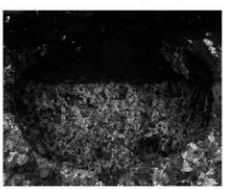

4．A区８号住居Ｐ３全景(北から)

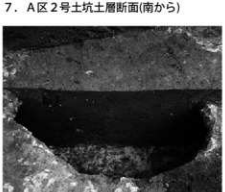
5．A区８号住居Ｐ４土層断面(南から)


6．A区８号住居Ｐ４全景(南から)

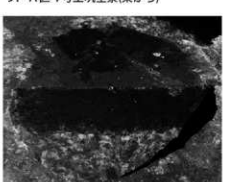
7．A区２号土坑土層断面(南から)

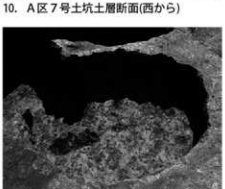
8．A区２号土坑全景(西から)

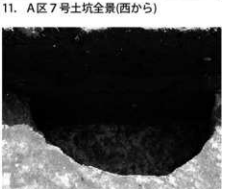

9．A区４号土坑全景(東から)


10．A区７号土坑土層断面(西から)

11．A区７号土坑全景(西から)


12．A区11号土坑土層断面(南西から)


13．A区11号土坑全景(北西から)

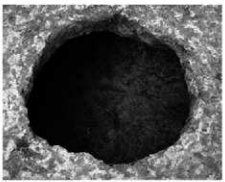

14．A区14号土坑全景(西から)

15．B区25号土坑全景(東から)

1．A区27号土坑土層断面(北から)

2．A区27号土坑全景(南から)

3．A区29号土坑土層断面(南から)


4．A区29号土坑全景(南から)

5．A区３号土坑全景(東から)

6．A区８号土坑土層断面(南西から)

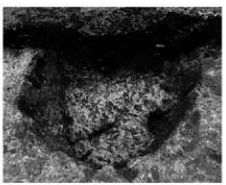
7．A区18・19号土坑全景(東から)

8．B区21号土坑土層断面(東から)

9．B区21号土坑全景(南から)

10．B区26号土坑土層断面(北から)

11．B区26号土坑全景(東から)


12．A区１号土坑全景(東から)

13．A区５号・６号土坑全景(西から)

14．A区22号・23号土坑土層断面(南東から)

15．A区22号・23号土坑全景(南東から)

1．A区９号土坑土層断面(南から)

2．A区９号土坑全景(北から)

3．A区10号土坑土層断面(南から)

4．A区10号土坑全景(南西から)

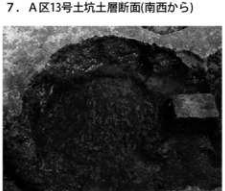
5．A区12号土坑土層断面(南西から)

6．A区12号土坑全景(南西から)

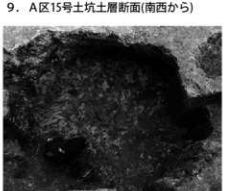
7．A区13号土坑土層断面(南西から)

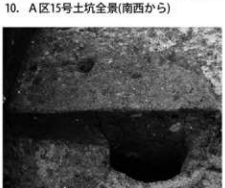
8．A区13号土坑全景(南から)

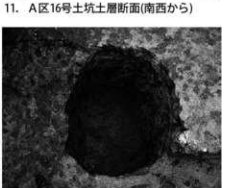
9．A区15号土坑土層断面(南西から)

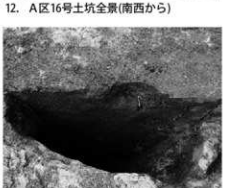

10．A区15号土坑全景(南西から)

11．A区16号土坑土層断面(南西から)


12．A区16号土坑全景(南西から)

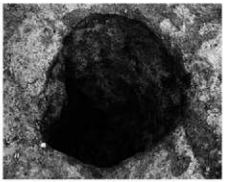

13．A区24号土坑土層断面(北から)


14．A区24号土坑全景(北から)

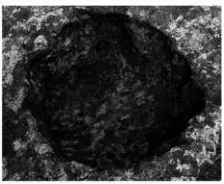

15．A区１号ピット土層断面(南から)

1．A区１号ピット全景(南から)

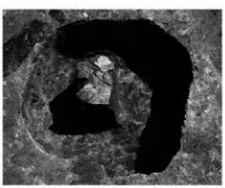
2．A区２号ピット土層断面(南から)


3．A区２号ピット全景(南から)

4．A区３号ピット土層断面(南から)

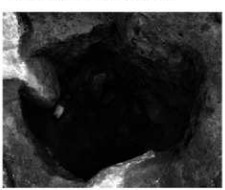

5．A区３号ピット全景(南から)

6．A区５号ピット土層断面(南から)


7．A区５号ピット全景(西から)

8．A区９号ピット土層断面(南から)

9．B区11号ピット土層断面(南から)


10．B区11号ピット全景(西から)

11．A区17号土坑土層断面(南から)

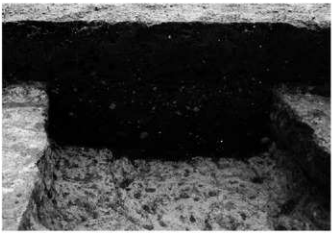
12．A区17号土坑全景(南から)

13．A区17号土坑底面全景(東から)

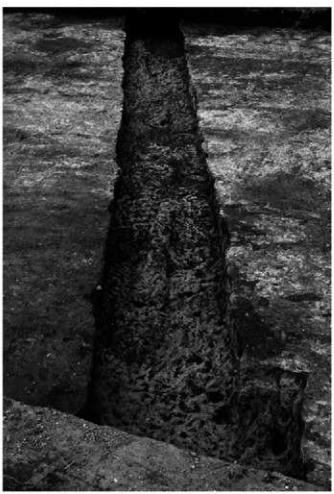
14．A区20号土坑土層断面(南から)

15．A区20号土坑底面全景(南から)

1．A区20号土坑底面調査状況(東から)



2．A区１号溝土層断面(南西から)



3．A区１号溝全景(北東から)

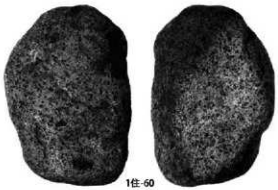
4．B区２号溝全景(西から)

5．埋め戻し作業状況 (北西から)

6．調査完了状況 (南から)

PL14

1住-1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52-1
52-2
53
54
55
56
57
58
59
61


1住-60

62

2住-1

2

3

3住-2

4

3住-1

3

4-3

4-4

4-1

4-2

5

6

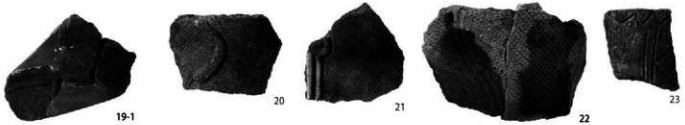
8-1

8-2

PL16

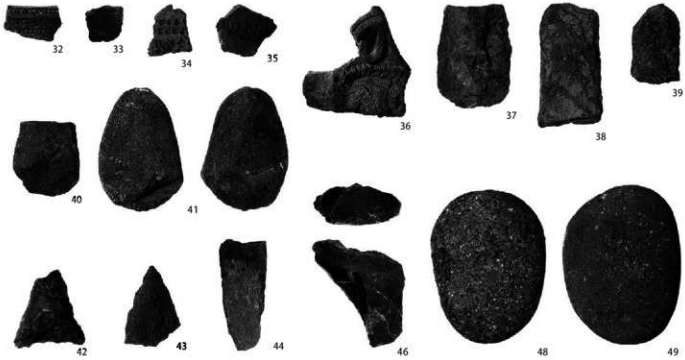
3住-7
9
10
11
12

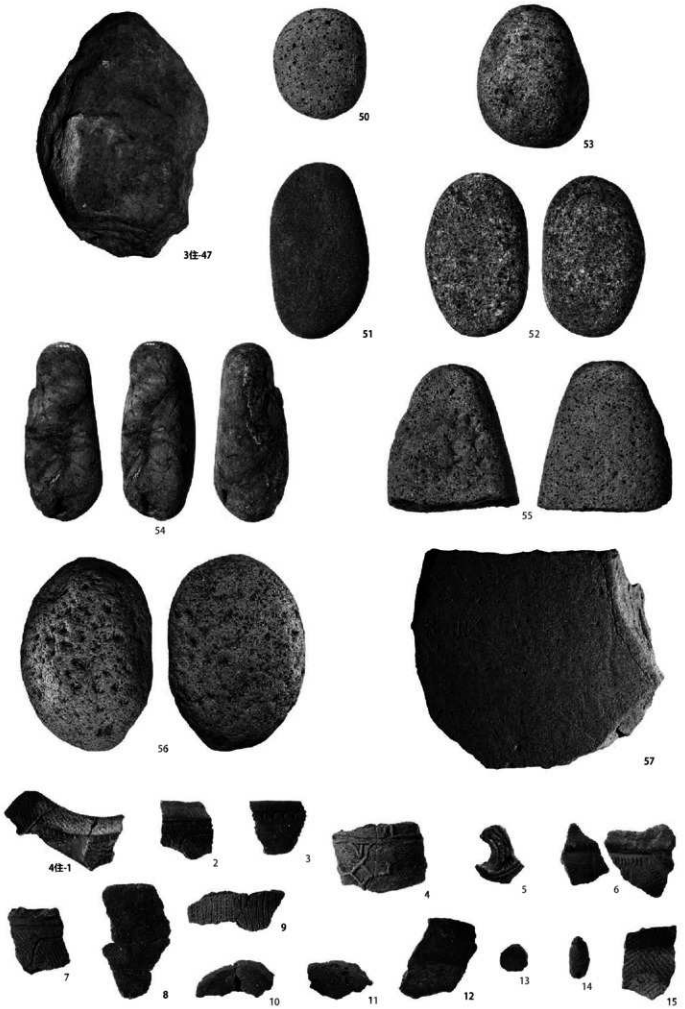
13
14
15
16
17
18


19-1
20
21
22
23

19-2
24
25
26
27-1

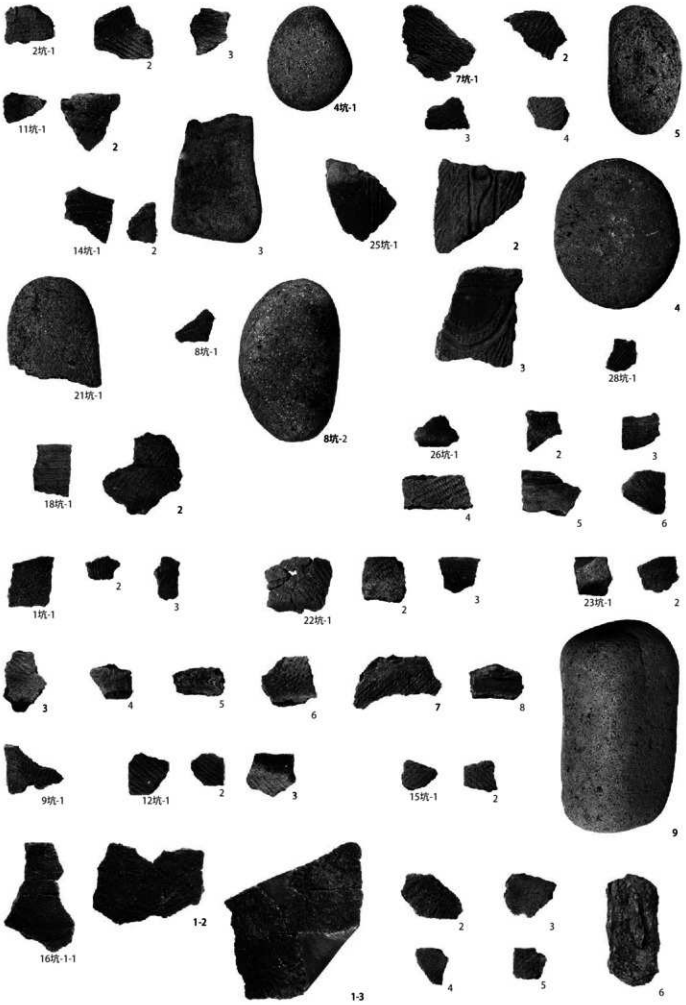
28
29
30-1
30-2
30-3
31


32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
46
48
49


3住-47
50
53
51
52
54
55
56
57
4住-1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

PL18

4住-16
17
19
21
22
18
20
23
5住-1
2
3
4
6住-1
2
3
4
5
6
7
8
5
6
9
10
11
12
7
8
9
7住-1
2
3
4
5
6
7
8
9
8住-1
8住-2


2坑-1
2
3
4坑-1
7坑-1
2
5
11坑-1
2
3
4
14坑-1
2
3
25坑-1
2
4
21坑-1
8坑-1
8坑-2
3
28坑-1
18坑-1
2
26坑-1
2
3
4
5
6
1坑-1
2
3
22坑-1
2
3
23坑-1
2
3
4
5
6
7
8
9
9坑-1
12坑-1
2
3
15坑-1
2
16坑-1-1
1-2
1-3
2
3
4
5
6

PL20

5ビ-1
遺構外-1
2
3
4
5ビ-2
6ビ-1
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19-1
19-2
19-3
20
21
22
23
24
25
26

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 477 集

上ノ台遺跡（2）　単独道路改築（改良）事業（一般県道　根利八本原大間々線）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 21 年 10 月 22 日　印刷
平成 21 年 10 月 22 日　発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒 377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田 784 番地の 2
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun/org/
印刷／川島美術印刷株式会社